

**鈴鹿市**  
**子ども・子育て支援事業に関する**  
**アンケート調査結果報告書**

**平成 31 年 3 月**  
**三重県 鈴鹿市**



# 目 次

<b>第1章 調査実施の概要</b> .....	<b>3</b>
1 調査の目的 .....	3
2 調査の設計 .....	3
3 調査票の配布と回収状況 .....	4
4 報告書の見方について .....	4
(1) 年齢, 学年の定義 .....	4
(2) 電算処理の注意点 .....	4
(3) グラフの見方について .....	5
5 調査対象者の属性, 家族状況 .....	5
(1) 就学前児童の属性 .....	5
(2) 小学生の属性 .....	6
(3) 居住地域の状況 .....	7
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無 .....	8
<b>第2章 子育て家庭を取り巻く環境</b> .....	<b>11</b>
1 子育ての環境について .....	11
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況 .....	11
(2) 子育てに関する相談者の状況 .....	15
2 保護者の就労状況 .....	17
(1) 母親の就労状況 .....	17
(2) 父親の就労状況 .....	23
3 子育て家庭を取り巻く環境における分析, 課題 .....	26
<b>第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望</b> .....	<b>31</b>
1 就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望 .....	31
(1) 平日の定期的な教育・保育事業 .....	31
(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由 .....	35
2 小学生の平日の定期的な子育て支援事業の利用現状等 .....	37
(1) 平日の定期的な子育て支援事業の利用状況 .....	37
(2) 定期的な子育て支援事業の利用理由と未利用の理由 .....	40
3 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望 .....	41
(1) 土曜日と日曜日, 祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望 .....	41
(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望 .....	47
4 地域の子育て支援事業の利用状況 .....	51
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況 .....	51

(2) 今後の利用意向 .....	53
(3) 子育て支援事業の認知度，利用状況と今後の利用意向について .....	54
5 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ .....	55
(1) 病気やケガで通常の事業が利用できない時の対処について .....	55
6 不定期の一時保育の利用について .....	62
(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況 .....	62
(2) 宿泊を伴う一時保育の利用状況 .....	68
7 放課後の過ごし方について .....	71
(1) 平日の放課後の過ごし方について .....	71
(2) 土曜日，日曜日，祝日，長期休暇期間中の 放課後児童クラブの利用希望 .....	76
8 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望における分析，課題 .....	79
<b>第4章 育児休業制度の利用状況 .....</b>	<b>85</b>
1 育児と仕事の両立支援制度について .....	85
(1) 支援制度の認知状況 .....	85
(2) 育児休業制度の利用状況 .....	85
(3) 職場復帰の状況 .....	87
(4) 短時間勤務制度の利用状況 .....	90
(5) 育児休業取得期間の希望 .....	91
2 子育ての環境や支援への満足度 .....	92
3 育児休業制度の利用状況，子育ての環境や支援の 満足度における分析，課題 .....	95
<b>第5章 子ども・子育て支援に関する自由意見 .....</b>	<b>99</b>
1 就学前児童の保護者の自由意見（共起ネットワーク） .....	99
2 就学前児童の保護者の自由意見 .....	100
3 小学生の保護者の自由意見（共起ネットワーク） .....	106
4 小学生の保護者の自由意見 .....	107
5 子ども・子育て支援に関する自由意見における分析，課題 .....	112
<b>資 料 編 .....</b>	<b>115</b>
1 就学前児童の調査票 .....	115
2 小学生の調査票 .....	127

# 第1章

## 調査実施の概要



# 第1章 調査実施の概要

## 1 調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、全ての子どもや子育て家庭が健やかに成長することができる社会の実現を目指して、平成27年3月に「鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいますが、本計画が平成27年度から31年度までの5か年計画であることから、2020年度を始期とする第2期計画の策定を予定しています。

第2期計画策定にあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭のニーズの動向分析等を行い、本市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題の整理を目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

## 2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数及び調査期間、方法は、以下のとおりです。

### ■ 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「鈴鹿市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査【就学前児童保護者用】」	
調査対象者	鈴鹿市に居住する就学前児童の保護者から無作為抽出
調査票配布数	2,400人
調査期間	平成30年12月26日～平成31年1月21日
調査方法	郵送配布, 郵送回収
②調査票「鈴鹿市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査【小学生保護者用】」	
調査対象者	鈴鹿市に居住する小学生の保護者から無作為抽出
調査票配布数	1,600人
調査期間	平成30年12月26日～平成31年1月21日
調査方法	郵送配布, 郵送回収

### 3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布、回収状況は、以下のとおりです。

#### ■ 調査票の配布、回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童の保護者	2,400	1,187	49.5
小学生の保護者	1,600	797	49.8

### 4 報告書の見方について

#### (1) 年齢、学年の定義

就学前児童、小学生の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	平成29年4月以降	6歳児	平成23年4月～平成24年3月
1歳児	平成28年4月～平成29年3月	7歳児	平成22年4月～平成23年3月
2歳児	平成27年4月～平成28年3月	8歳児	平成21年4月～平成22年3月
3歳児	平成26年4月～平成27年3月	9歳児	平成20年4月～平成21年3月
4歳児	平成25年4月～平成26年3月	10歳児	平成19年4月～平成20年3月
5歳児	平成24年4月～平成25年3月	11歳児	平成18年4月～平成19年3月

(注) 調査期間【平成30年度】における年齢定義

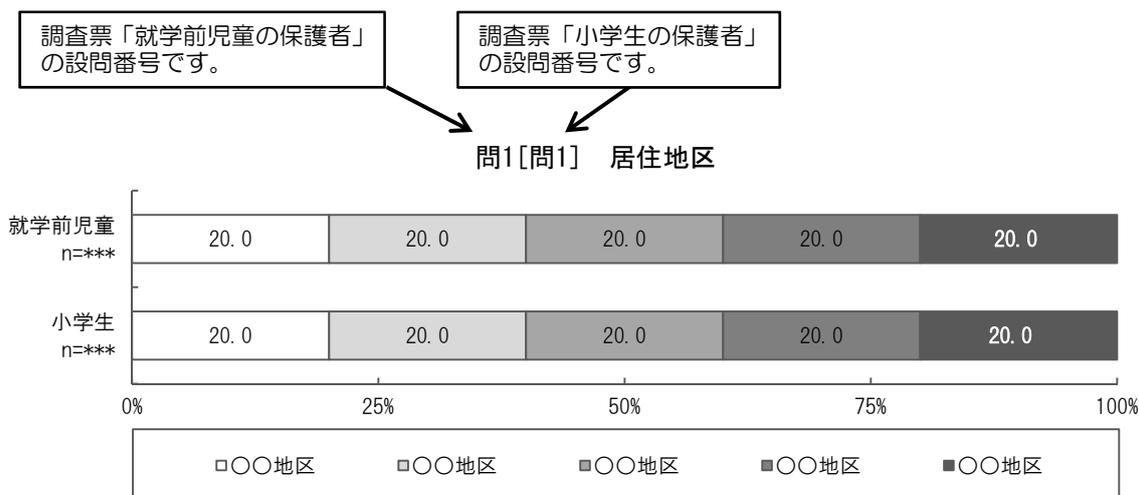
#### (2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

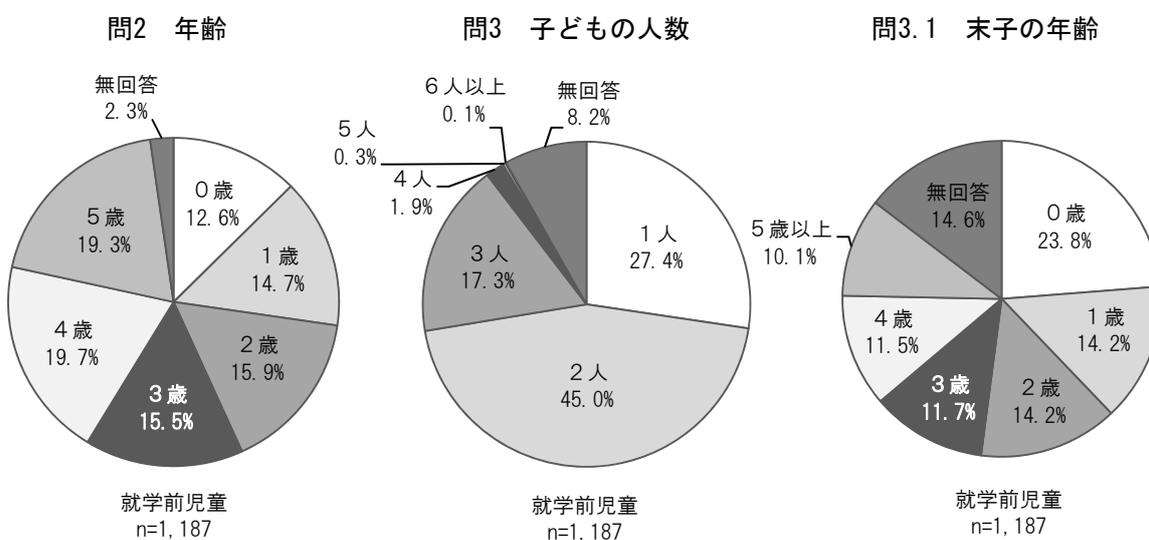
### (3) グラフの見方について



## 5 調査対象者の属性、家族状況

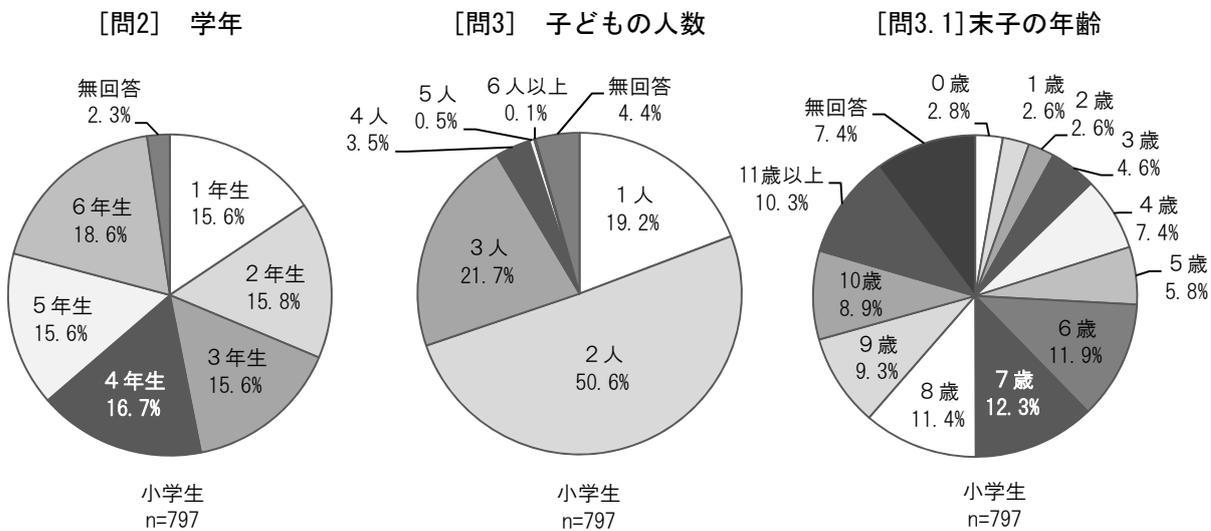
### (1) 就学前児童の属性

○回答された1,187人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



## (2) 小学生の属性

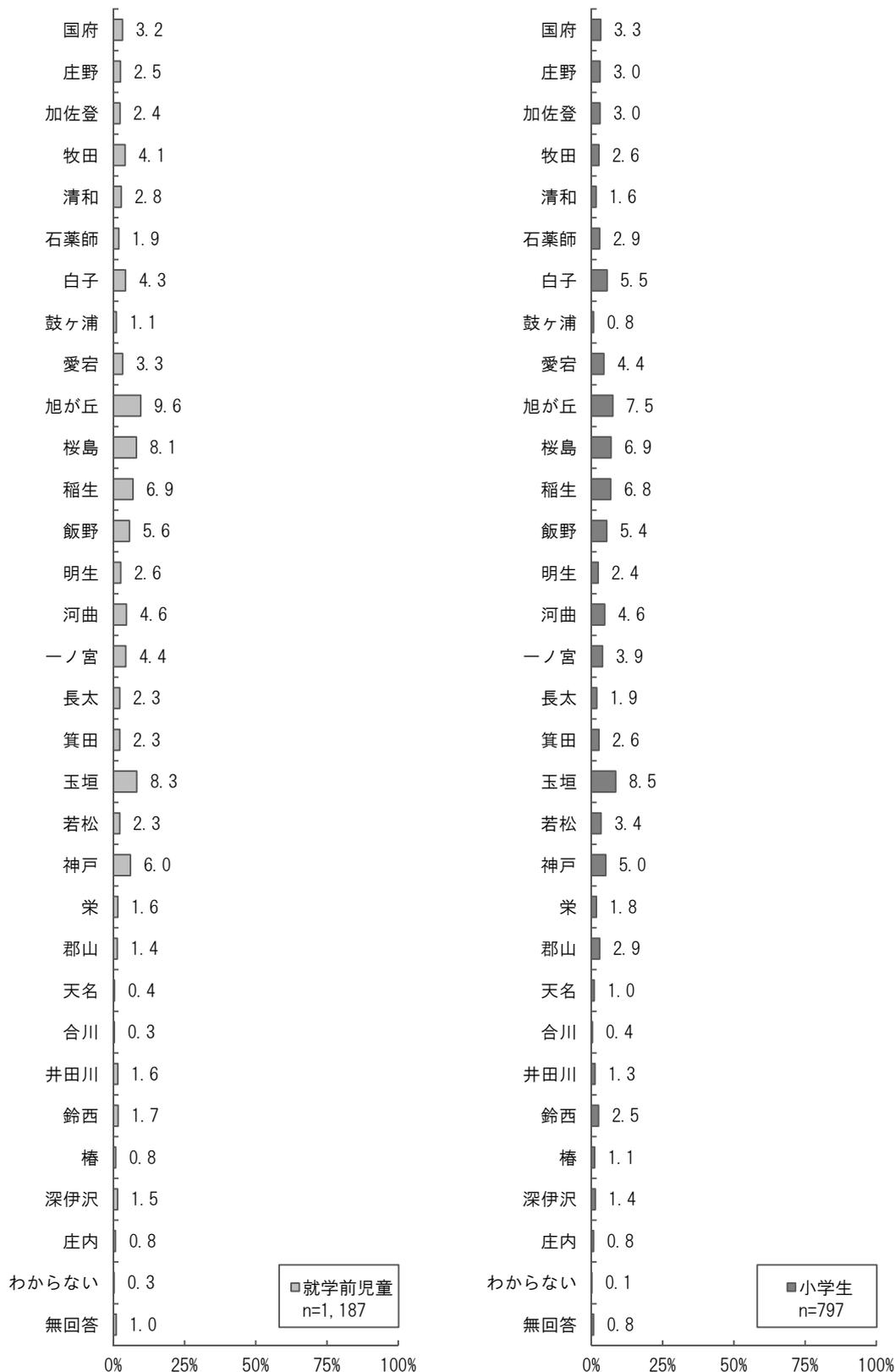
○回答された797人の小学生の属性は、以下のとおりです。



### (3) 居住地域の状況

○回答者が居住する小学校区は、以下のとおりです。

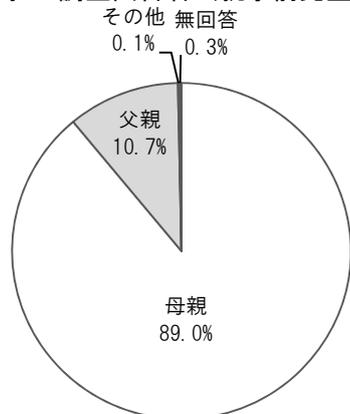
問1[問1] 居住地区



### (4) 調査回答者の状況と配偶者の有無

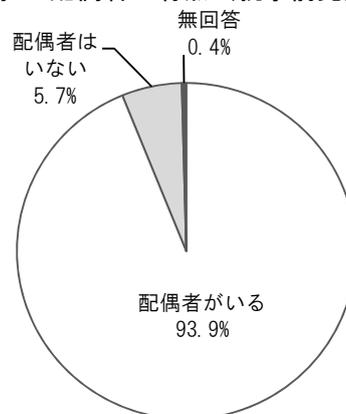
○この調査の回答者は、以下のとおりです。

問4 調査回答者（就学前児童）



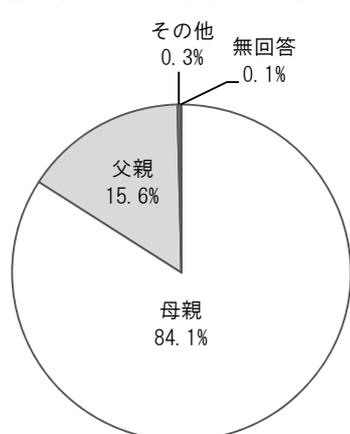
就学前児童  
n=1,187

問5 配偶者の有無（就学前児童）



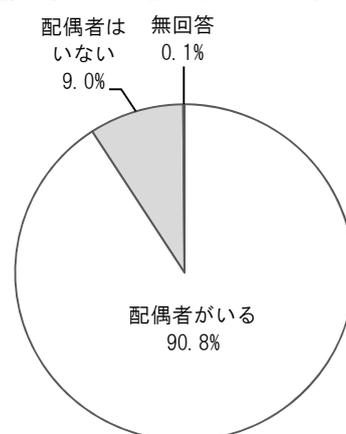
就学前児童  
n=1,187

[問4] 調査回答者（小学生）



小学生  
n=797

[問5] 配偶者の有無（小学生）



小学生  
n=797

## **第2章**

### **子育て家庭を取り巻く環境**



## 第2章 子育て家庭を取り巻く環境

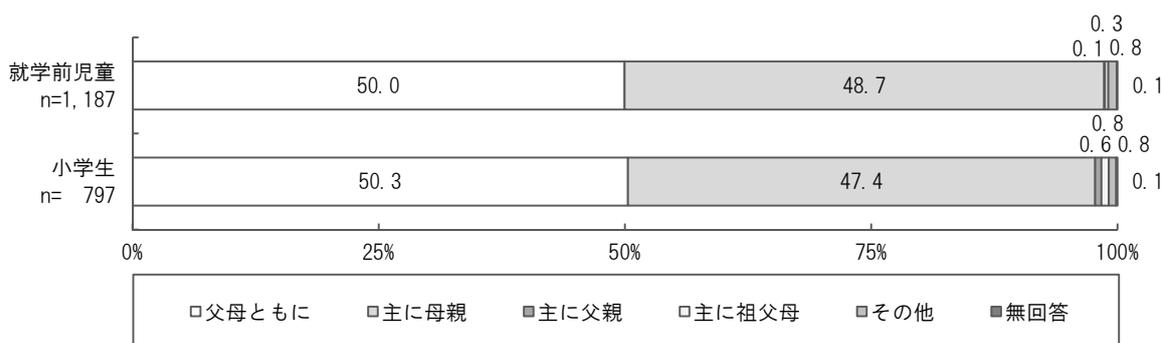
### 1 子育ての環境について

#### (1) 主な保育者と親族等協力者の状況

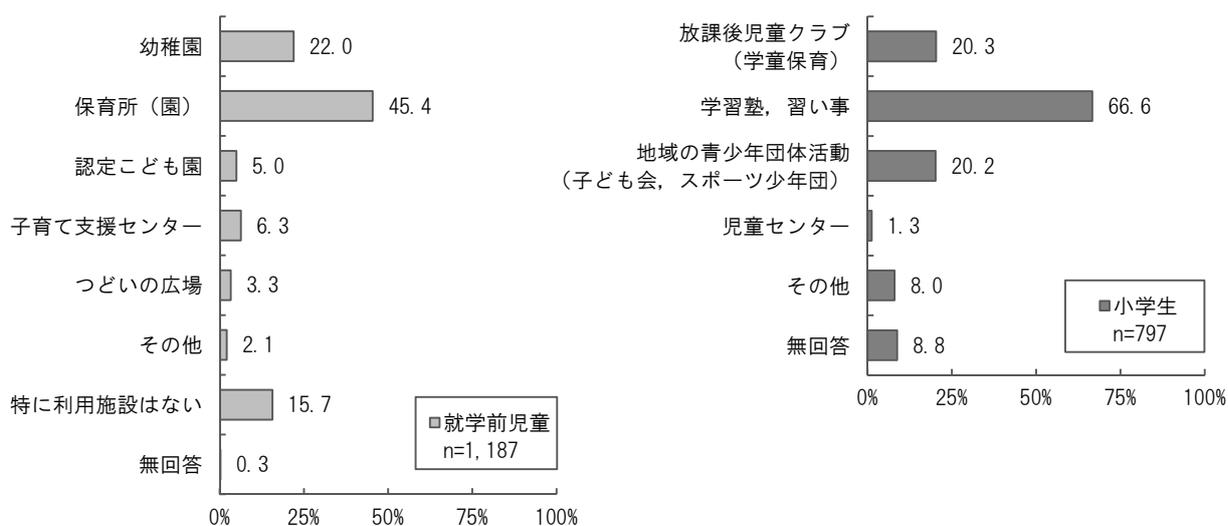
○主な保育者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「父母ともに」「主に母親」が9割以上を占めています。

○日常的に子育てに関わっているものをみると、就学前児童では、「保育所（園）」（45.4%）が最も高く、次いで「幼稚園」（22.0%）となっています。また、「特に利用施設はない」（15.7%）となっています。小学生では、「学習塾、習い事」（66.6%）が最も高く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」（20.3%）、「地域の青少年団体活動（子ども会、スポーツ少年団）」（20.2%）となっています。

問6[問6] 主な保育者の状況



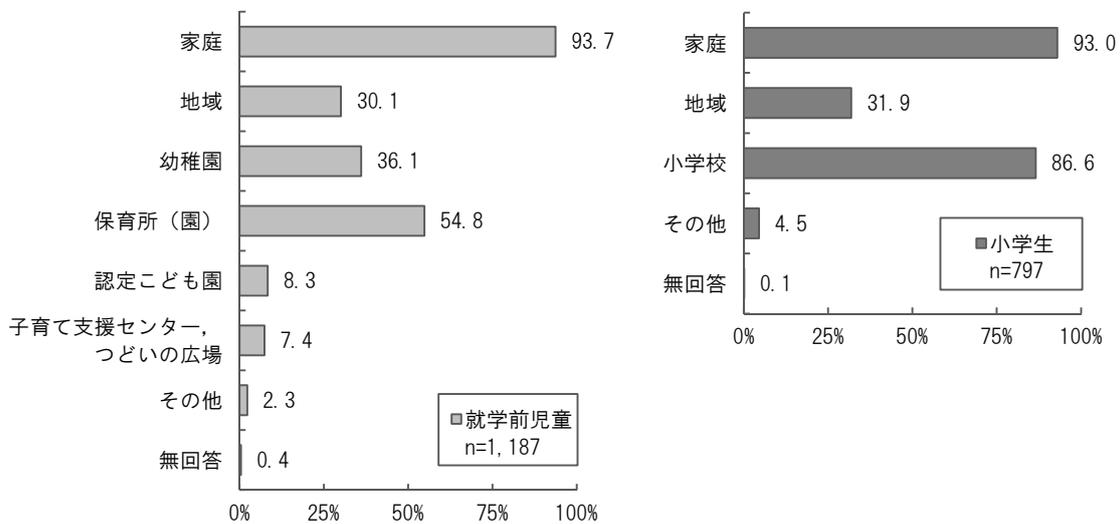
問7[問7] 日常的に子育てに関わっているもの（施設含む）



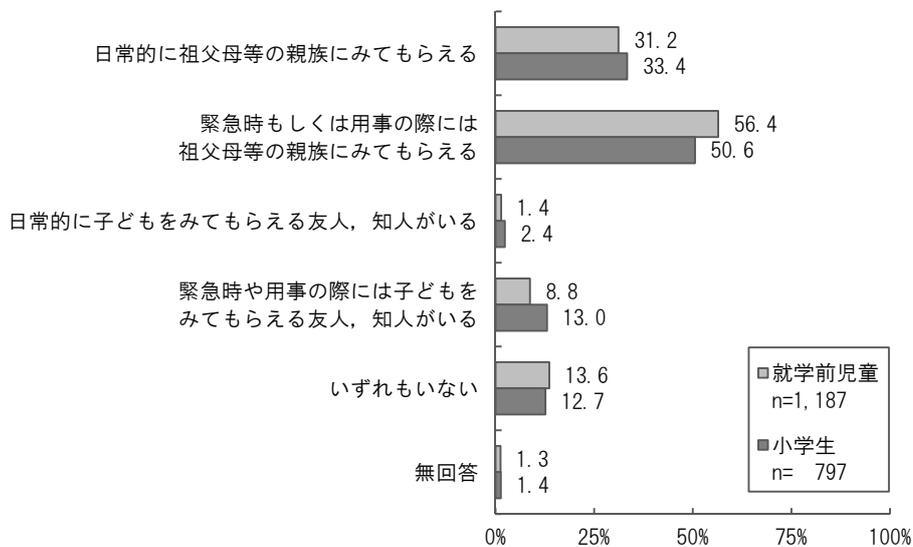
○子育てに影響を与える環境をみると、就学前児童では、「家庭」(93.7%)が最も高く、次いで「保育所(園)」(54.8%)、「幼稚園」(36.1%)となっています。小学生では、「家庭」(93.0%)が最も高く、次いで「小学校」(86.6%)、「地域」(31.9%)となっています。

○親族、知人等協力者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童56.4%、小学生50.6%)、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童31.2%、小学生33.4%)と回答した方が多い一方で、「いずれもない」と回答した方が就学前児童、小学生の保護者ともに1割強いるという状況です。

問8[問8] 子育てに影響を与えると思う環境 (複数回答)

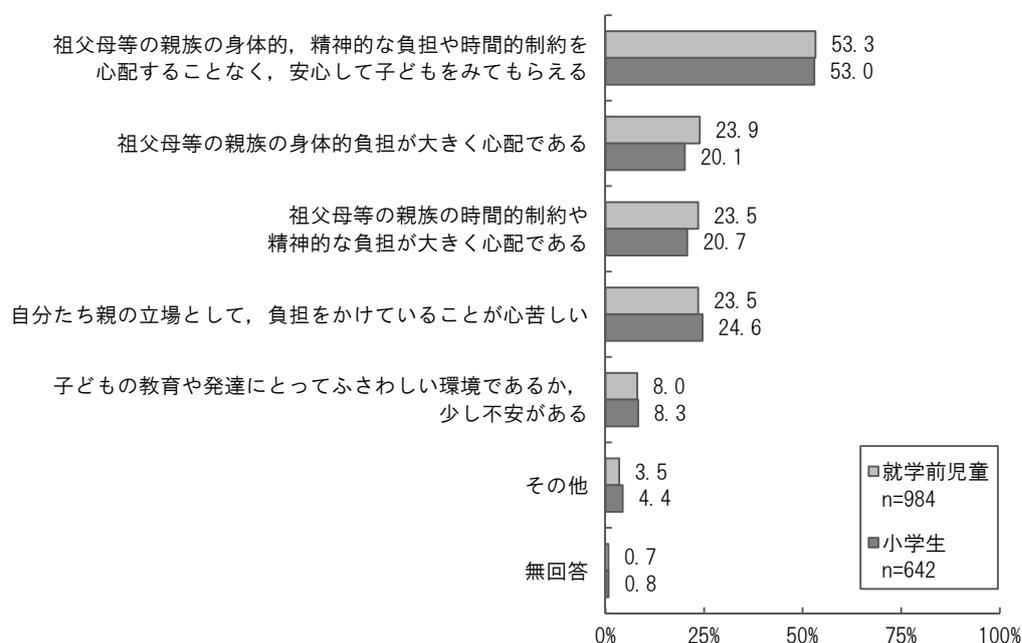


問9[問9] 親族、知人等協力者の状況 (複数回答)



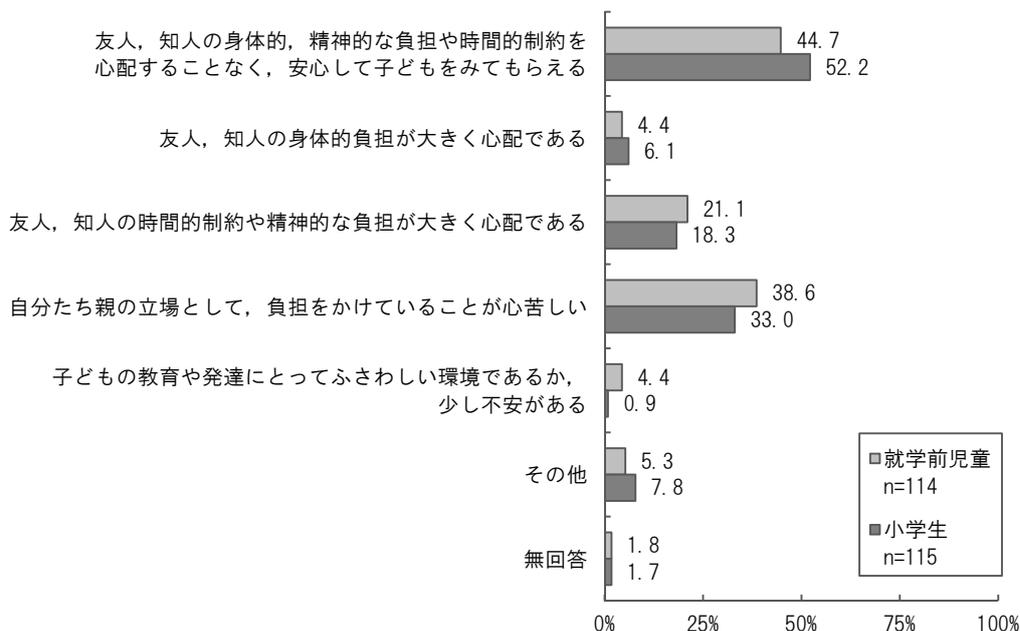
○祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（就学前児童53.3%、小学生53.0%）が最も高いものの、一方で、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」（就学前児童23.9%、小学生20.1%）、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（就学前児童23.5%、小学生20.7%）「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（就学前児童23.5%、小学生24.6%）と祖父母等の負担を心配しながらみてもらっている割合も高くなっています。

問9-1[問9-1] 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え（複数回答）



○友人，知人に子どもを預かってもらっている状況をみると，就学前児童，小学生いずれも「友人，知人の身体的，精神的な負担や時間的制約を心配することなく，安心して子どもをみてもらえる」（就学前児童44.7%，小学生52.2%）が最も高いものの，一方で，「自分たち親の立場として，負担をかけていることが心苦しい」（就学前児童38.6%，小学生33.0%）「友人，知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（就学前児童21.1%，小学生18.3%）と回答した方の割合も多く，友人，知人の負担を心配しながらみてもらっている状況です。

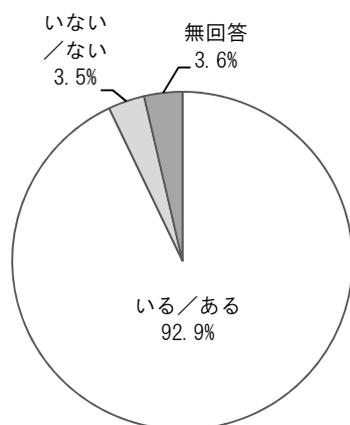
問9-2[問9-2] 友人，知人に子どもをみてもらうことへの考え（複数回答）



## (2) 子育てに関する相談者の状況

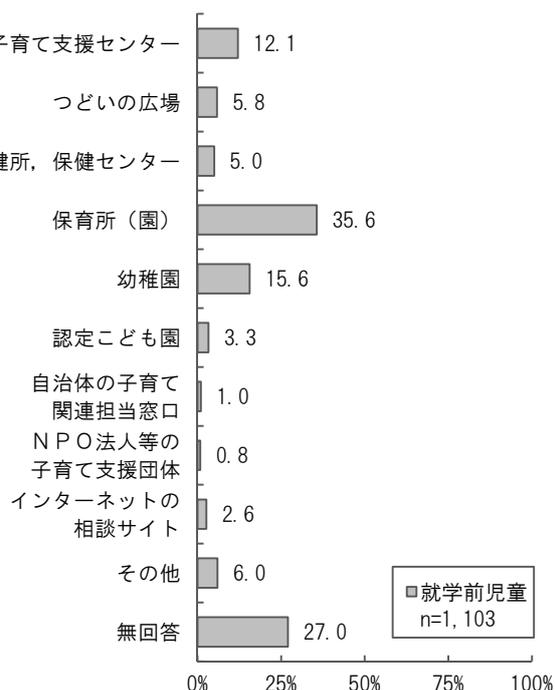
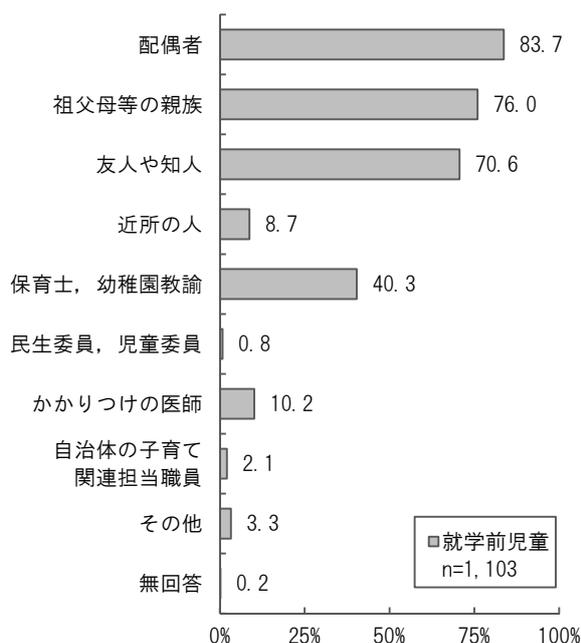
- 気軽に相談できる人の有無をみると、就学前児童では、「いる／ある」が9割以上を占めています。
- 気軽に相談できる人の状況をみると、就学前児童では、「配偶者」(83.7%)が最も高く、次いで「祖父母等の親族」(76.0%)、「友人や知人」(70.6%)となっています。
- 気軽に相談できる場所をみると、就学前児童では、「保育所(園)」(35.6%)が最も高く、次いで「幼稚園」(15.6%)、「子育て支援センター」(12.1%)となっています。

問10 子育てに関して気軽に相談できる人の有無



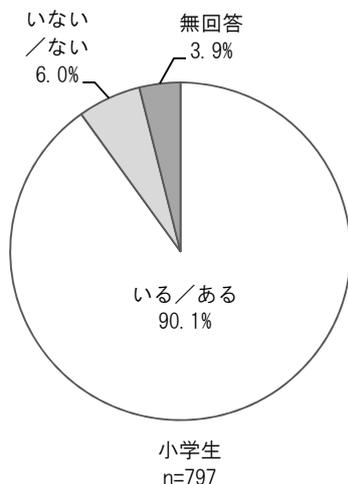
就学前児童  
n=1,187

問10-1(1) 気軽に相談できる人(複数回答) 問10-1(2) 気軽に相談できる場所(複数回答)

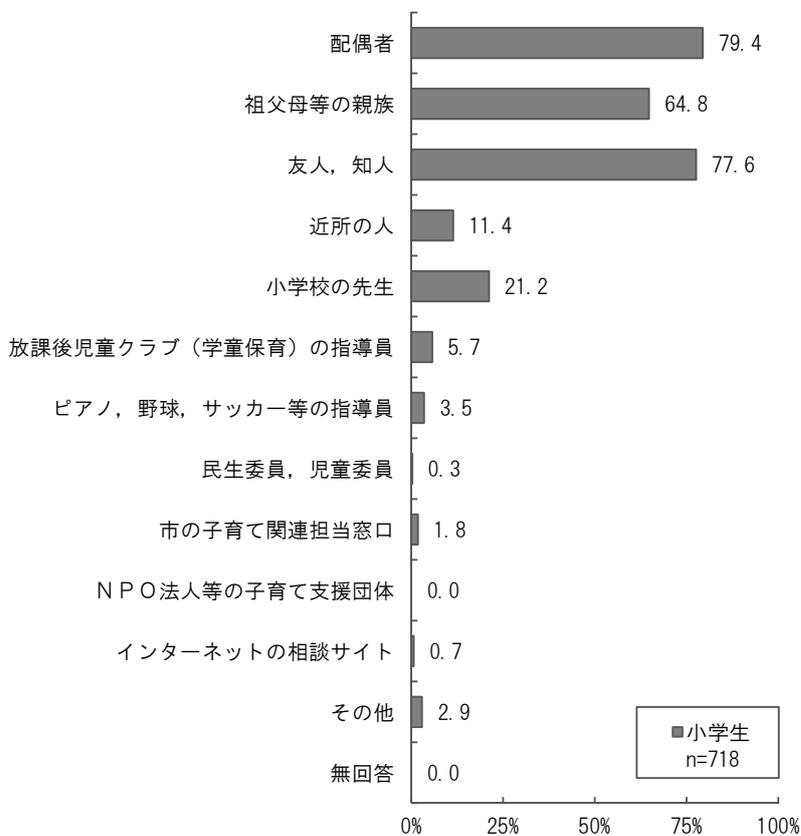


- 気軽に相談できる人の有無をみると、小学生では、「いる／ある」が9割を占めています。
- 気軽に相談できる人の状況をみると、小学生では、「配偶者」(79.4%)が最も高く、次いで「友人や知人」(77.6%)、「祖父母等の親族」(64.8%)となっています。

[問10] 子育てに関して気軽に相談できる人の有無



[問10-1] 気軽に相談できる人等（複数回答）



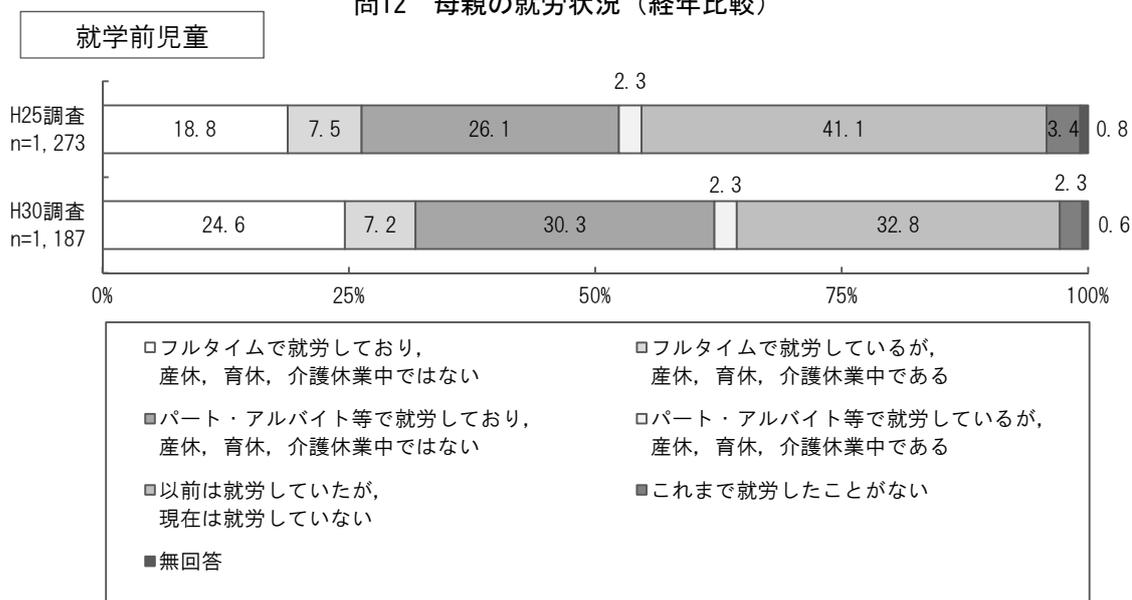
## 2 保護者の就労状況

### (1) 母親の就労状況

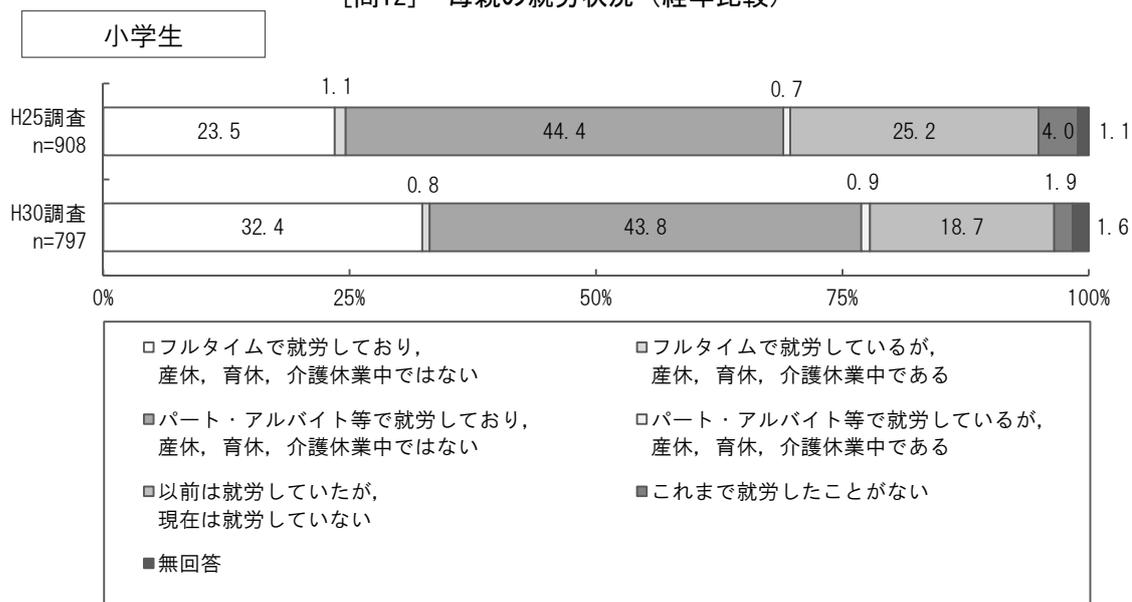
○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童が64.4%、小学生が77.9%となっています。そのうち産休、育休、介護休業を取得中の方は、就学前児童が9.5%、小学生が1.7%となっています。

○前回調査と比較すると、就労している母親は、就学前児童が9.7<sup>ポイント</sup>、小学生が8.2<sup>ポイント</sup>高くなっています。

問12 母親の就労状況（経年比較）



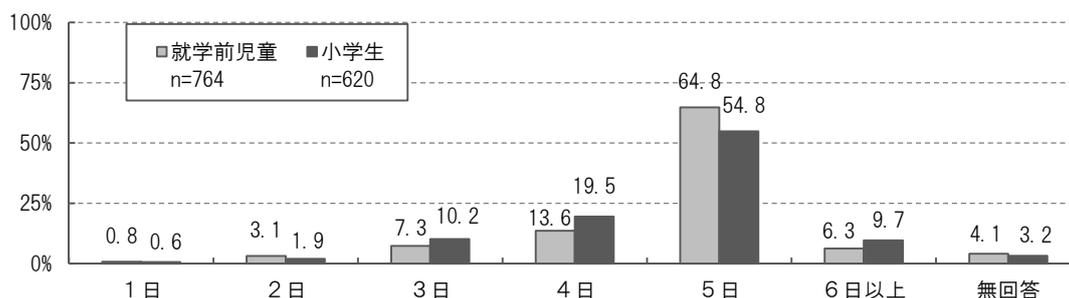
[問12] 母親の就労状況（経年比較）



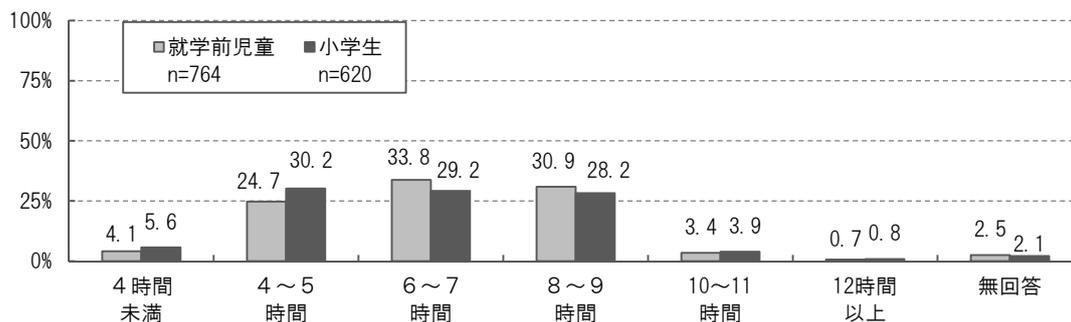
○母親の就労日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「5日」（就学前児童64.8%、小学生54.8%）が最も高く、次いで「4日」（就学前児童13.6%、小学生19.5%）、「3日」（就学前児童7.3%、小学生10.2%）となっています。

○母親の就労時間をみると、就学前児童では「6～7時間」（33.8%）が最も高く、次いで「8～9時間」（30.9%）、「4～5時間」（24.7%）となっています。小学生では「4～5時間」（30.2%）が最も高く、次いで「6～7時間」（29.2%）、「8～9時間」（28.2%）となっています。

問12-1(1) [問12-1(1)] 母親の就労日数（1週当たり）



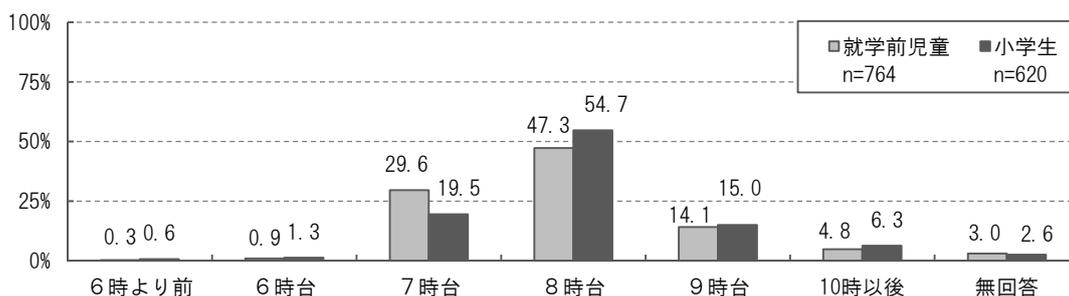
問12-1(1) [問12-1(1)] 母親の就労時間（1日当たり）



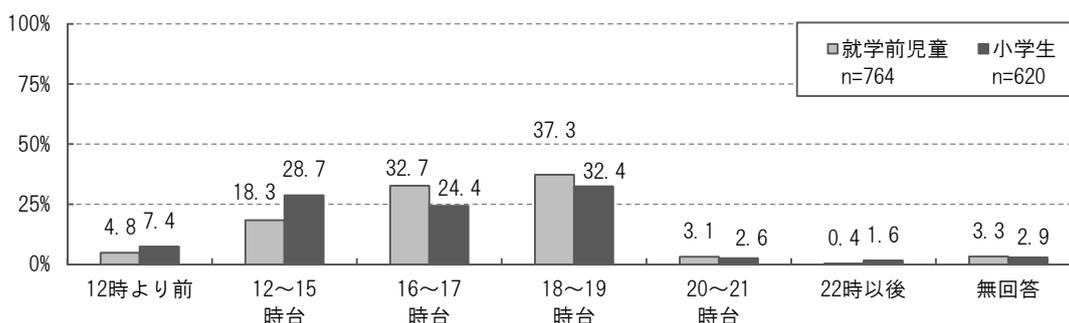
○母親の出勤時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「8時台」(就学前児童47.3%、小学生54.7%)が最も高く、次いで「7時台」(就学前児童29.6%、小学生19.5%)、「9時台」(就学前児童14.1%、小学生15.0%)となっています。

○母親の帰宅時間をみると、就学前児童では「18～19時台」(37.3%)が最も高く、次いで「16～17時台」(32.7%)、「12～15時台」(18.3%)となっています。小学生では、「18～19時台」(32.4%)が最も高く、次いで「12～15時台」(28.7%)、「16～17時台」(24.4%)となっています。

問12-1(2) [問12-1(2)] 母親の出勤時間

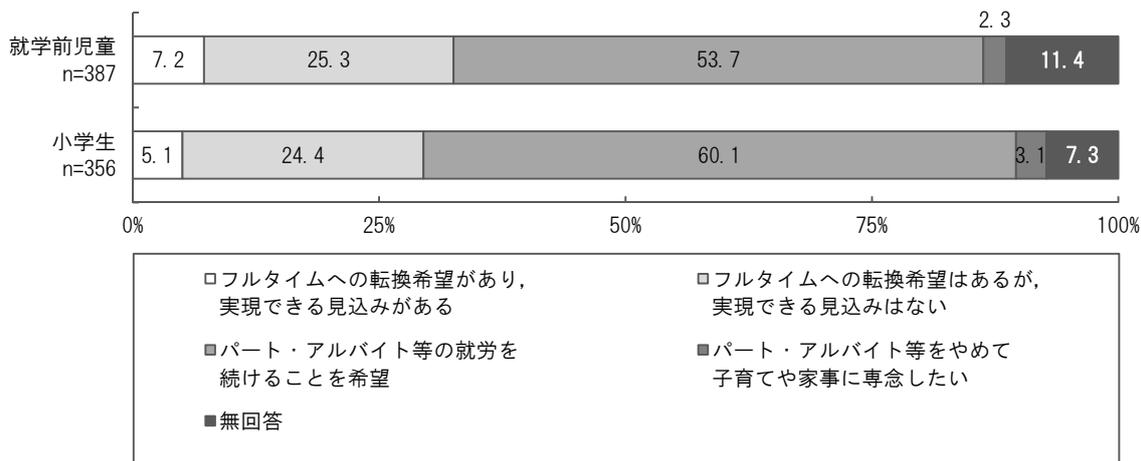


問12-1(2) [問12-1(2)] 母親の帰宅時間



○母親のフルタイム勤務に対する意向をみると、就学前児童、小学生いずれも「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答した方が半数以上を占めていますが、約3割にフルタイムへの転換希望があるものの、4分の3以上が実現できる見込みがない状況です。

問12-2[問12-2] 母親のフルタイム勤務に対する意向

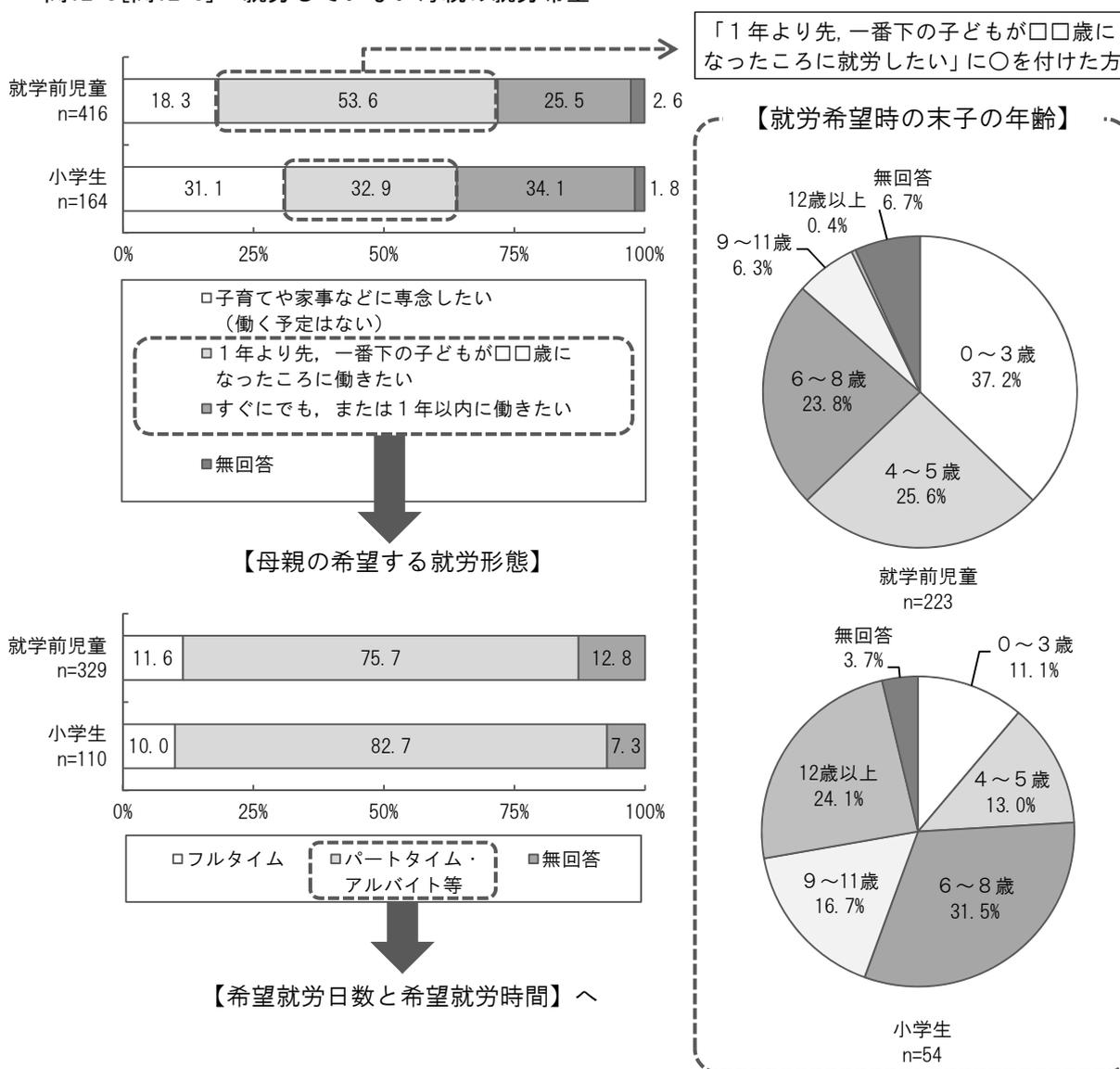


○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望をみると、就学前児童では79.1%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに働きたい」(53.6%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(25.5%)となっています。小学生では67.0%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに働きたい」(32.9%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(34.1%)となっています。

○現在就労していないが、今度就労したい母親の希望する就労形態をみると、就学前児童では「パートタイム・アルバイト等」(75.7%)、「フルタイム」(11.6%)となっています。小学生では「パートタイム・アルバイト等」(82.7%)、「フルタイム」(10.0%)となっています。

○現在就労していないが、今度就労したい母親の希望する就労時期となる子どもの年齢は就学前児童では「0～3歳」(37.2%)、小学生では「6～8歳」(31.5%)が最も高くなっています。

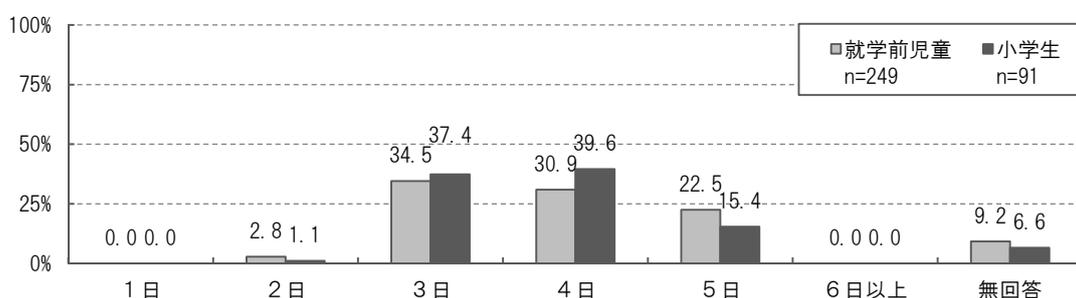
問12-3[問12-3] 就労していない母親の就労希望



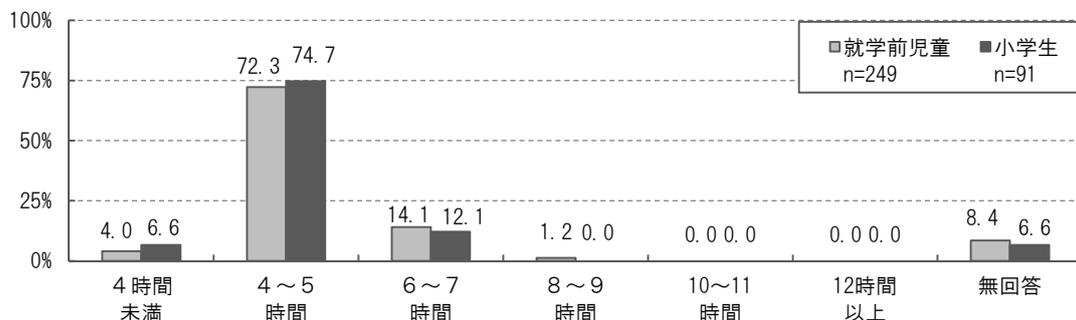
○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数をみると、就学前児童では「3日」(34.5%)が最も高く、次いで「4日」(30.9%),「5日」(22.5%)となっています。小学生では「4日」(39.6%)が最も高く、次いで「3日」(37.4%),「5日」(15.4%)となっています。

○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「4～5時間」(就学前児童72.3%,小学生74.7%)が最も高く、次いで「6～7時間」(就学前児童14.1%,小学生12.1%),「4時間未満」(就学前児童4.0%,小学生6.6%)となっています。

問12-3[問12-3] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数(1週当たり)



問12-3[問12-3] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間(1日当たり)

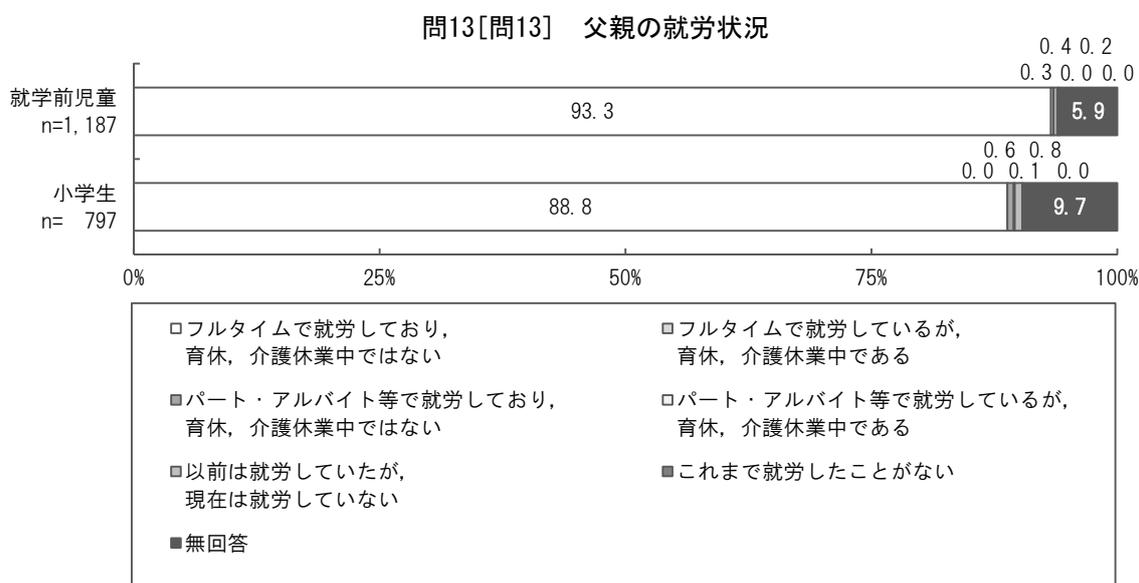


## (2) 父親の就労状況

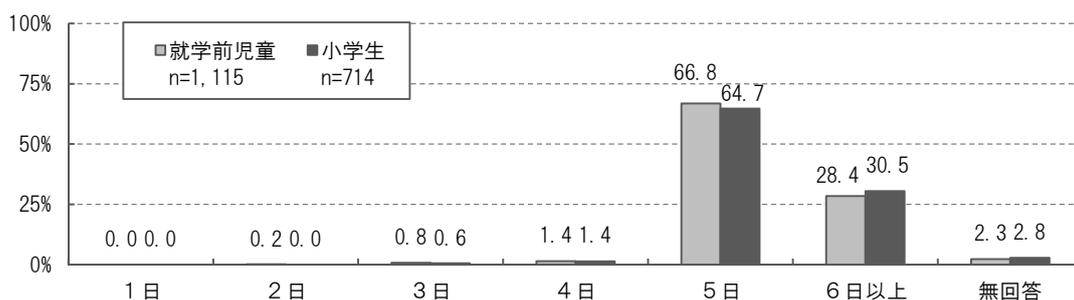
○父親の就労状況をみると、就学前児童、小学生いずれも約9割が「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」となっています。

○父親の就労日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「5日」(就学前児童66.8%、小学生64.7%)が最も高く、次いで「6日」(就学前児童28.4%、小学生30.5%)となっています。

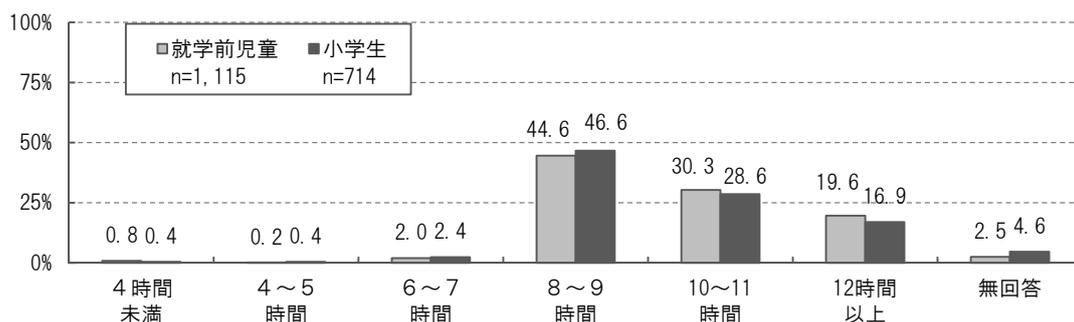
○父親の就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「8～9時間」(就学前児童44.6%、小学生46.6%)が最も高く、次いで「10～11時間」(就学前児童30.3%、小学生28.6%)、「12時間以上」(就学前児童19.6%、小学生16.9%)となっています。



問13-1(1)[問13-1(1)] 父親の就労日数(1週当たり)



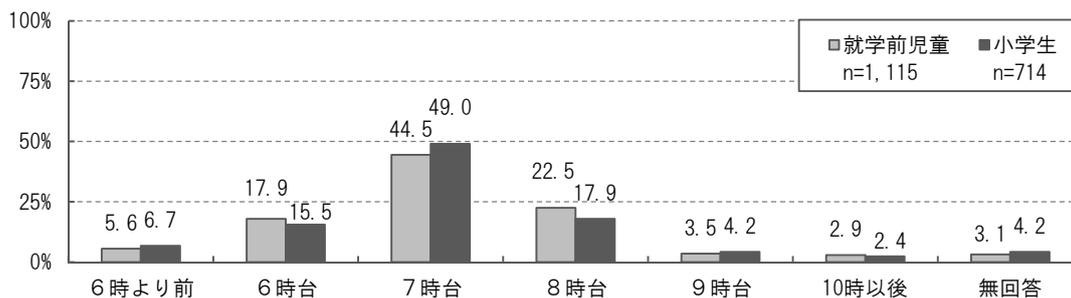
問13-1(1)[問13-1(1)] 父親の就労時間(1日当たり)



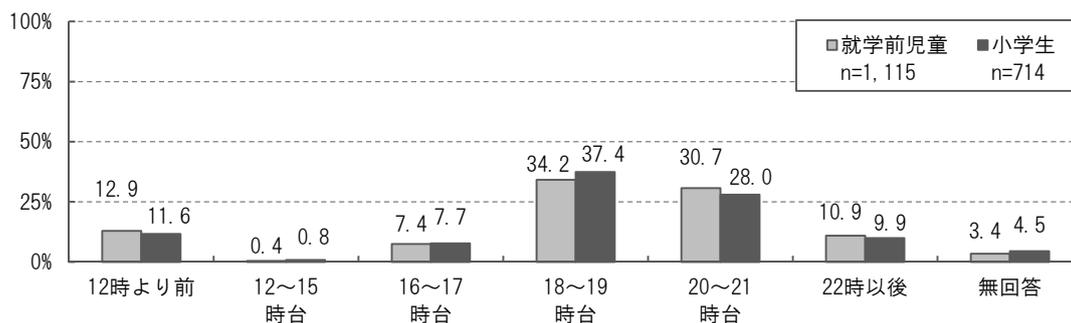
○父親の出勤時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「7時台」(就学前児童44.5%、小学生49.0%)が最も高く、次いで「8時台」(就学前児童22.5%、小学生17.9%)、「6時台」(就学前児童17.9%、小学生15.5%)となっています。

○父親の帰宅時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「18～19時台」(就学前児童34.2%、小学生37.4%)が最も高く、次いで「20～21時台」(就学前児童30.7%、小学生28.0%)、「12時より前」(就学前児童12.9%、小学生11.6%)となっています。

問13-1(2) [問13-1(2)] 父親の出勤時間

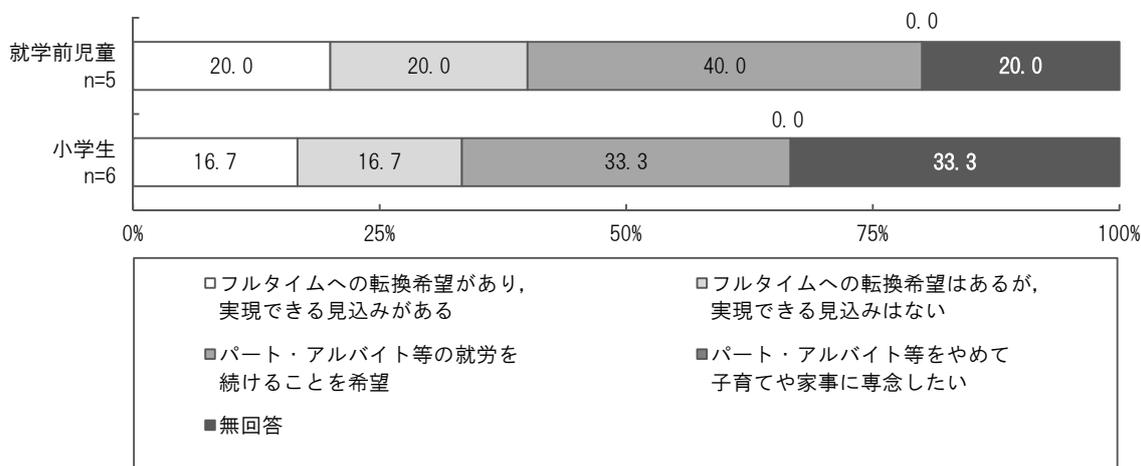


問13-1(2) [問13-1(2)] 父親の帰宅時間



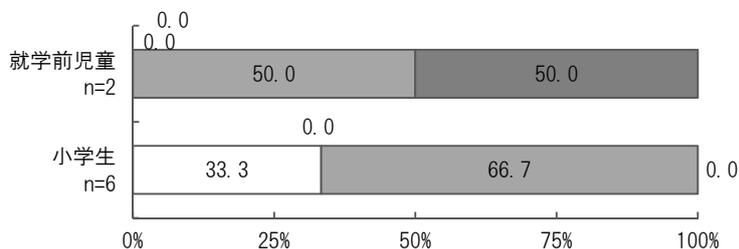
○父親のパートタイムからフルタイムへの転換意向は以下のとおりです。

問13-2 [問13-2] 父親のフルタイム勤務に対する意向



○現在就労していない父親の今後の就労意向は、以下のとおりです。

問13-3[問13-3] 就労していない父親の就労希望



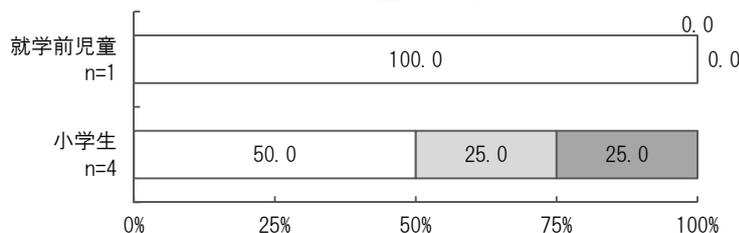
「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったときに就労したい」に○を付けた方

【就労希望時の末子の年齢】

就学前児童、小学生ともに対象者はいませんでした。

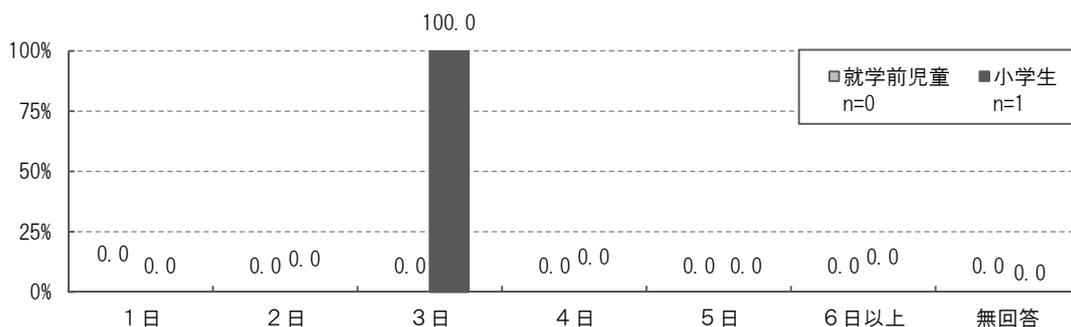
- 子育てや家事などに専念したい (働く予定はない)
- 1年より先、一番下の子どもが□□歳になったときに働きたい
- すぐにでも、または1年以内に働きたい
- 無回答

【父親の希望する就労形態】

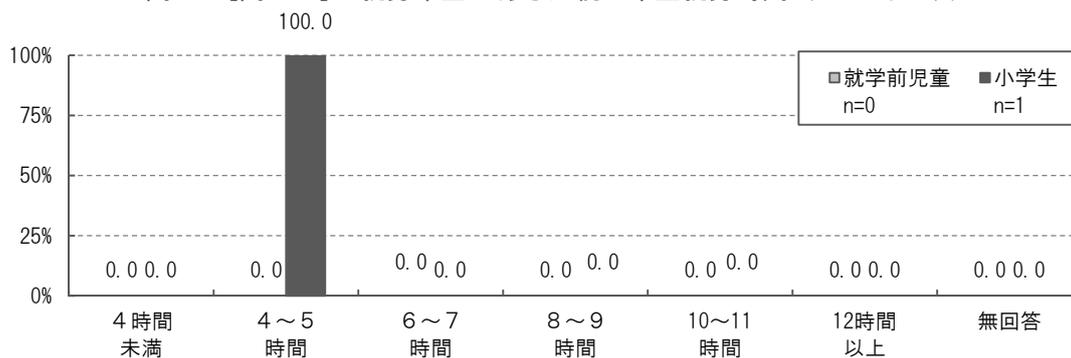


- フルタイム
- パートタイム・アルバイト等
- 無回答

問13-3[問13-3] 就労希望のある父親の希望就労日数 (1週当たり)



問13-3[問13-3] 就労希望のある父親の希望就労時間 (1日当たり)



### 3 子育て家庭を取り巻く環境における分析，課題

課題等の抽出にあたっては、報告書原稿に加えてクロス集計データを基に、分析を通して考察と課題抽出等を行いました。また、一人親家庭における子育ての現状を把握するため、母子家庭についても各結果において分析を行いました。なお、父子家庭については母数が少数のため省略しています。

#### 結果1 周囲の援助が得られない、孤立した子育て環境にいる保護者は 就学前児童で13.6% 小学生で12.7%

子育てに関する親族，知人等協力者の状況は、就学前児童，小学生の保護者ともに、8割以上が日常的，または緊急時，用事の際に祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答しており，大半の保護者は協力を得られる状況です。

その一方で，協力者が「いずれもない」と回答した，孤立した子育て環境にいる保護者は就学前児童で13.6%，小学生で12.7%となっています。また，協力者がいないと回答した方のうち，母子家庭の割合は就学前児童が2.4%，小学生が11.8%となっています。【問9，[問9]】



以上の結果から，孤立した育児環境にある保護者に対し，様々なニーズに即した子育て支援の手を差し伸べ，育児環境を改善する必要があります。

#### 結果2 子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）がいない保護者は 就学前児童で3.5%，小学生で6.0%

子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）が、「いる／ある」と回答した保護者は，就学前児童，小学生の保護者ともに9割以上となり，その相手として「配偶者」（就学前児童83.7%，小学生79.4%），「祖父母等の親族」（就学前児童76.0%，小学生64.8%），「友人や知人」（就学前児童70.6%，小学生77.6%）が上位を占め，その多くは身近な人達となっています。

身近な親族や友人，知人以外では，就学前児童は「保育士，幼稚園教諭」（40.3%），小学生は「小学校の先生」（21.2%）の割合が高く，対照的に「民生委員，児童委員」，「自治体の子育て関連担当職員」，「市の子育て関連担当窓口」などの公的機関をあげた割合は就学前児童，小学生の保護者ともに1割未満となっています。

また，気軽に相談できる相手（先）が「いない／ない」と回答した保護者は，就学前児童で3.5%，小学生で6.0%となっています。また，母子家庭では就学前児童が13.8%（回答者全体の割合より約4倍高い），小学生が12.7%（回答者全体の割合より2倍以上高い）となっています。【問10・10-1（1）（2），[問10・10-1]】



以上の結果から，相談相手がいる，いないに限らず，相談を希望するときに公的な相談機関などを頼りにできるよう，教育・保育施設等と連携して，その活動の周知徹底，普及を図るとともに，アクセスしやすく気軽に相談できる体制の整備を再検討する必要があります。

**結果3 母親の就労率（育休等を含む）は就学前児童で64.4%，小学生で77.9%**

母親の就労状況をみると、就学前児童が64.4%，就学児童が77.9%となり、そのうち産休、育休、介護休業中の方は、就学前児童で9.5%，小学生で1.7%となっています。前回調査（H25年）と比較すると、就労している母親の割合は、就学前児童で9.7<sup>ポイント</sup>、小学生で8.2<sup>ポイント</sup>高くなっています。

母親の就労日数は、就学前児童、小学生ともに「5日」（就学前児童64.8%，小学生54.8%）の割合が最も高くなっています。

母親の出勤時間は、就学前児童、小学生ともに「8時台」（就学前児童47.3%，小学生54.7%）の割合が最も高く、次いで「7時台」（就学前児童29.6%，小学生19.5%）となり、また、帰宅時間は就学前児童、小学生ともに「18時～19時台」（就学前児童37.3%，小学生32.4%）の割合が最も高くなっています。

母子家庭の保護者の就労状況をみると、「フルタイム（産休、育休、介護休業中ではない）」での就労割合が高く、就学前児童では回答者全体の24.6%に対し母子家庭は53.4%，小学生では回答者全体の32.4%に対し母子家庭は73.0%となっています。また、就労日数をみると小学生で「6日以上」と回答した割合は、回答者全体の9.7%に対し母子家庭は32.2%と高くなっています。【問12・12-1（1）（2），[問12・問12-1（1）（2）]】



以上の結果から、就労する母親が増加していくことを想定し、定期的な教育、保育事業は7時台から19時台までの事業体制を整えるとともに、週6日以上働く母親がいる現状を考慮し、土日、祝日の事業体制の充実化を検討していく必要があります。



**第3章**  
**子育て支援サービスの現状と**  
**今後の利用希望**



## 第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

### 1 就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

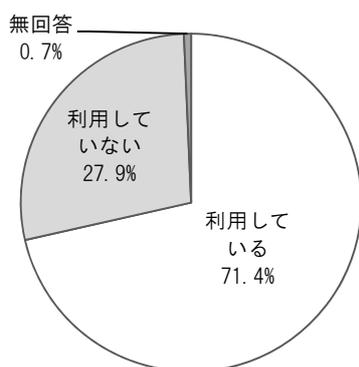
#### (1) 平日の定期的な教育・保育事業

○定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、就学前児童では、「利用している」が7割以上を占めています。

○利用中の事業をみると、就学前児童では、「保育所（園）」（58.1%）が最も高く、次いで「私立幼稚園」（22.4%）、「市立幼稚園」（9.8%）となっています。

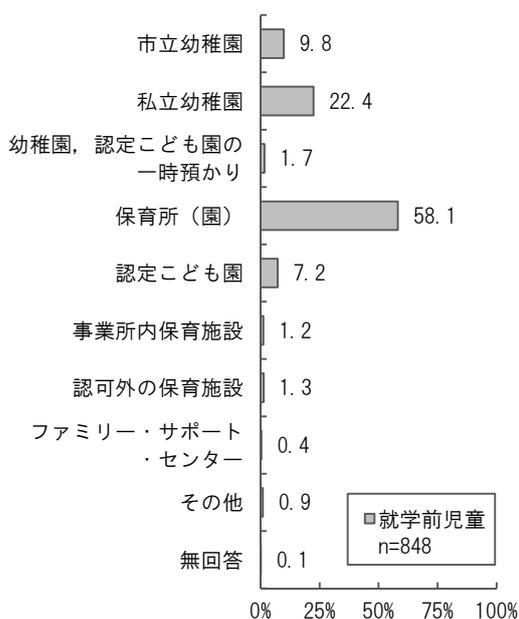
○希望する事業をみると、「保育所（園）」（58.0%）が最も高く、次いで「私立幼稚園」（34.7%）、「市立幼稚園」（28.4%）となっています。

問14 定期的な教育・保育事業の利用状況

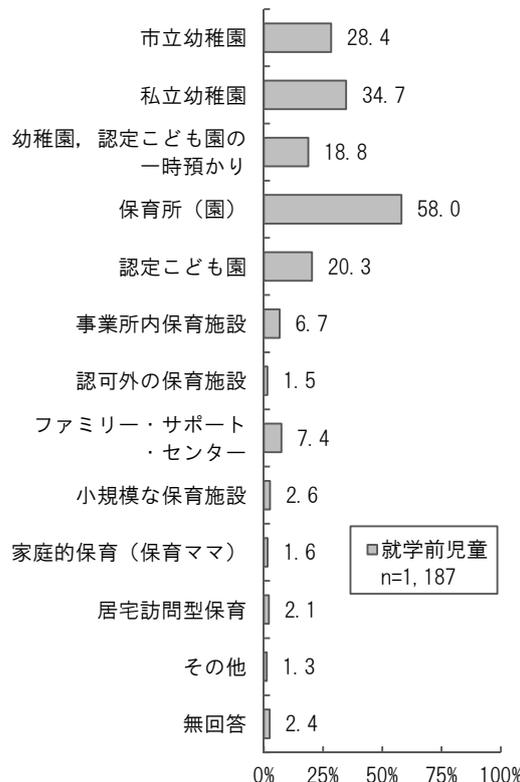


就学前児童  
n=1, 187

問14-1 定期的な教育・保育事業の利用状況



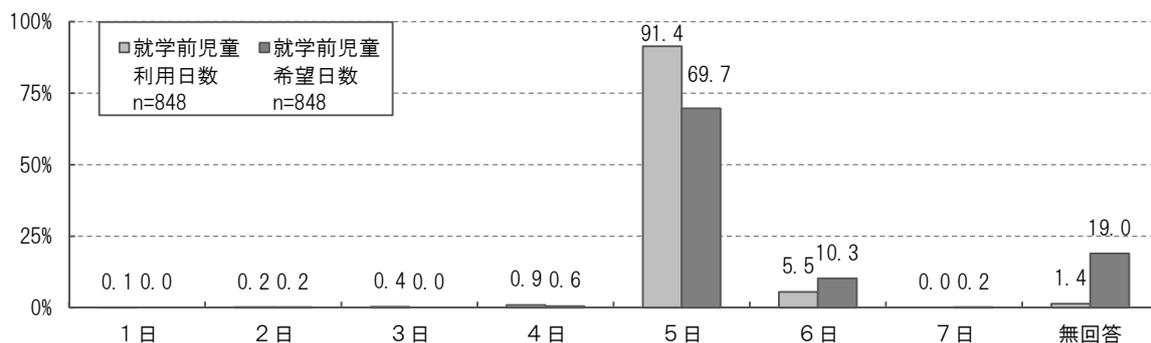
問15 希望する定期的な教育・保育事業



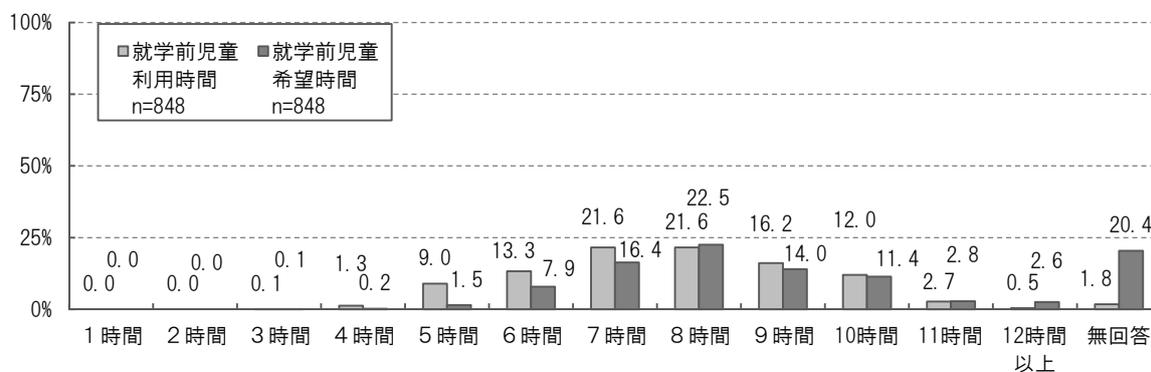
○定期的な教育・保育事業の1週当たりの利用日数と希望日数をみると、就学前児童では、利用日数、希望日数いずれも「5日」（利用日数91.4％，希望日数69.7％）が最も高くなっています。

○1日当たりの利用時間と希望時間をみると、就学前児童では、利用時間で「7時間」「8時間」（各21.6％）が最も高く、次いで「9時間」（16.2％）となっており、希望時間で「8時間」（22.5％）が最も高く、次いで「7時間」（16.4％），「9時間」（14.0％）の順となっています。

問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（1週当たり）



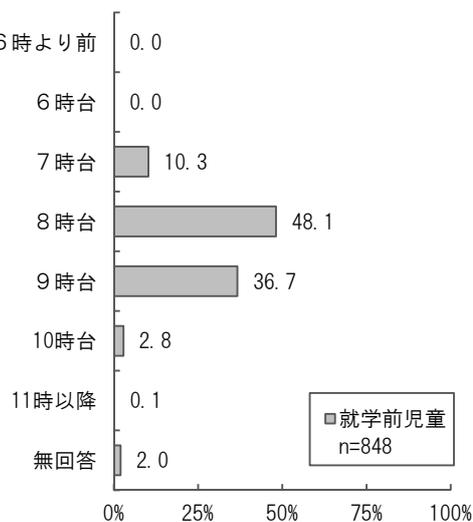
問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（1日当たり）



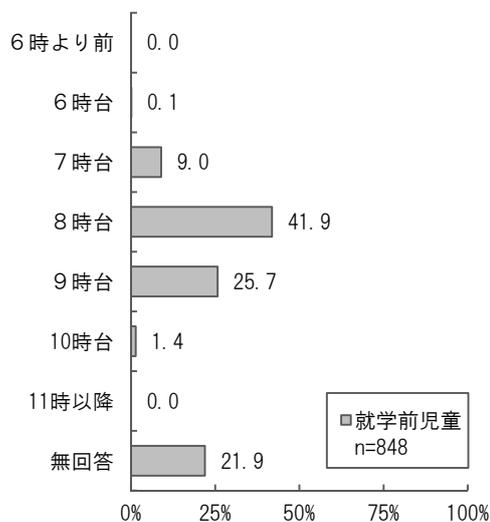
○定期的な教育・保育事業の利用開始時間と希望開始時間をみると、利用開始時間、希望開始時間いずれも「8時台」（利用開始時間48.1％，希望開始時間41.9％）が最も高く、次いで「9時台」（利用開始時間36.7％，希望開始時間25.7％）となっています。

○定期的な教育・保育事業の利用終了時間と希望終了時間をみると、利用終了時間、希望終了時間いずれも「16時台」（利用終了時間31.1％，希望終了時間24.8％）が最も高く、次いで「17時台」（利用終了時間20.9％，希望終了時間19.2％）となっています。

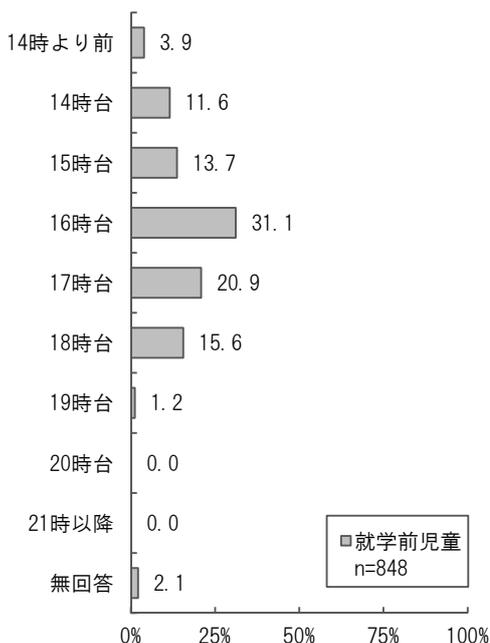
問14-2(1) 利用開始時間



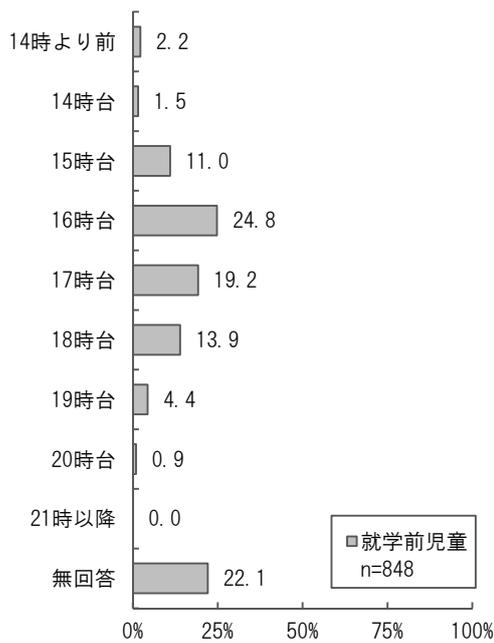
問14-2(2) 希望開始時間



問14-2(1) 利用終了時間

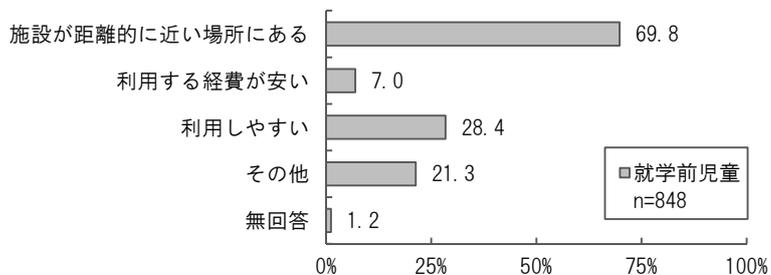


問14-2(2) 希望終了時間

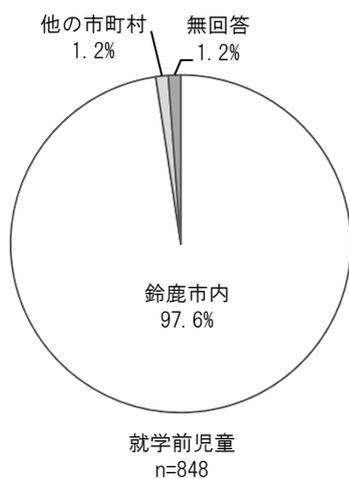


- 定期的な教育・保育事業を選んだ理由をみると、就学前児童では、「施設が距離的に近い場所にある」が7割弱を占めています。
- 現在平日に利用している教育・保育事業の実施場所と希望実施場所をみると、就学前児童では、実施場所、希望実施場所いずれも「鈴鹿市内」が9割以上を占めています。

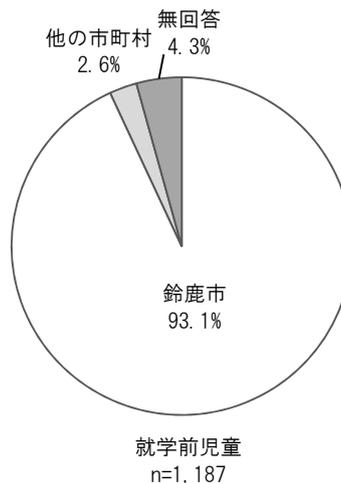
問14-2(1).1 定期的にご利用している教育・保育の事業を選んだ理由



問14-3 教育・保育事業の実施場所



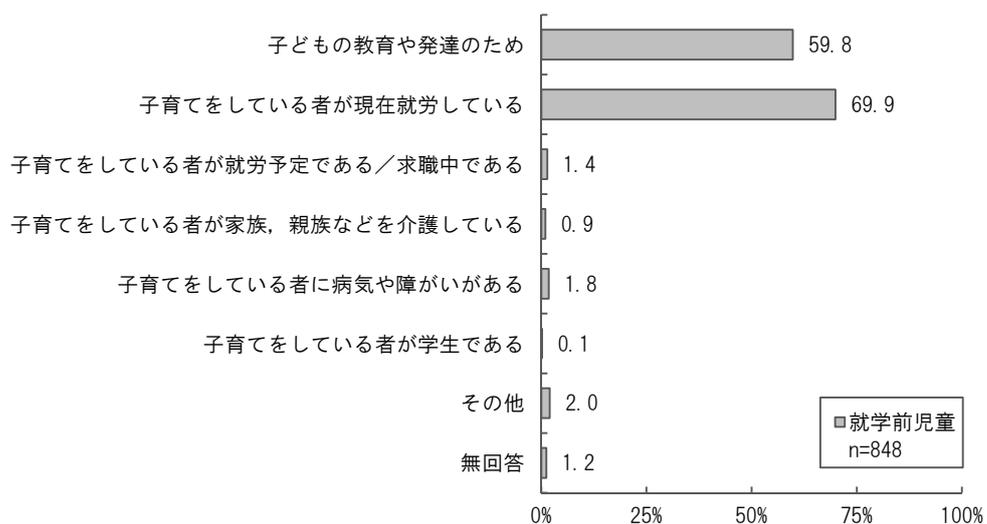
問15-1 教育・保育事業の希望実施場所



## (2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由

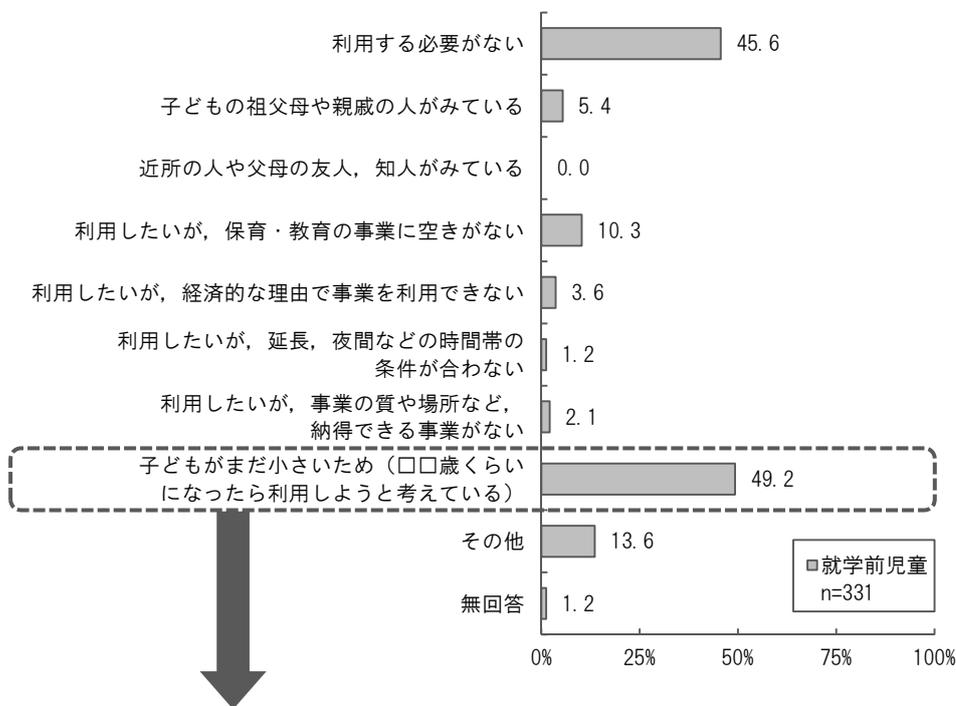
○平日に教育・保育事業を利用している理由をみると、「子育てをしている者が現在就労している」(69.9%)が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」(59.8%)となっています。

問14-4 平日に教育・保育事業を利用している理由

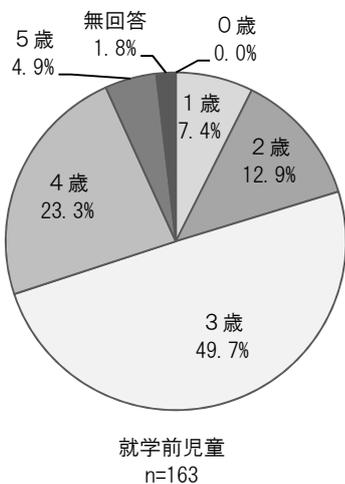


- 平日に教育・保育事業を利用していない理由をみると、「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）」（49.2%）が最も高く、次いで「利用する必要がない」（45.6%）となっています。
- 「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）」と回答した人が、教育・保育事業の利用を希望する子どもの年齢をみると、就学前児童では、「3歳」（49.7%）が最も高くなっています。
- 定期的な教育・保育事業として、「幼稚園」や「幼稚園の預かり保育」と合わせてほかの事業の利用も希望される方のうち、特に「幼稚園」の利用を強く希望している方は、約6割となっています。

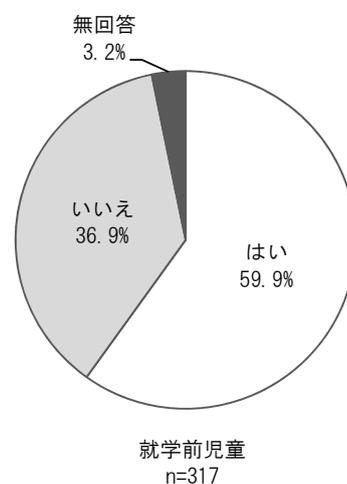
問14-5 教育・保育事業を利用していない理由



問14-5.8 利用を希望する子どもの年齢



問15-2 幼稚園の利用を強く希望

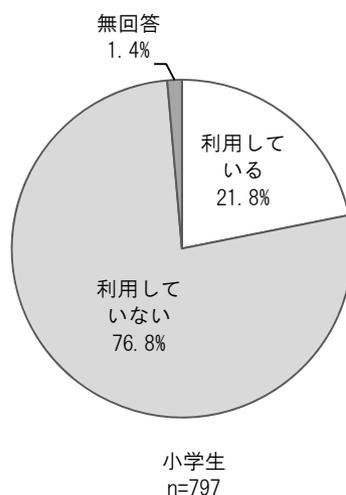


## 2 小学生の平日の定期的な子育て支援事業の利用現状等

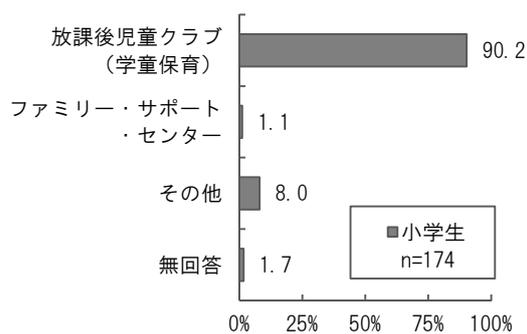
### (1) 平日の定期的な子育て支援事業の利用状況

- 小学生における平日の定期的な子育て支援事業の利用状況をみると、「利用していない」が7割以上を占めています。
- 利用中の事業をみると、小学生では、「放課後児童クラブ（学童保育）」が9割を占めています。
- 希望する事業をみると、小学生では、「放課後児童クラブ（学童保育）」（46.9%）が最も高いものの、一方で、「その他」が2割を超え、選択項目以外にもさまざまな希望場所があることがうかがえます。

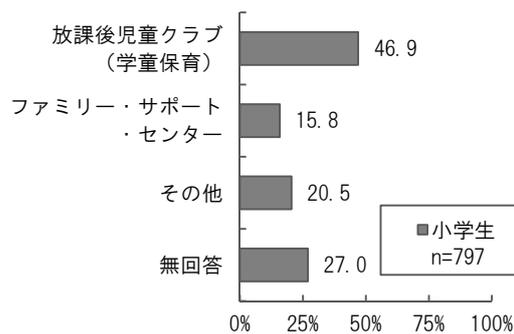
[問14] 定期的な子育て支援事業の利用状況



[問14-1] 定期的な子育て支援事業の利用状況



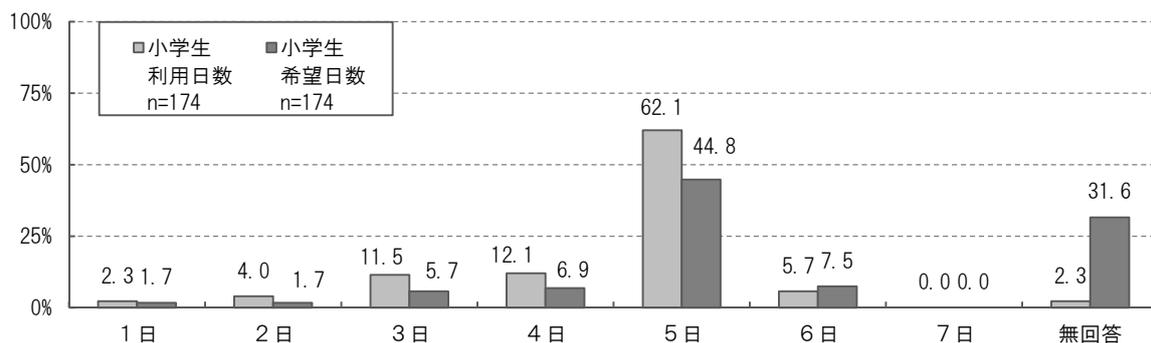
[問15] 希望する子育て支援事業



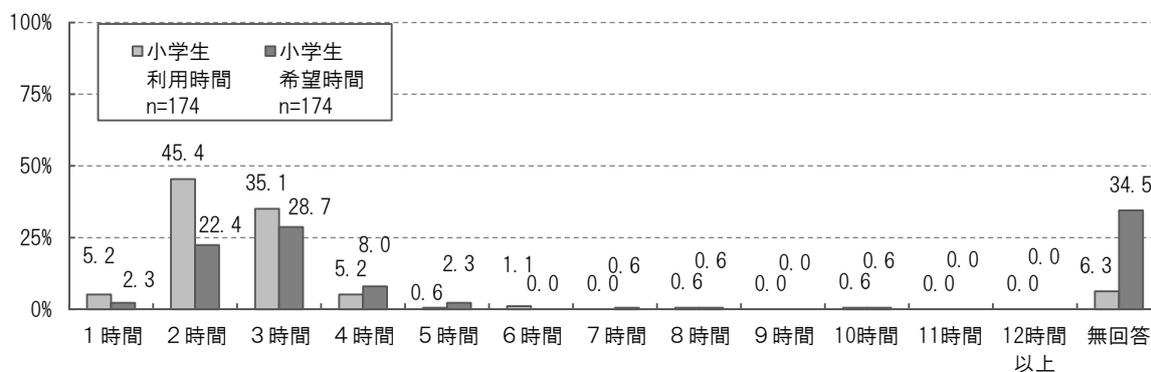
○定期的な子育て支援事業の1週当たりの利用日数と希望日数をみると、小学生では、利用日数、希望日数いずれも「5日」（利用日数62.1%、希望日数44.8%）が最も高くなっています。

○定期的な子育て支援事業の1日当たりの利用時間と希望時間をみると、小学生では、利用時間で「2時間」（45.4%）、次いで「3時間」（35.1%）となっており、希望時間で「3時間」（28.7%）が最も高く、次いで「2時間」（22.4%）となっています。

[問14-2(1)(2)] 定期的な子育て支援事業の利用日数と希望日数（1週当たり）



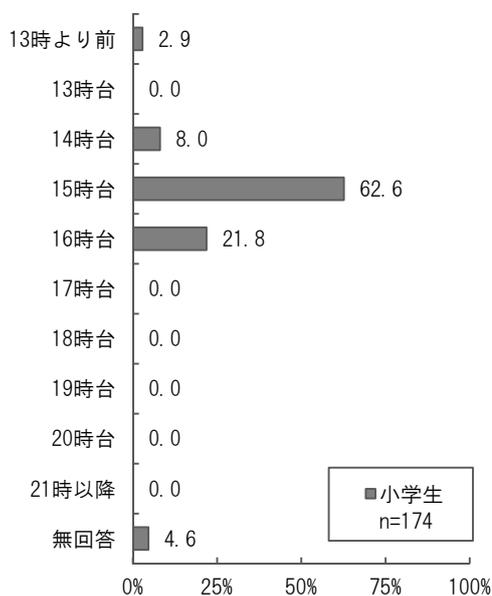
[問14-2(1)(2)] 定期的な子育て支援事業の利用時間と希望時間（1日当たり）



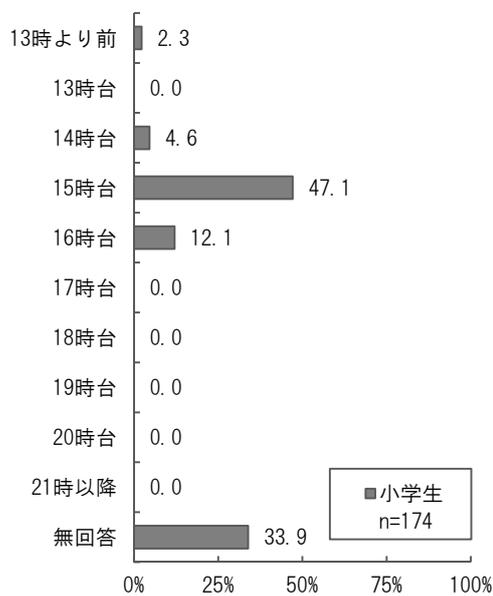
○定期的な子育て支援事業の利用開始時間と希望開始時間をみると、小学生では、利用開始時間、希望開始時間いずれも「15時台」（利用開始時間62.6%、希望開始時間47.1%）が最も高く、次いで「16時台」（利用開始時間21.8%、希望開始時間12.1%）となっています。

○定期的な子育て支援事業の利用終了時間と希望終了時間をみると、小学生では、利用終了時間、希望終了時間いずれも「18時台」（利用終了時間50.0%、希望終了時間32.8%）が最も高く、次いで「17時台」（利用終了時間34.5%、希望終了時間17.8%）となっています。

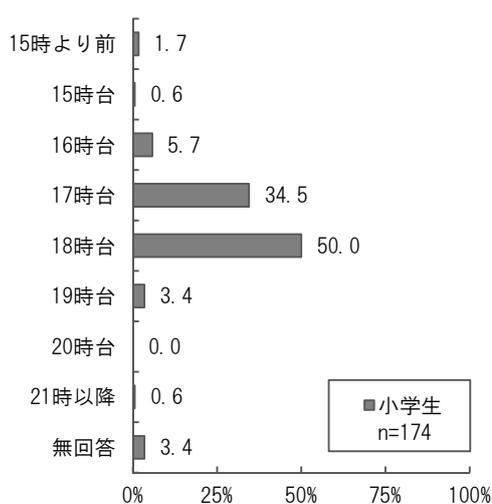
[問14-2(1)] 利用開始時間



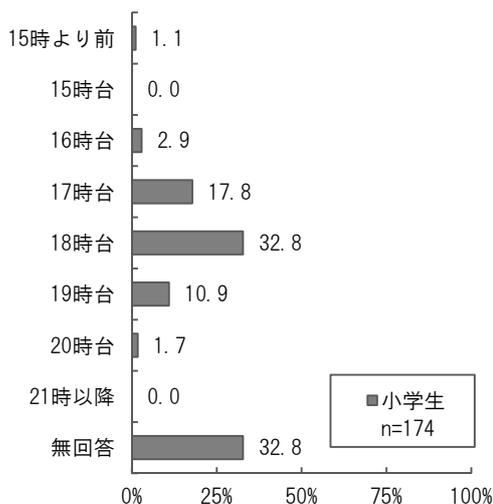
[問14-2(2)] 希望開始時間



[問14-2(1)] 利用終了時間



[問14-2(2)] 希望終了時間

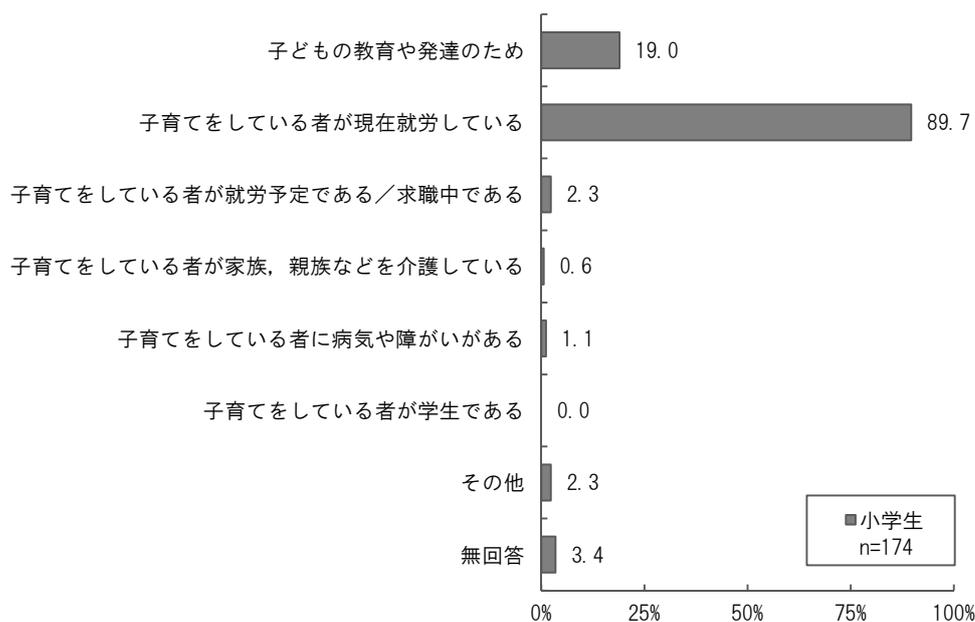


## (2) 定期的な子育て支援事業の利用理由と未利用の理由

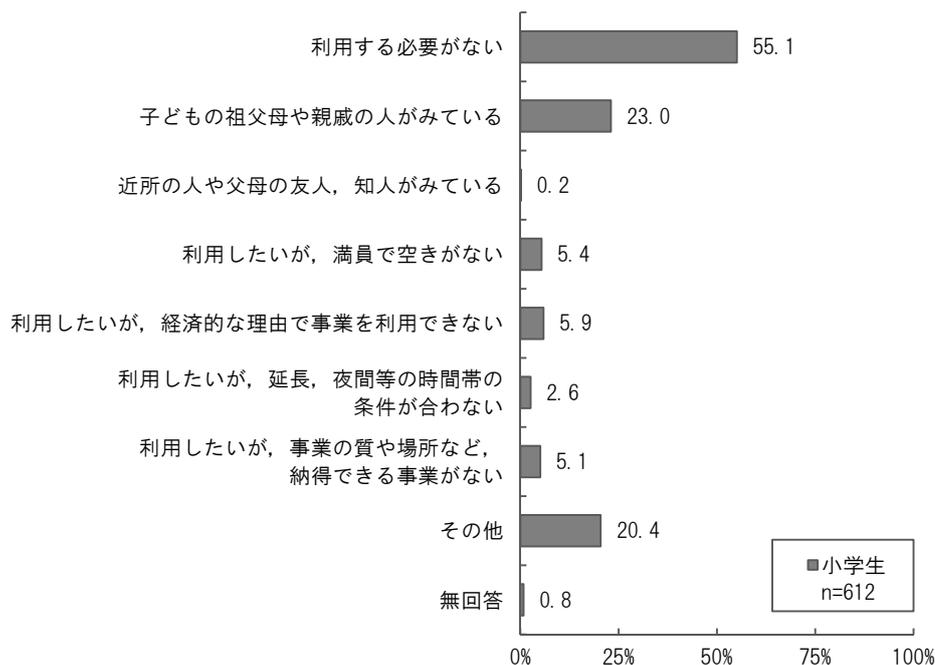
○平日に子育て支援事業を利用している理由をみると、「子育てをしている者が現在就労している」(89.7%)が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」(19.0%)となっています。

○利用していない理由をみると、「利用する必要がない」(55.1%)が最も高く、次いで「子どもの祖父母や親戚の人がみている」(23.0%)となっています。

問14-4[問14-3] 平日に子育て支援事業を利用している理由



[問14-4] 子育て支援事業を利用していない理由



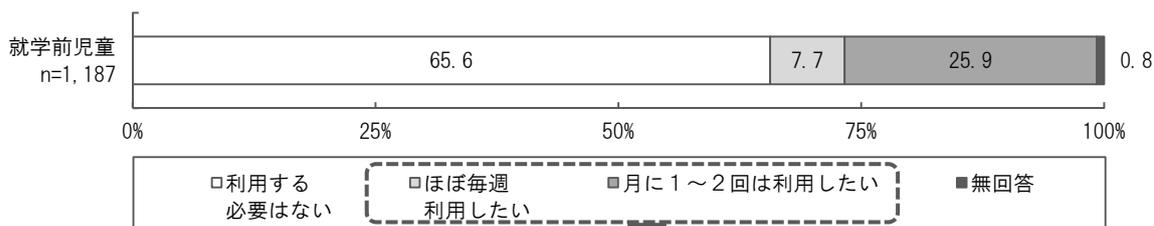
### 3 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

#### (1) 土曜日と日曜日、祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

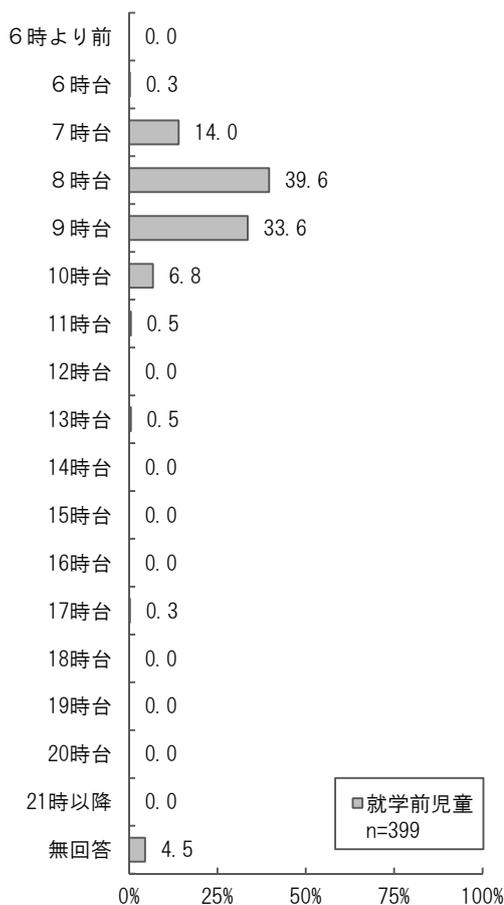
○土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「ほぼ毎週利用したい」(7.7%),「月に1~2回は利用したい」(25.9%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「8時台」(39.6%),終了時間で「17時台」(26.8%)が最も高くなっています。

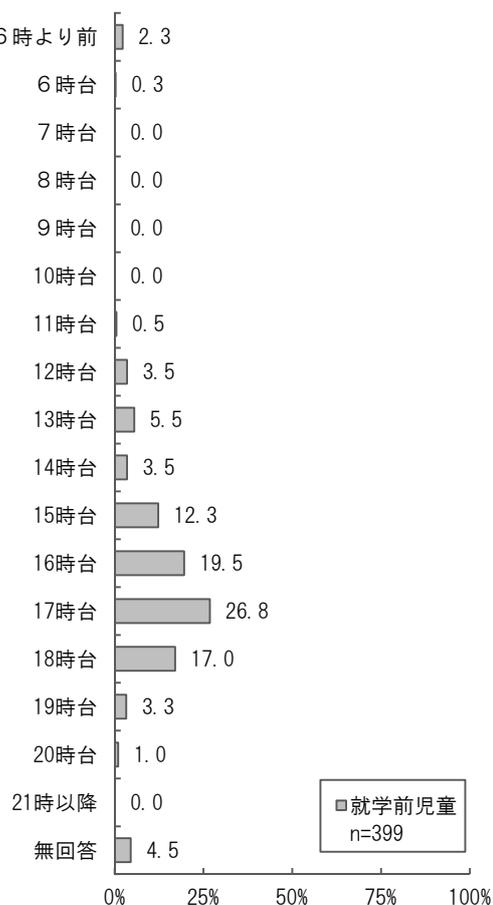
問19(1) 土曜日の利用希望



問19(1) 希望開始時間

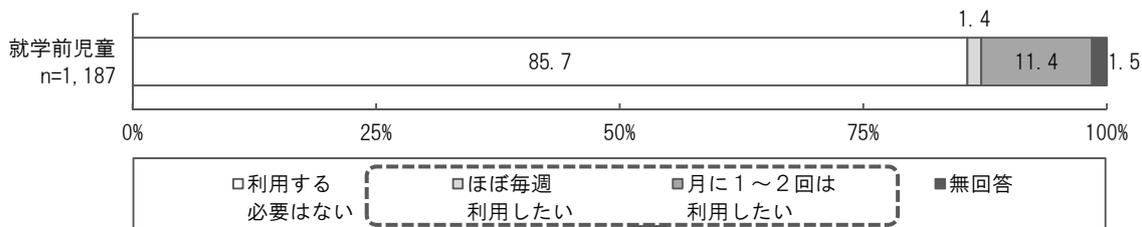


問19(1) 希望終了時間

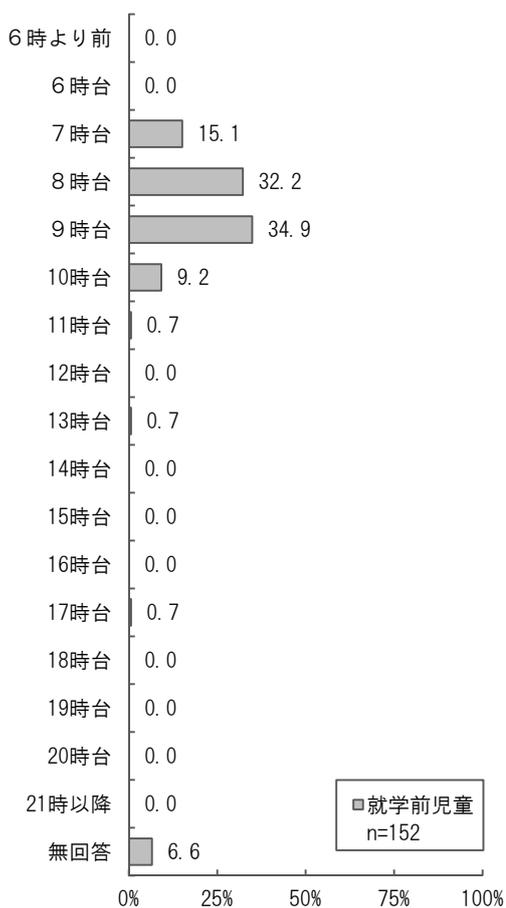


○日曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「ほぼ毎週利用したい」(1.4%)、「月に1～2回は利用したい」(11.4%)となっています。  
 ○利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「9時台」(34.9%)、終了時間で「17時台」(30.3%)が最も高くなっています。

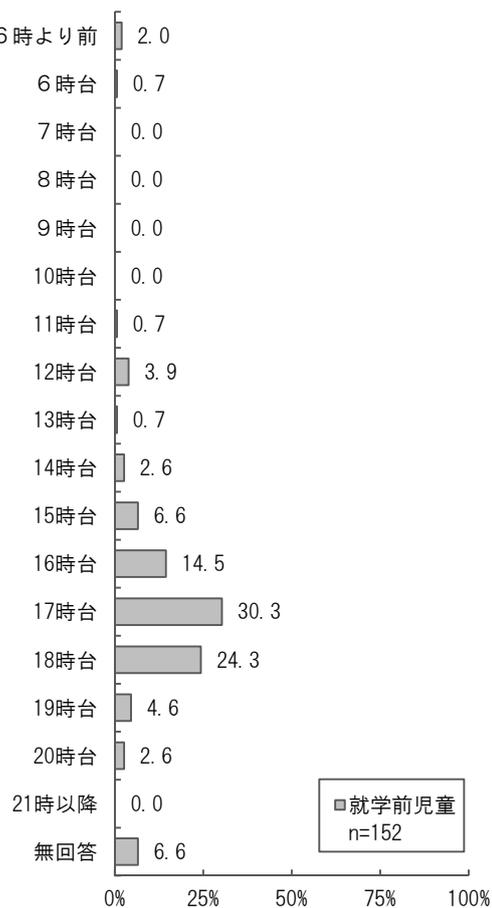
問19(2) 日曜日の利用希望



問19(2) 希望開始時間

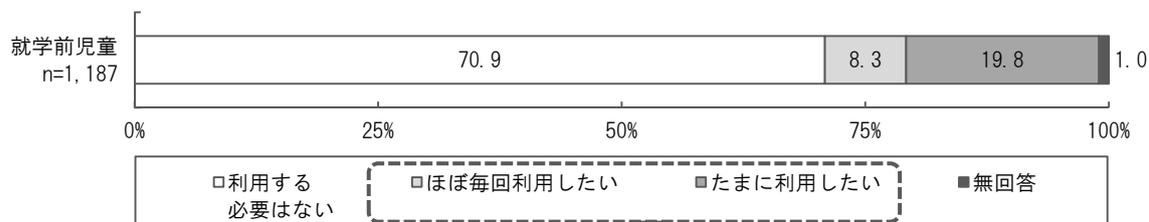


問19(2) 希望終了時間

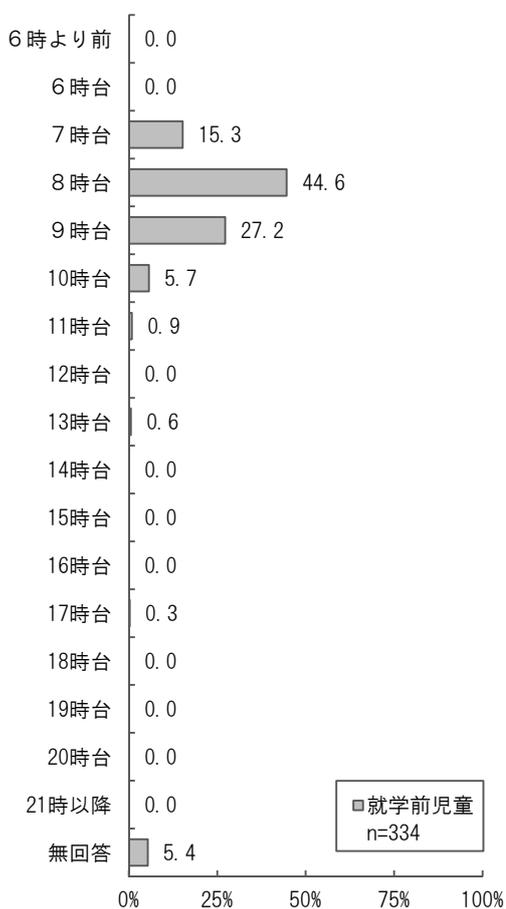


- 祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「ほぼ毎回利用したい」(8.3%),「たまに利用したい」(19.8%)となっています。
- 利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「8時台」(44.6%),終了時間で「17時台」(31.4%)が最も高くなっています。

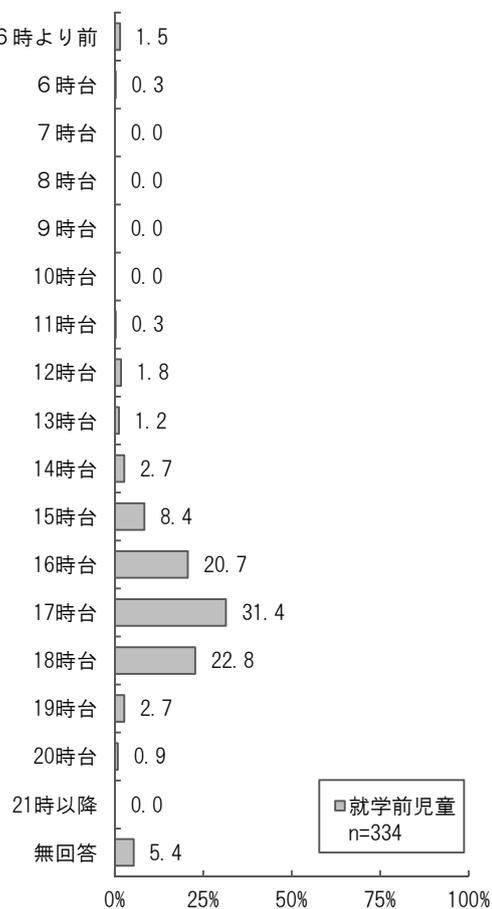
問19(3) 祝日の利用希望



問19(3) 希望開始時間

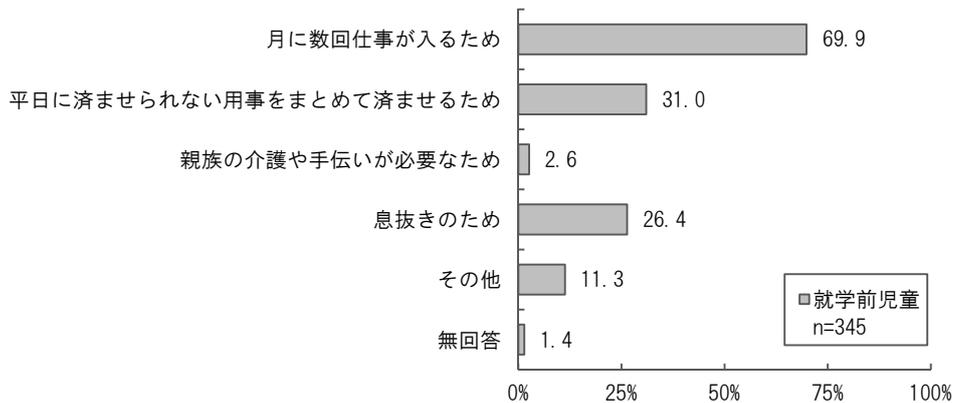


問19(3) 希望終了時間



○土曜日と日曜日において「月に1～2回は利用したい」と回答した方の理由をみると、就学前児童では、「月に数回仕事が入るため」(69.9%)が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(31.0%),「息抜きのため」(26.4%)となっています。

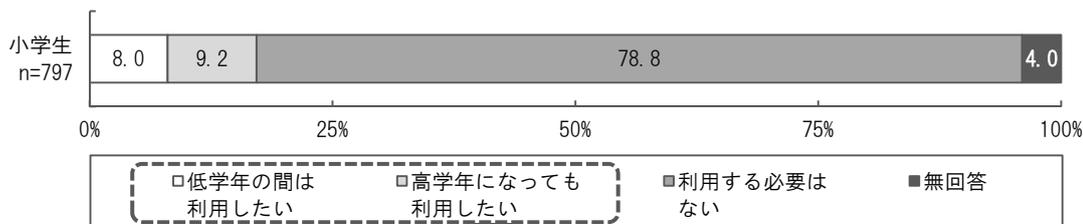
問19-1 毎週ではなく「月に1～2回利用したい」理由



○土曜日の定期的な放課後児童クラブ等の子育て支援事業の利用意向をみると、小学生では、「利用する必要はない」(78.8%)が最も高く、次いで「高学年になっても利用したい」(9.2%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、小学生では、開始時間で「8時台」(44.5%)、終了時間で「18時台」(32.1%)が最も高くなっています。

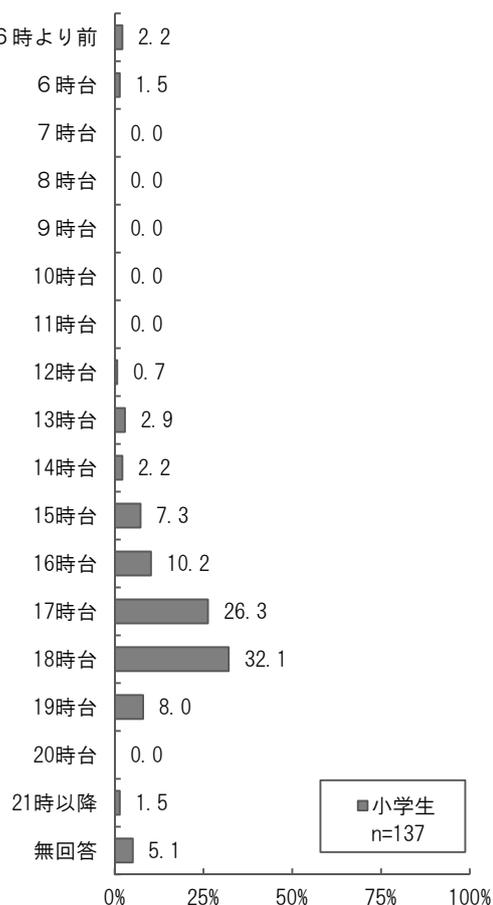
[問16(1)] 土曜日の利用希望



[問16(1)] 希望開始時間

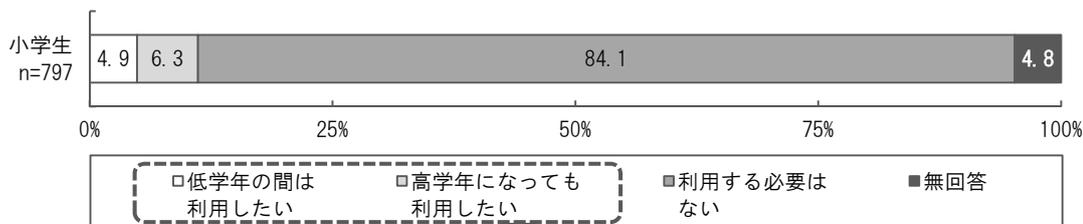


[問16(1)] 希望終了時間



- 日曜日、祝日の定期的な放課後児童クラブ等の子育て支援事業の利用意向をみると、小学生では、「利用する必要はない」(84.1%)が最も高く、次いで「高学年になっても利用したい」(6.3%)となっています。
- 利用希望者の利用したい時間帯をみると、小学生では、開始時間で「8時台」(49.4%)、終了時間で「18時台」(38.2%)が最も高くなっています。

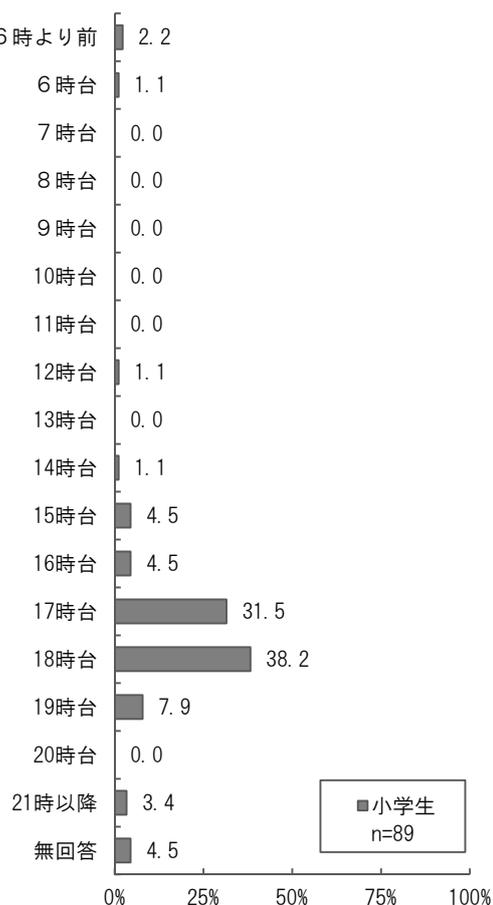
[問16(2)] 日曜日、祝日の利用希望



[問16(2)] 希望開始時間



[問16(2)] 希望終了時間

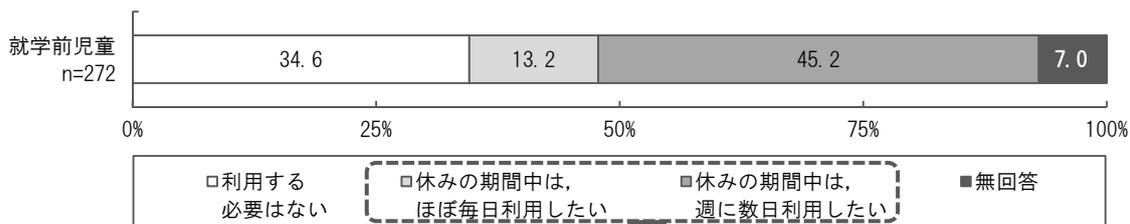


## (2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

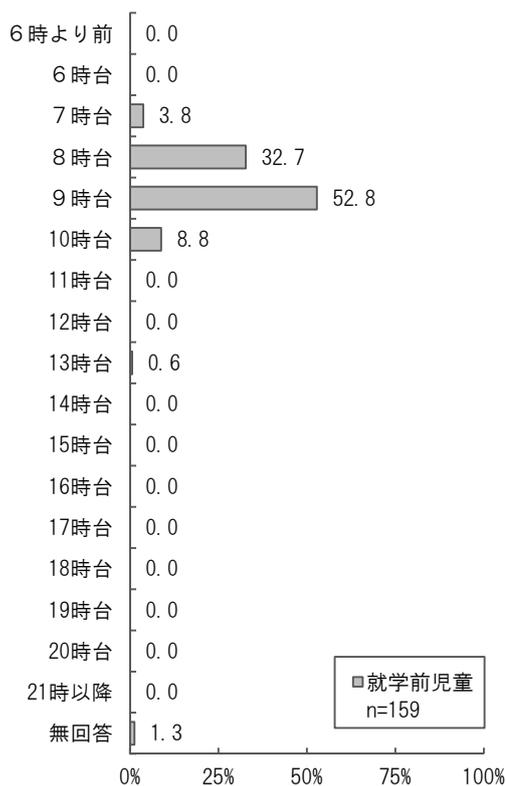
○長期休暇中の教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「休みの期間中は、ほぼ毎日利用したい」(13.2%)、「休みの期間中は、週に数日利用したい」(45.2%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「9時台」(52.8%)、終了時間で「15時台」(37.7%)が最も高くなっています。

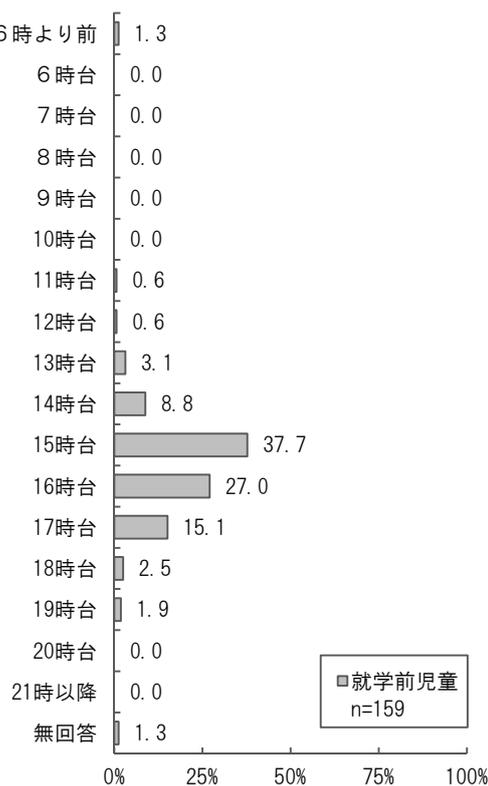
問20 長期休暇中の利用希望（幼稚園利用者）



問20 希望開始時間

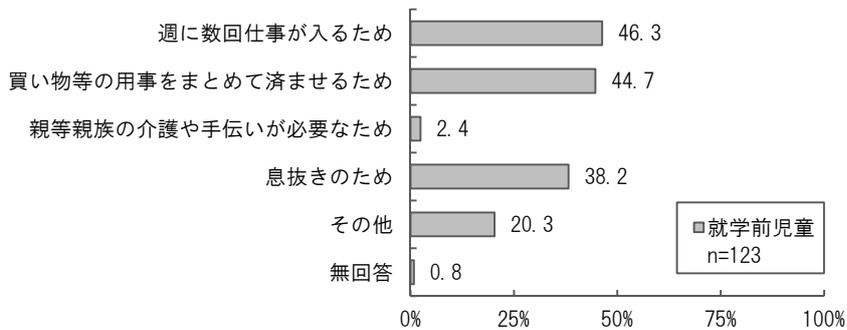


問20 希望終了時間



○長期休暇中において「休みの期間中は、週に数日利用したい」と回答した方の理由をみると、就学前児童では、「週に数回仕事が入るため」(46.3%)が最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(44.7%)、「息抜きのため」(38.2%)となっています。

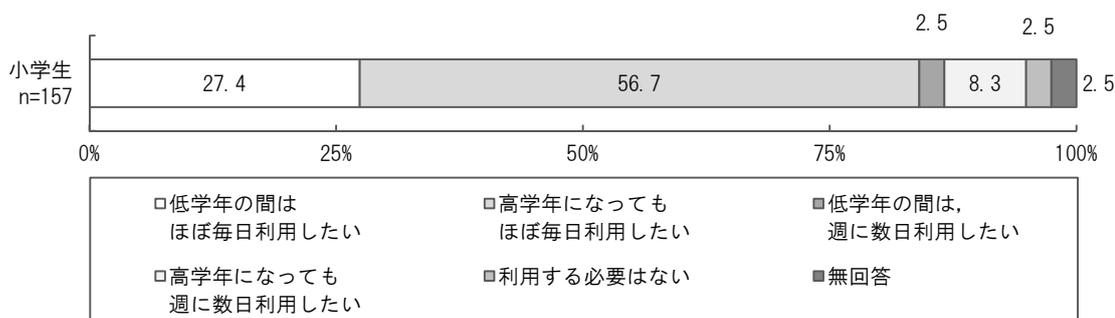
問20-1 「休みの期間中、週に数日利用したい」理由



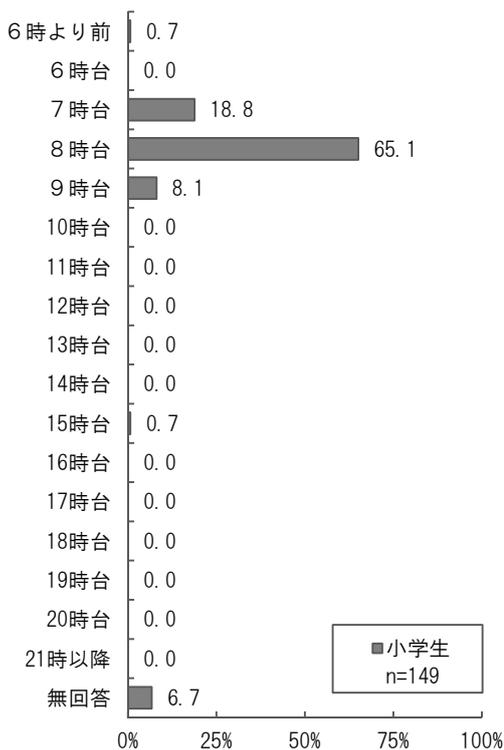
○長期休暇中の放課後児童クラブの利用意向をみると、小学生では、「高学年になって  
もほぼ毎日利用したい」(56.7%)が最も高く、次いで「低学年の間はほぼ毎日利用  
したい」(27.4%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、小学生では、開始時間で「8時台」(65.1%)、  
終了時間で「18時台」(46.3%)が最も高くなっています。

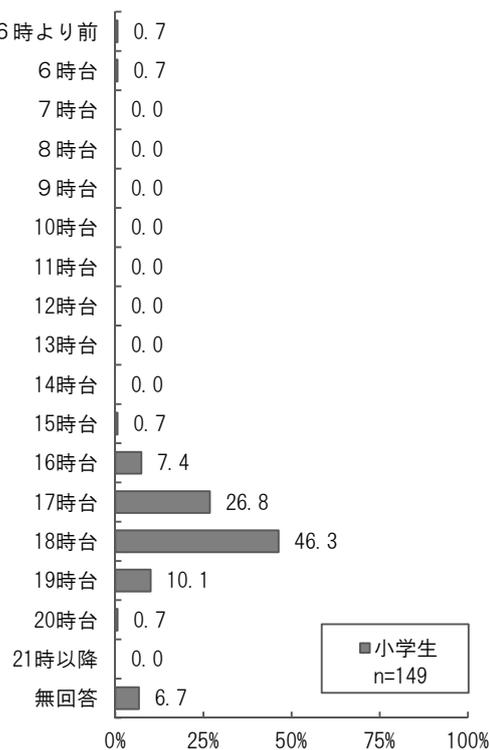
[問17] 長期休暇中の利用希望（放課後児童クラブ利用者）



[問17] 希望開始時間



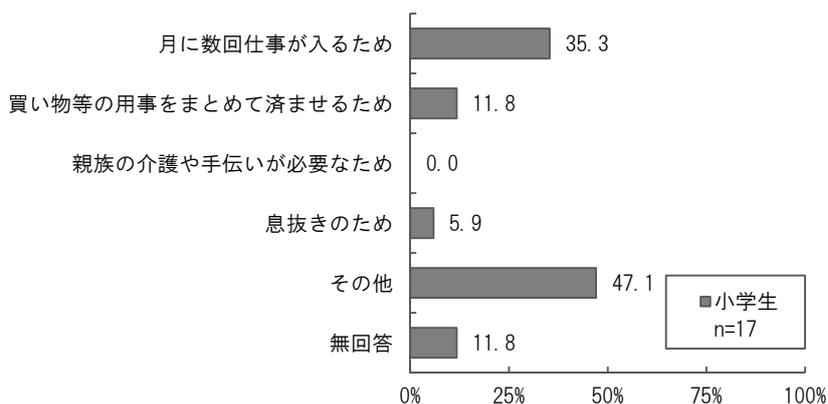
[問17] 希望終了時間



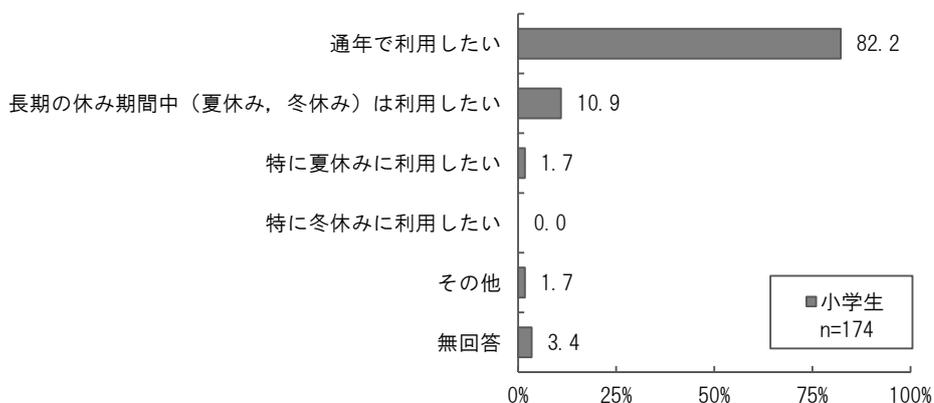
○長期休暇中において「低学年の間は、週に数日利用したい」「高学年になっても週に数日利用したい」と回答した方の理由をみると、小学生では、「月に数回仕事が入るため」(35.3%)、「その他」(47.1%)となっています。

○放課後児童クラブ等の子育て支援事業を利用している方の利用希望期間をみると、小学生では、「通年で利用したい」が8割以上を占めています。

[問17-1] 毎日ではなく、たまに利用したい理由



[問18] 子育て支援事業を利用する希望期間

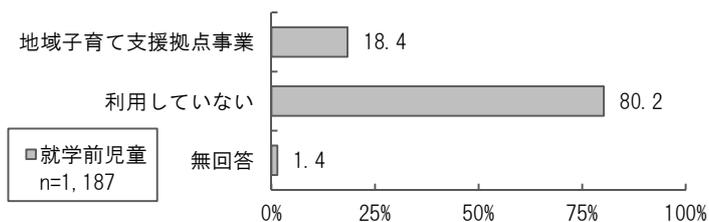


## 4 地域の子育て支援事業の利用状況

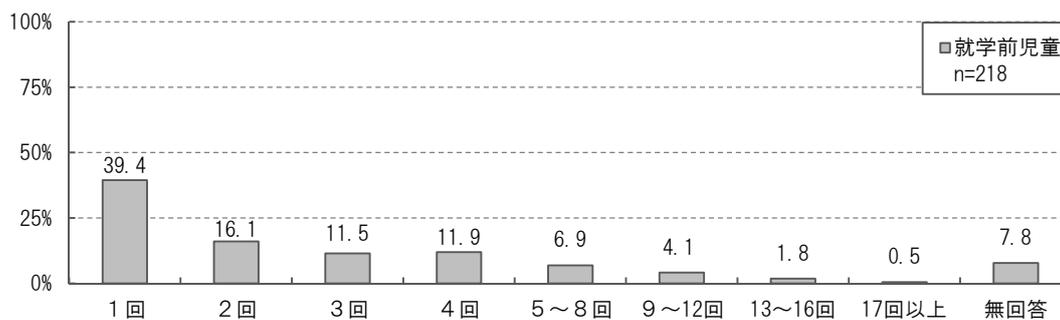
### (1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

- 「地域子育て支援拠点事業」の利用割合は18.4%となっています。
- 「地域子育て支援拠点事業」利用者の1か月当たりの利用回数をみると、「1回」(39.4%)が最も高く、次いで「2回」(16.1%)となっています。

問16 地域子育て支援拠点事業の利用状況

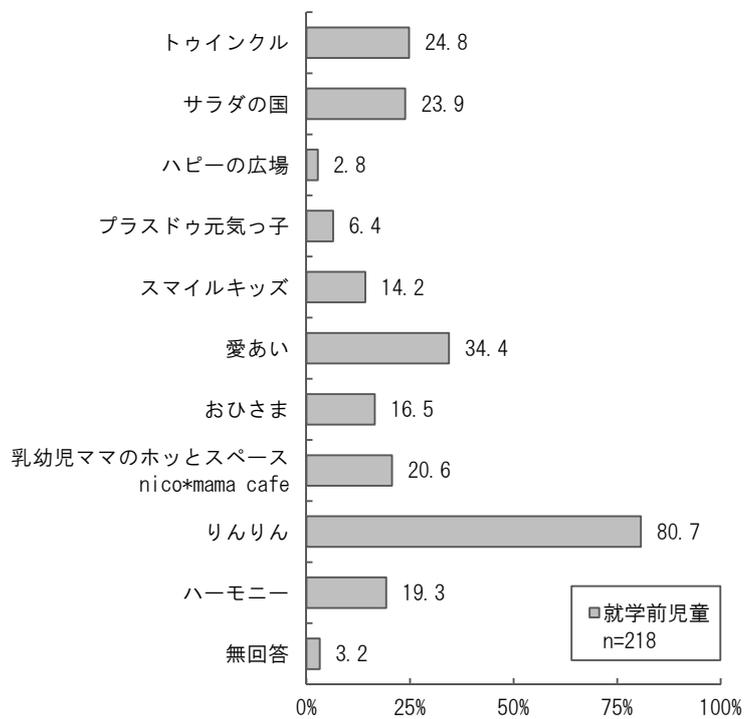


問16.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数（1か月当たり）



○利用したことがある施設をみると、「りんりん」(80.7%)が最も高くなっています。

問16-1 利用したことがある施設



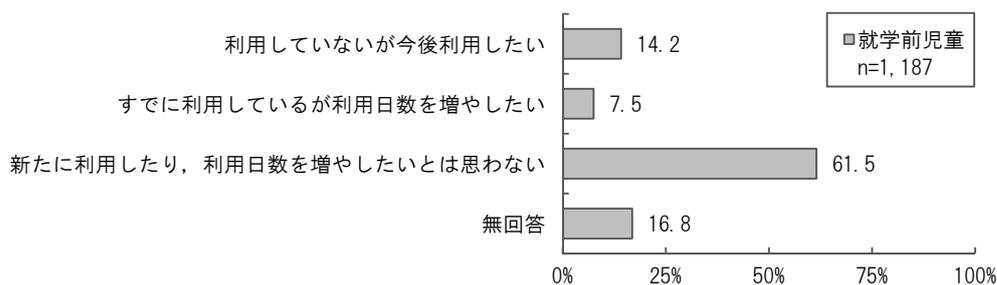
## (2) 今後の利用意向

○地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向をみると、「新たに利用したり，利用日数を増やしたいとは思わない」が6割以上を占めています。

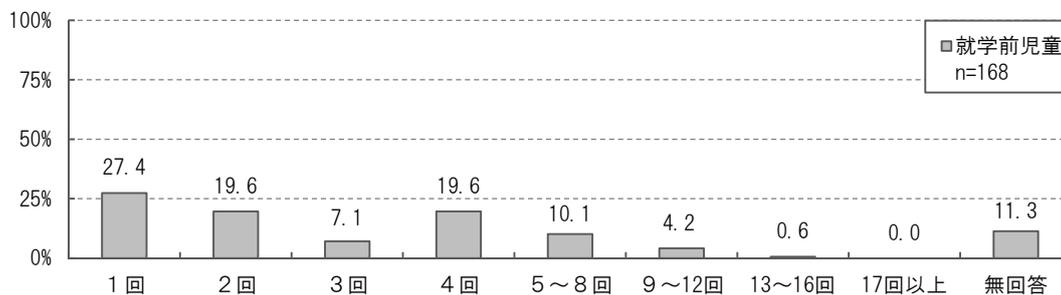
○未利用者の今後の1か月利用希望回数をみると、「1回」(27.4%)が最も高く，次いで「2回」「4回」(各19.6%)となっています。

○既利用者が今後増やしたい1か月当たりの利用回数をみると、「4回」(31.5%)が最も高く，次いで「1回」(19.1%)，「2回」(15.7%)となっています。

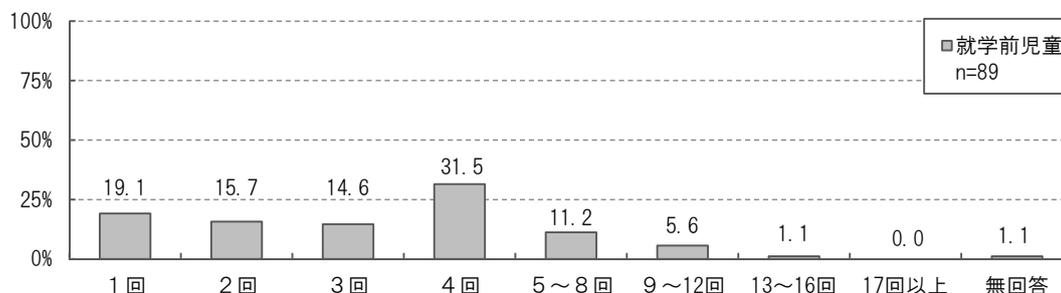
問17 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向



問17.1 未利用者の今後の利用希望回数（1か月当たり）



問17.2 既利用者の今後増やしたい利用回数（1か月当たり）



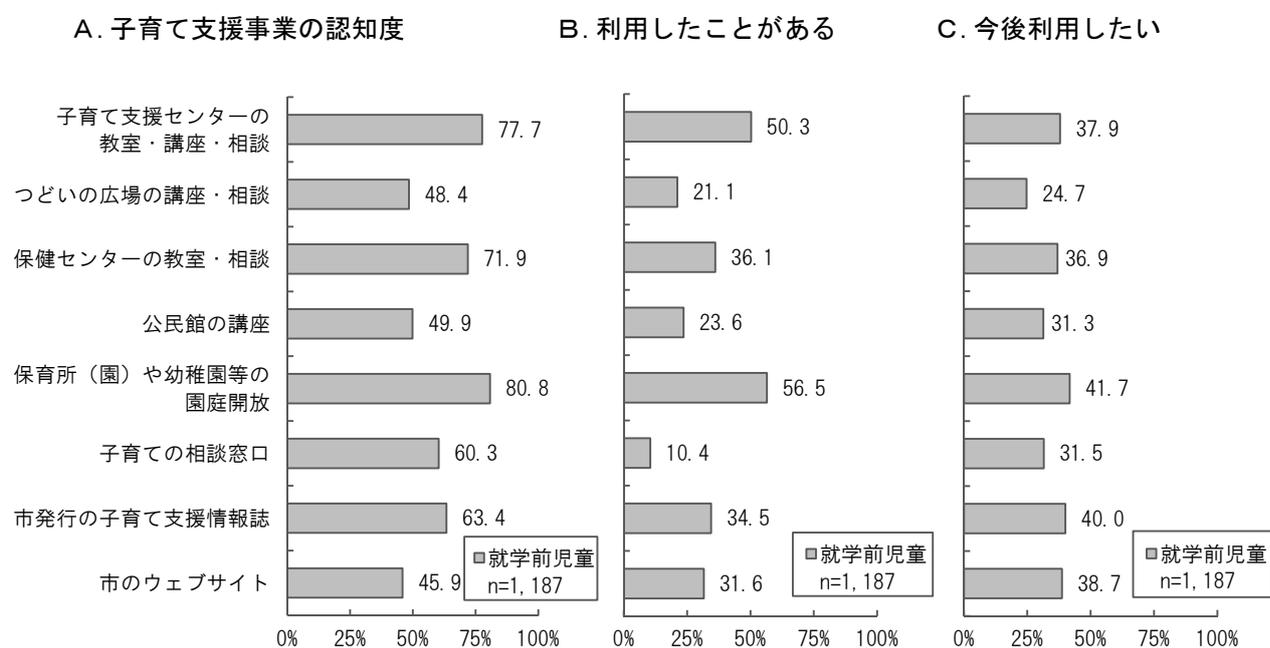
### (3) 子育て支援事業の認知度，利用状況と今後の利用意向について

○子育て支援事業の認知度をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」（80.8%）が最も高く，次いで「子育て支援センターの教室・講座・相談」（77.7%）となっています。

○子育て支援事業の利用状況をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」（56.5%）が最も高く，次いで「子育て支援センターの教室・講座・相談」（50.3%）となっています。

○子育て支援事業の利用意向をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」（41.7%）が最も高く，次いで「市発行の子育て支援情報誌」（40.0%）となっています。

問18 子育て支援事業の認知度，利用状況，今後の利用意向

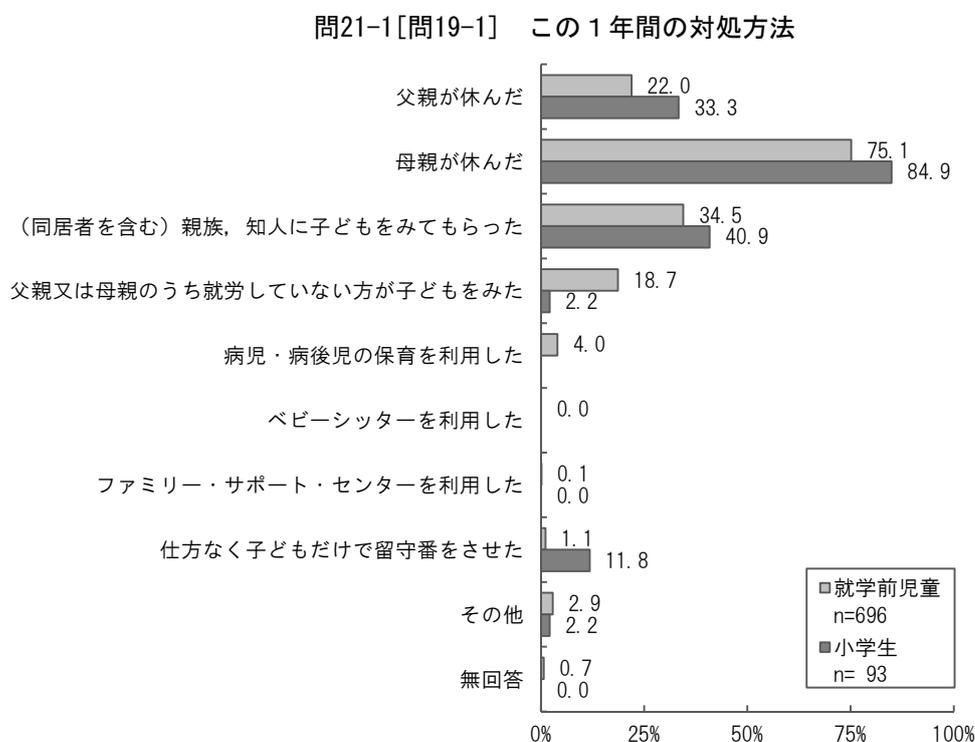
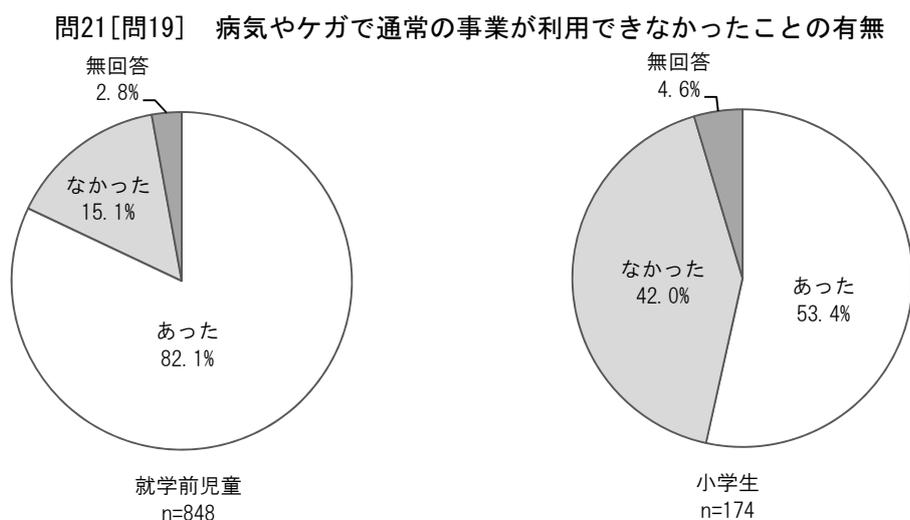


## 5 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

### (1) 病気やケガで通常の事業が利用できない時の対処について

○病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが、「あった」と回答した方をみると、就学前児童では82.1%、小学生では53.4%となっています。

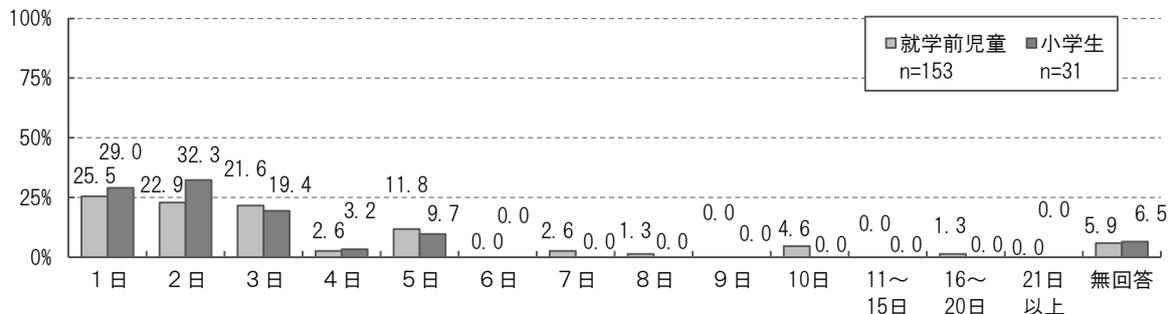
○その際の対処方法をみると、就学前児童、小学生いずれも「母親が休んだ」(就学前児童75.1%、小学生84.9%)が最も高く、次いで「親族、知人に子どもをみてもらった」(就学前児童34.5%、小学生40.9%)となっています。



※「病児・病後児の保育を利用した」「ベビーシッターを利用した」は就学前児童のみの選択肢です。

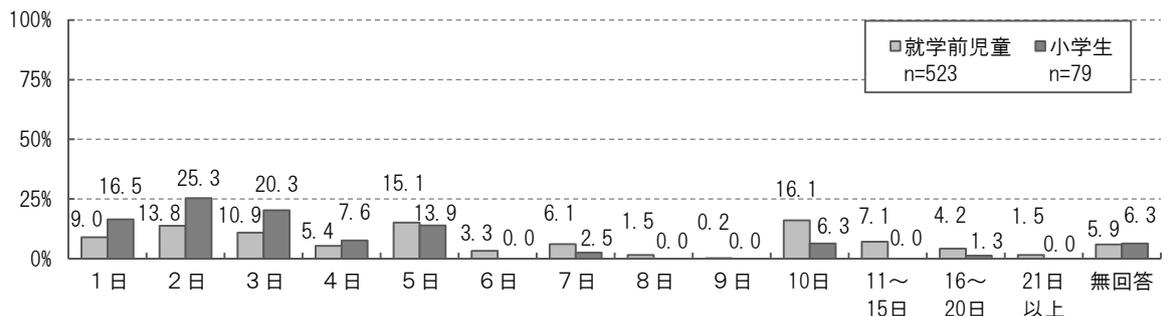
○対処方法別にこの1年間の対処日数をみると、「父親が休んだ日数」は、就学前児童では「1日」(25.5%)、小学生では「2日」(32.3%)が最も高くなっています。

問21-1.1[問19-1.1] 父親が休んだ日数



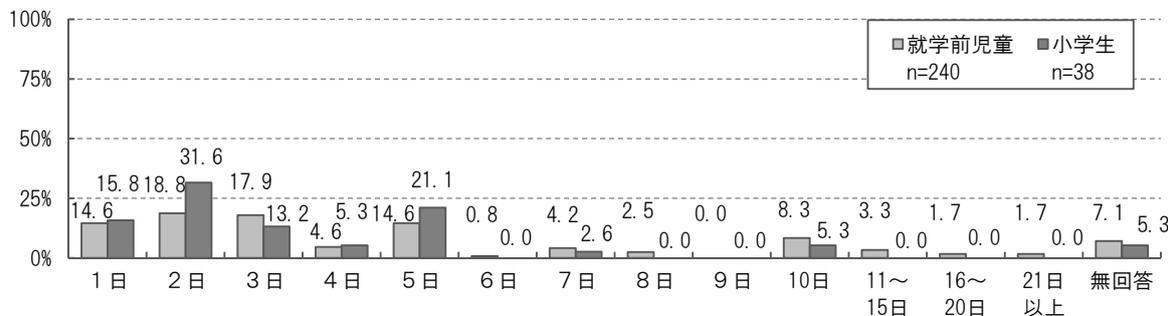
○「母親が休んだ日数」は、就学前児童では「10日」(16.1%)、小学生では「2日」(25.3%)が最も高くなっています。

問21-1.2[問19-1.2] 母親が休んだ日数



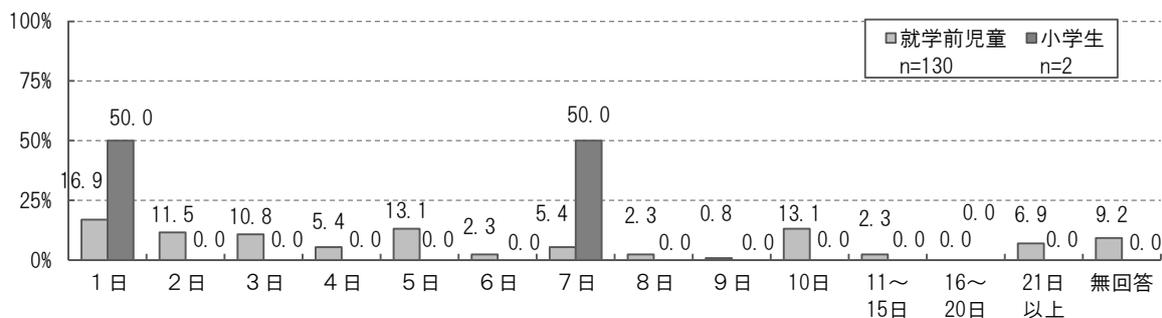
○「親族、知人に子どもをみてもらった日数」は、就学前児童、小学生いずれも「2日」(就学前児童18.8%、小学生31.6%)が最も高くなっています。

問21-1.3[問19-1.3] (同居者を含む) 親族、知人に子どもをみてもらった日数



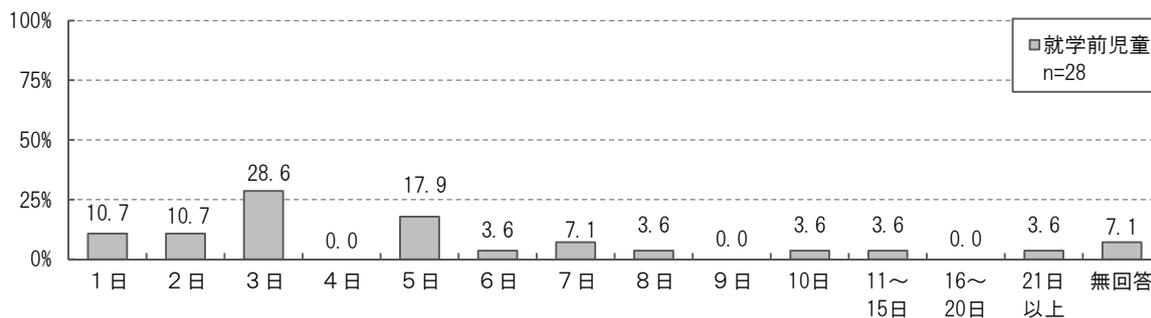
○「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数」は、就学前児童では、「1日」(16.9%)が最も高く、小学生では、「1日」「7日」が各1人となっています。

問21-1.4[問19-1.4] 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数



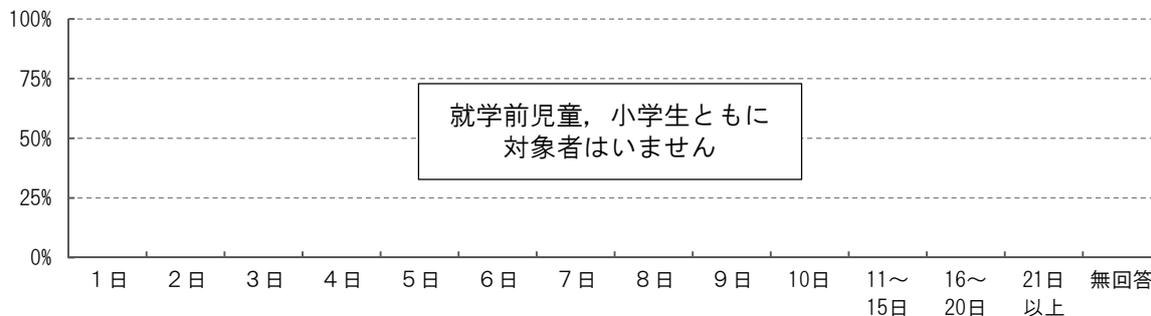
○「病児・病後児の保育を利用した日数」は、就学前児童では、「3日」(28.6%)が最も高く、次いで「5日」(17.9%)となっています。

問21-1.5 病児・病後児の保育を利用した日数



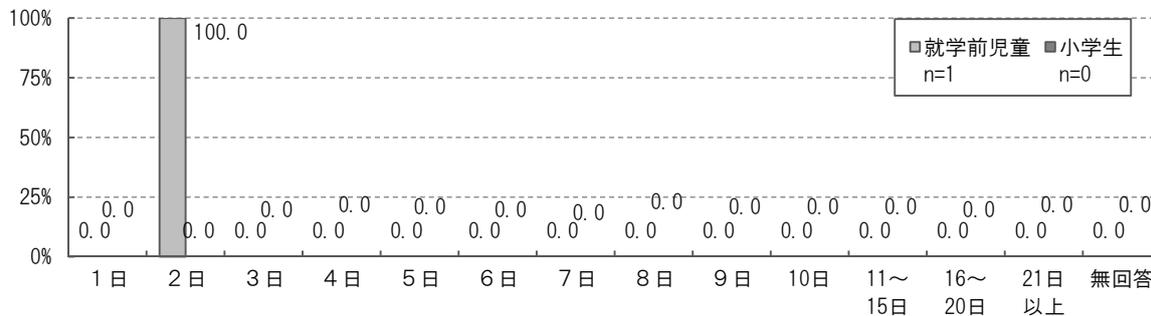
○「ベビーシッターを利用した日数」は、回答者がいません。

問21-1.6 ベビーシッターを利用した日数



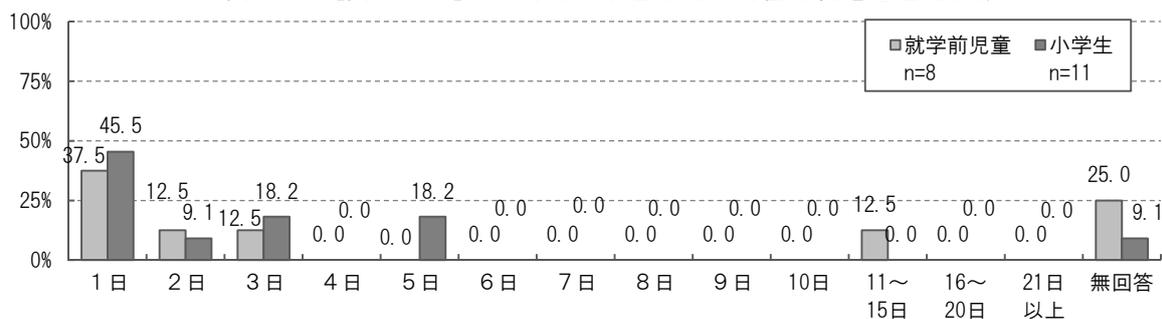
○「ファミリー・サポート・センターの送迎等を利用した日数」は、就学前児童では、1人が「2日」と回答しています。

問21-1.7[問19-1.5] ファミリー・サポート・センターの送迎等を利用した日数



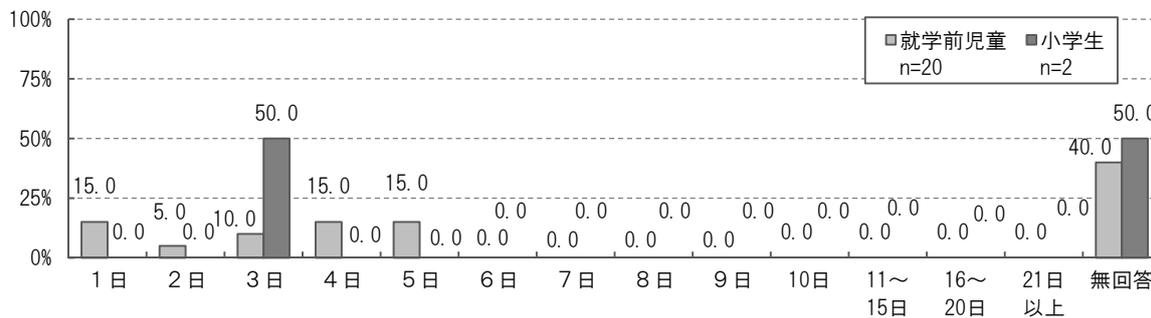
○「仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数」は、就学前児童、小学生いずれも、「1日」（就学前児童37.5%，小学生45.5%）が最も高くなっています。

問21-1.8[問19-1.6] 仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数



○「その他」は、就学前児童では、「1日」「4日」「5日」（各15.0%）が最も高く、小学生では、1人が「3日」と回答しています。

問21-1.9[問19-1.7] その他

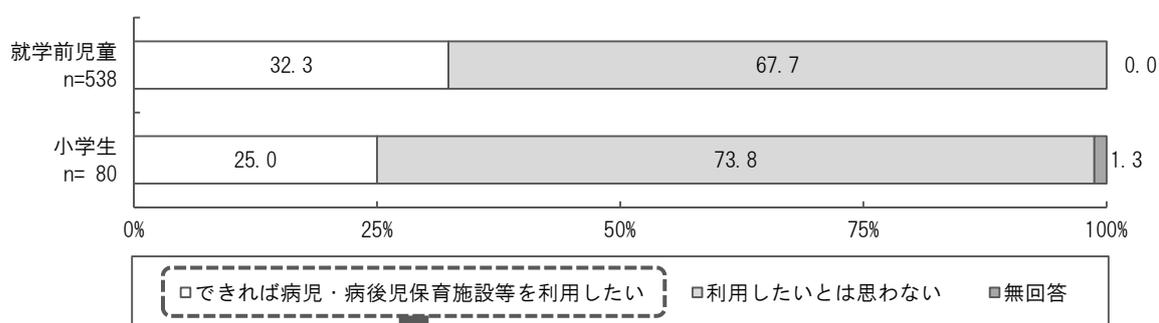


○父親、母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した方は、就学前児童では32.3%、小学生では25.0%となっています。

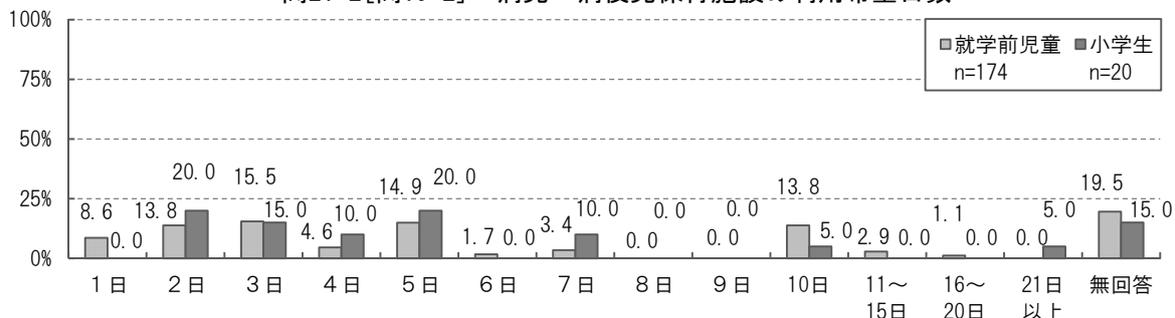
○その際の年間利用希望日数をみると、就学前児童では「3日」(15.5%)、小学生では「2日」「5日」(各20.0%)が最も高くなっています。

○子どもを預ける場合の望ましい事業形態をみると、就学前児童、小学生いずれも、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」(就学前児童85.1%、小学生95.0%)が最も高くなっています。就学前児童では「幼稚園、保育所(園)等に併設した施設で子どもを保育する事業」(69.0%)と回答した割合も高くなっています。

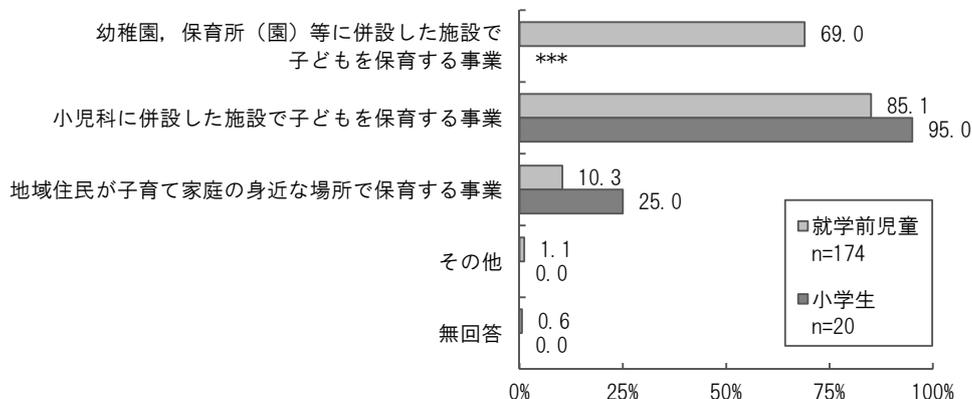
問21-2[問19-2] 父親、母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向



問21-2[問19-2] 病児・病後児保育施設の利用希望日数



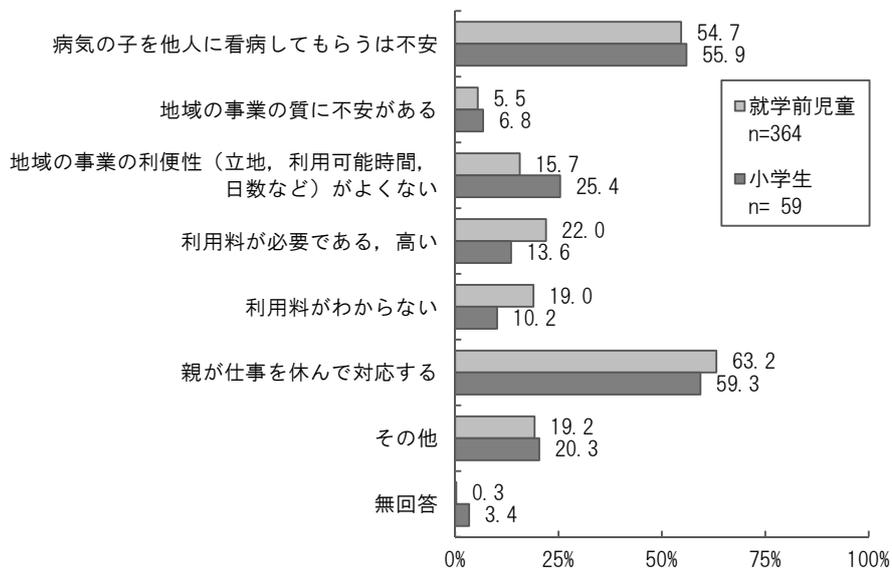
問21-3[問19-3] 子どもを預ける場合の望ましい事業形態



※「\*\*\*」表記は小学生では設問がないことを示しています。

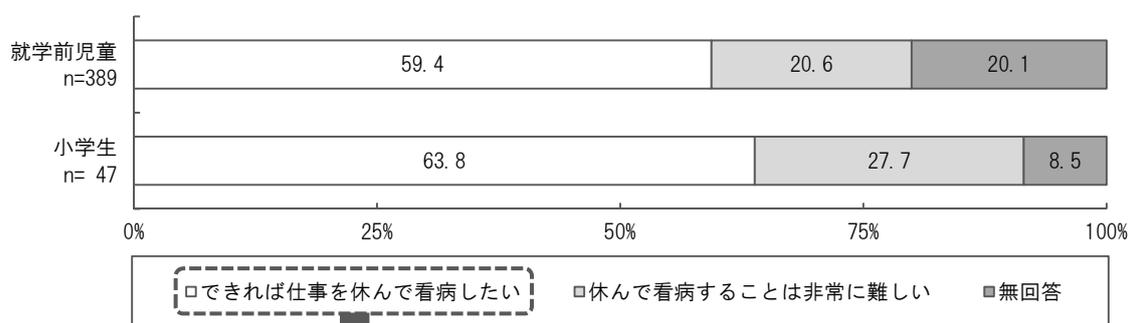
○病児・病後児保育施設等の利用意向がない方の理由をみると、就学前児童、小学生いずれも「親が仕事を休んで対応する」(就学前児童63.2%，小学生59.3%)が最も高く、次いで「病気の子を他人に看病してもらうのは不安」(就学前児童54.7%，小学生55.9%)となっています。

問21-4[問19-4] 病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由

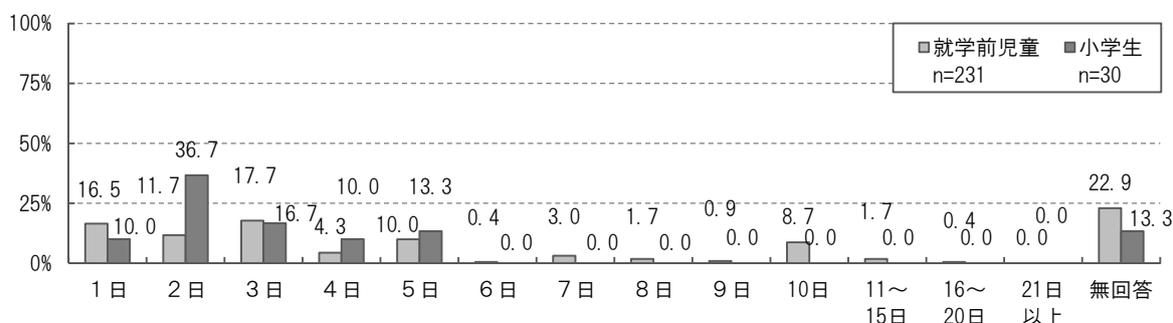


- 父母が休む以外の対処方法を選んだ方のうち、「できれば仕事を休んで看病したい」と回答した方をみると、就学前児童では59.4%，小学生では63.8%となっています。
- 「できれば仕事を休んで看病したい」と回答した方の年間希望日数は、就学前児童では「3日」（17.7%），小学生では「2日」（36.7%）が最も高くなっています。
- 「休んで看病することは非常に難しい」と回答した方の理由をみると、就学前児童、小学生いずれも「子どもの看病を理由に休みが取れない」（就学前児童47.5%，小学生38.5%）が最も高いものの、一方で「その他」が4割を超え、選択項目以外にもさまざまな理由があることがうかがえます。

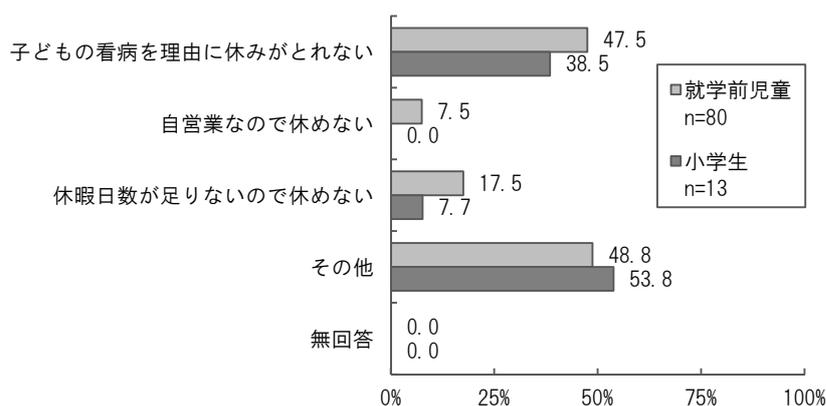
問21-5[問19-5] 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が仕事を休んで看たい」意向



問21-5[問19-5] 「できれば仕事を休んで看たい」希望日数（年間）



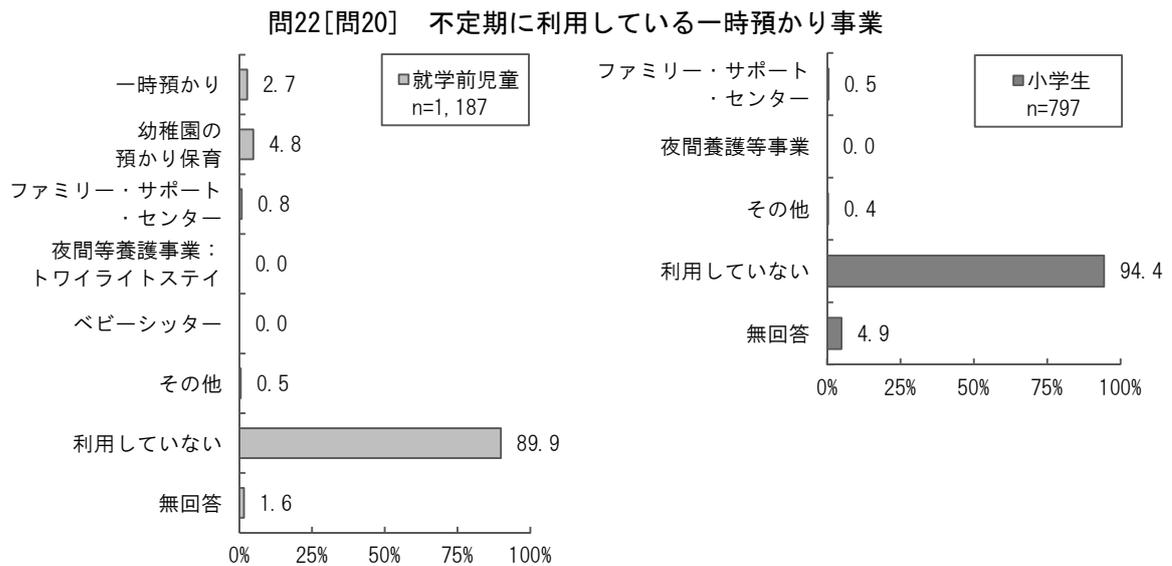
問21-6[問19-6] 「休んで看病することは非常に難しい」理由



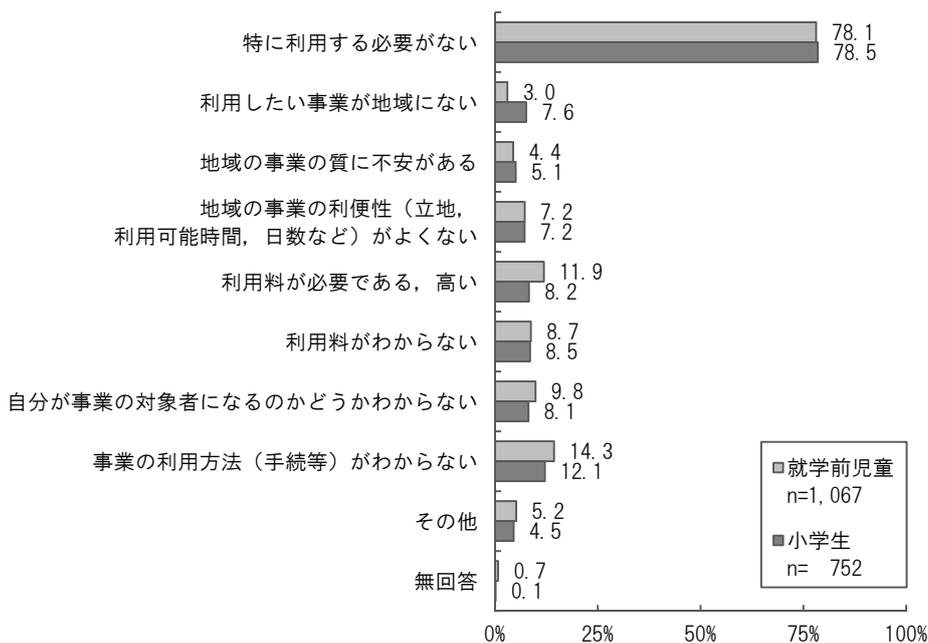
## 6 不定期の一時保育の利用について

### (1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況

- 不定期に利用している教育・保育事業の状況を見ると、「利用していない」が9割前後となっており、利用している事業は就学前児童で「幼稚園の預かり保育」(4.8%)、小学生で「ファミリー・サポート・センター」(0.5%)等となっています。
- 「利用していない」理由をみると、就学前児童、小学生いずれも「特に利用する必要がない」が8割近くを占めています。

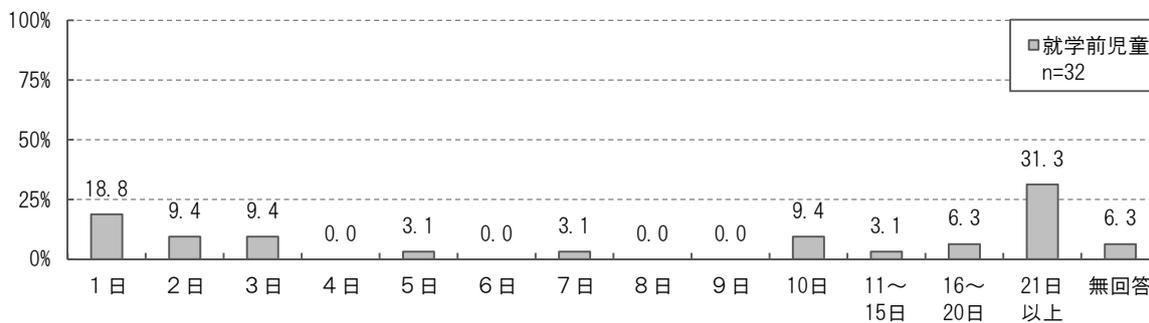


### 問22-1[問20-1] 現在利用していない理由

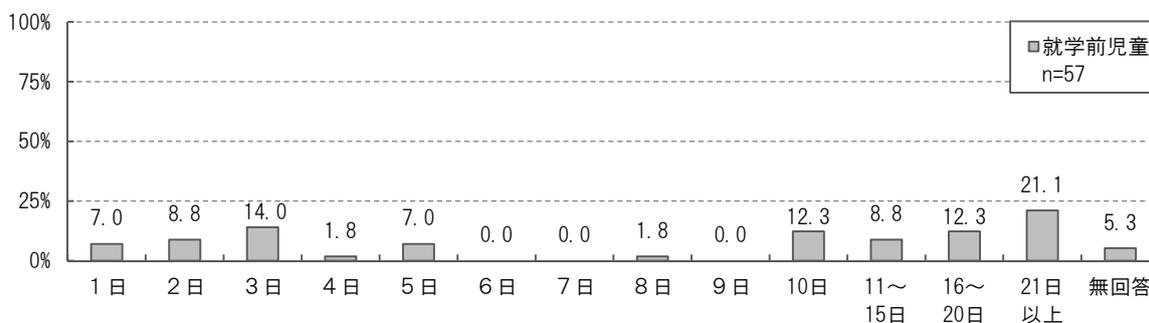


○事業別の年間利用日数は以下のとおりです。

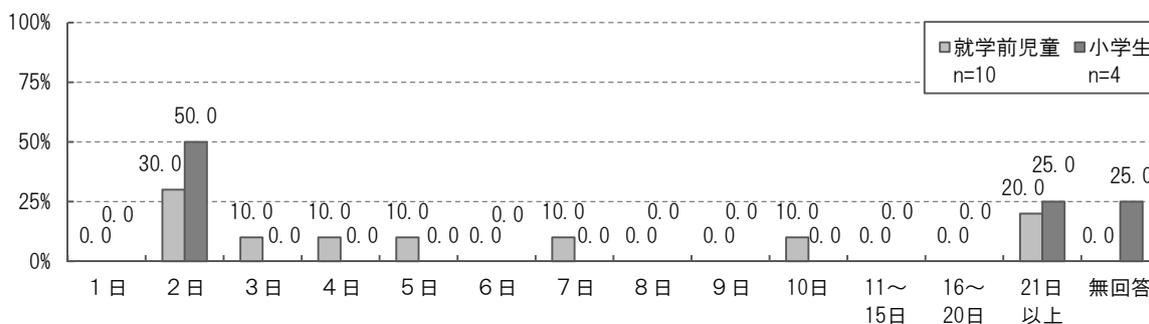
問22.1 「保育所（園）の一時預かり」年間利用日数



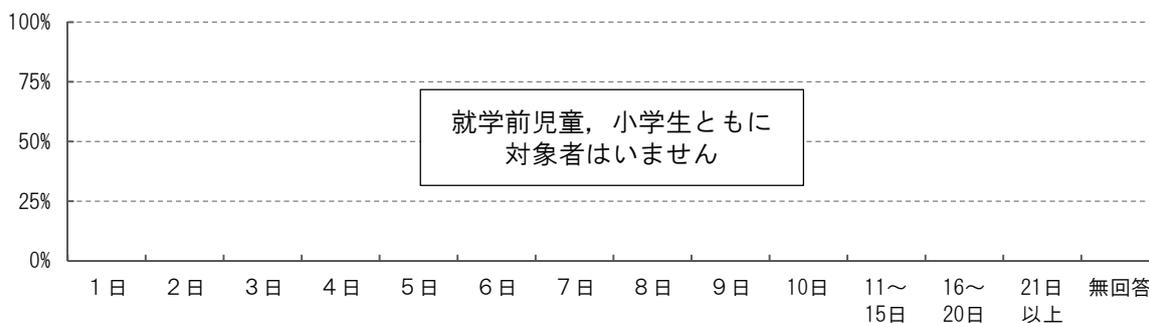
問22.2 「幼稚園、認定こども園の一時預かり」年間利用日数



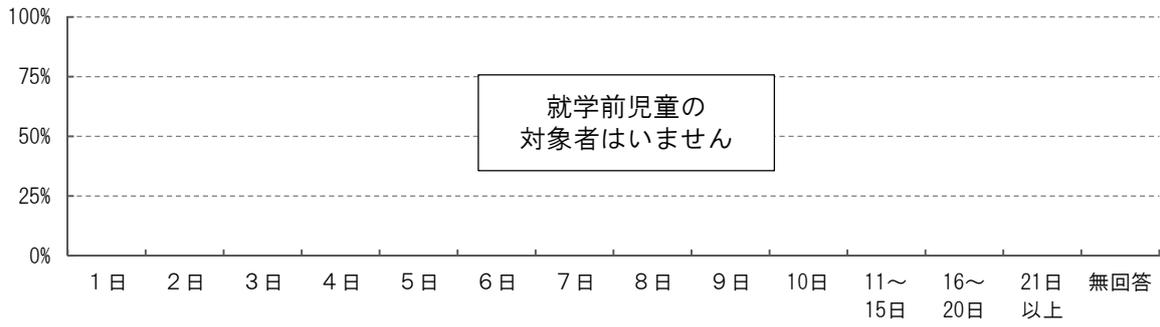
問22.3[問20.3] 「ファミリー・サポート・センター」年間利用日数



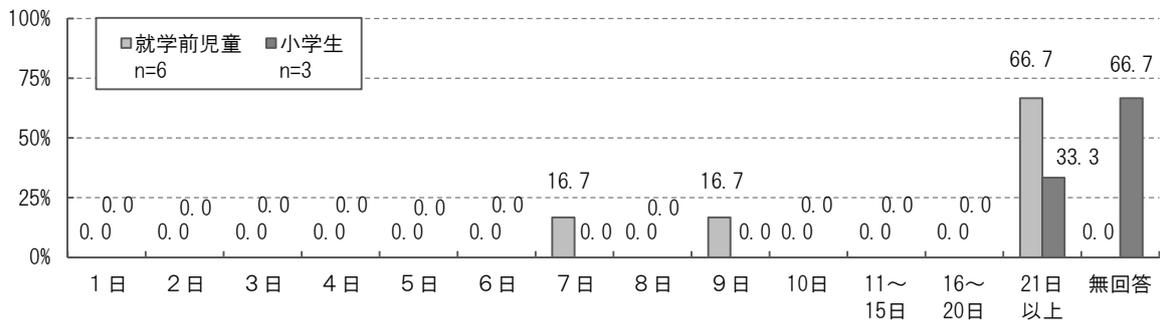
問22.4[問20.4] 「夜間養護等事業」年間利用日数



問22.5 「ベビーシッター」年間利用日数

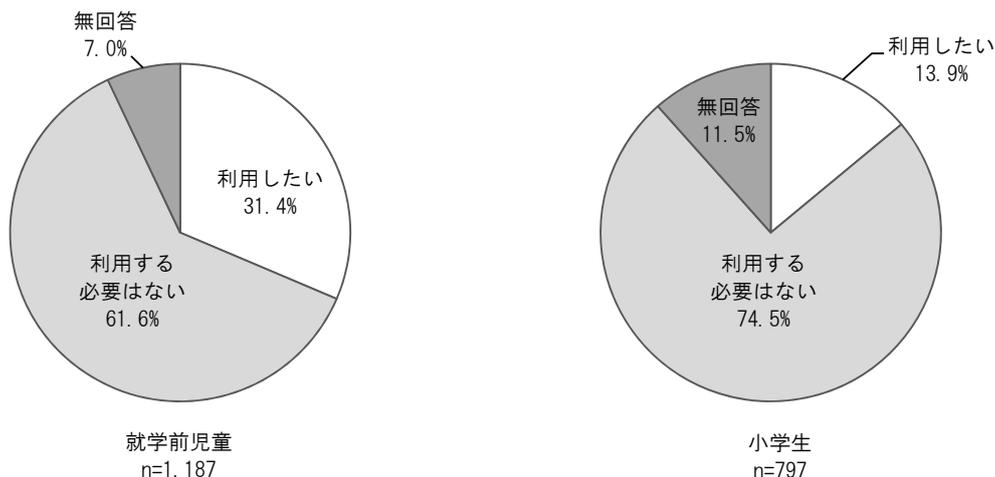


問22.6[問20.6] 「その他」年間利用日数

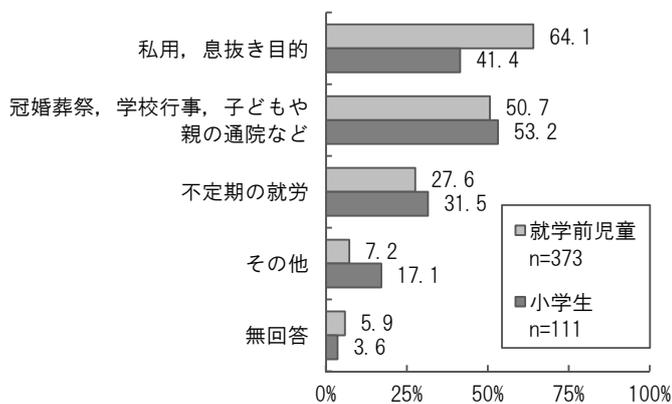


- 一時保育事業の利用希望をみると、「利用したい」と回答した方は、就学前児童では31.4%、小学生では13.9%となっています。
- 一時保育事業の利用目的をみると、就学前児童では、「私用、息抜き目的」(64.1%)が最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」(50.7%)となっています。小学生では、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」(53.2%)が最も高く、次いで「私用、息抜き目的」(41.4%)となっています。

問23[問21] 一時保育事業の利用希望とその目的

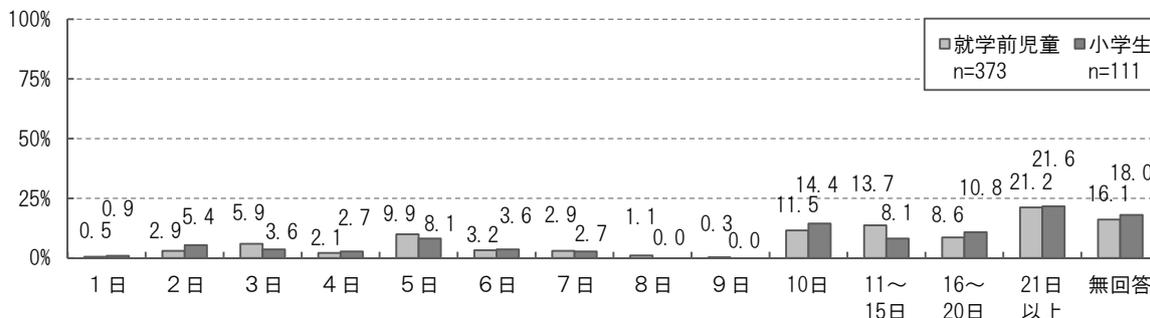


問23 [問21] 一時保育事業の利用目的



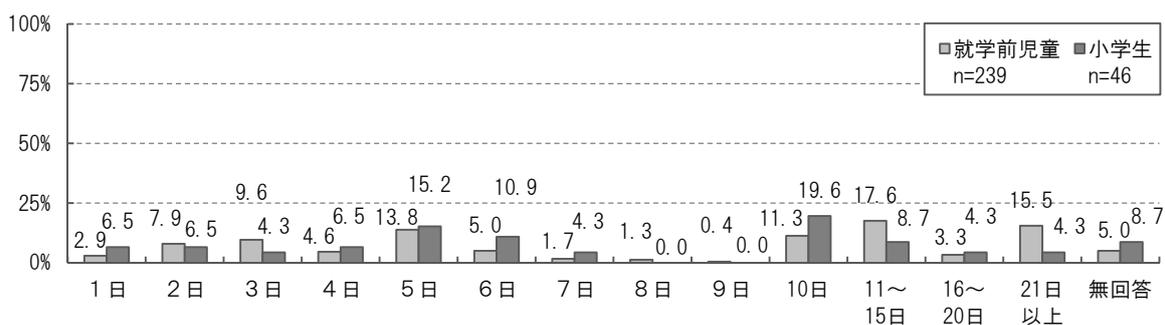
○利用希望年間合計日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「21日以上」（就学前児童21.2%、小学生21.6%）が最も高くなっています。

問23[問21] 一時保育事業の利用希望年間合計日数



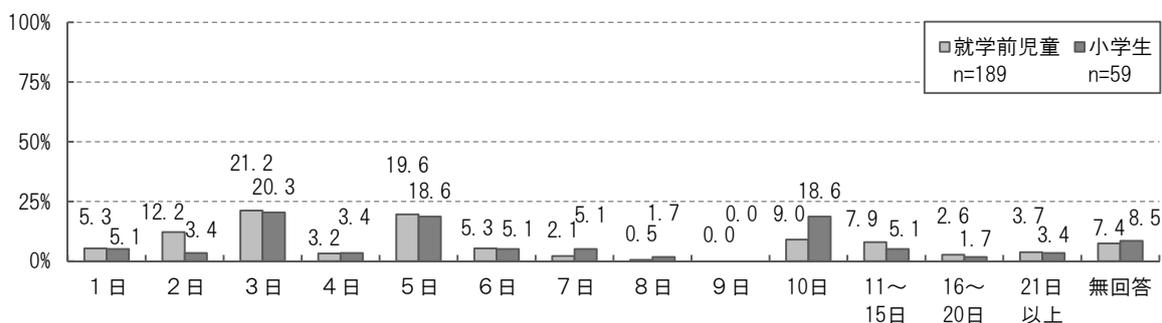
○目的ごとの年間利用希望日数をみると、「私用、息抜き目的」は、就学前児童では「11~15日」（17.6%）、小学生では「10日」（19.6%）が最も高くなっています。

問23.1[問21.1] 私用、息抜き目的



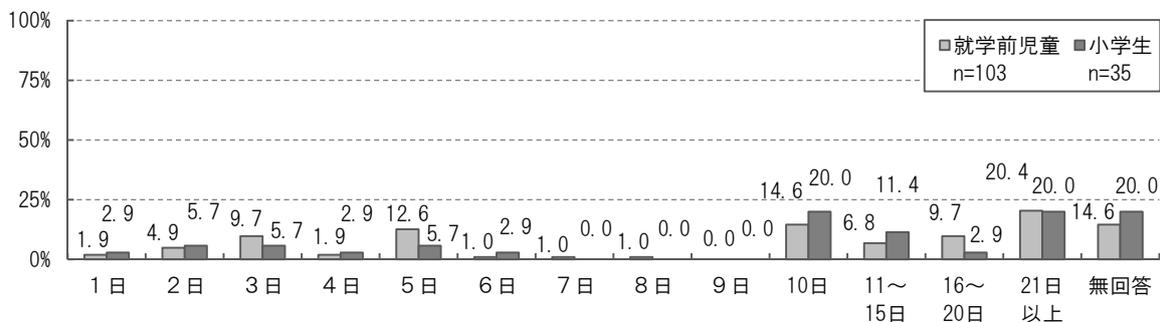
○「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」は、就学前児童、小学生いずれも「3日」（就学前児童21.2%、小学生20.3%）が最も高くなっています。

問23.2[問21.2] 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など



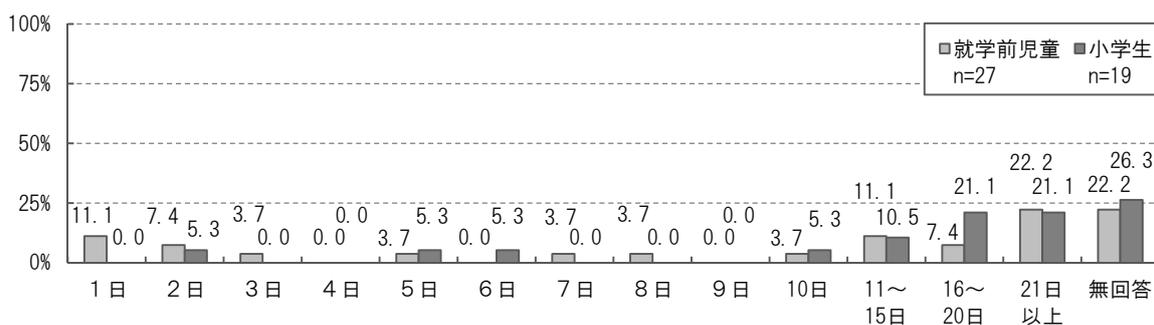
○「不特定の就労」は、就学前児童では「21日以上」(20.4%)、小学生では「10日」「21日以上」(各20.0%)が最も高くなっています。

問23.3[問21.3] 不特定の就労



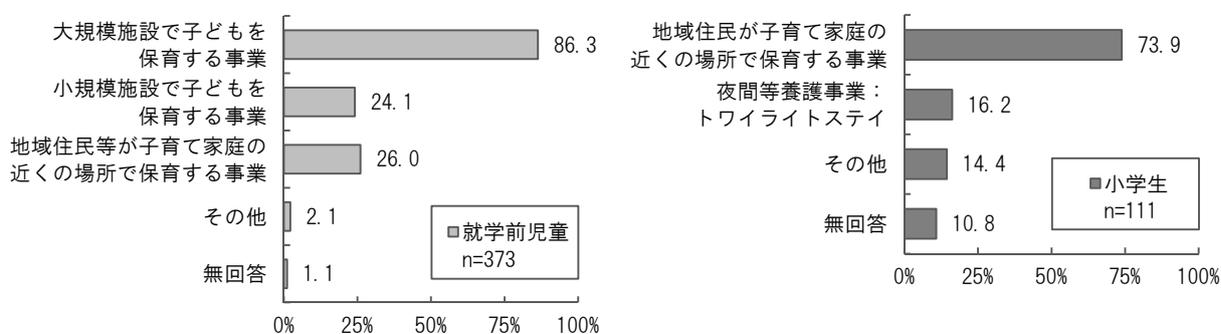
○「その他」は、就学前児童では「21日以上」(22.2%)、小学生では「16~20日」「21日以上」(各21.1%)が最も高くなっています。

問23.4[問21.4] その他



○一時保育として子どもを預ける場合の望ましい事業形態をみると、就学前児童では「大規模施設で子どもを保育する事業」(86.3%)、小学生では「地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業」(73.9%)が最も高くなっています。

問23-1[問21-1] 子どもを預ける場合の望ましい事業形態

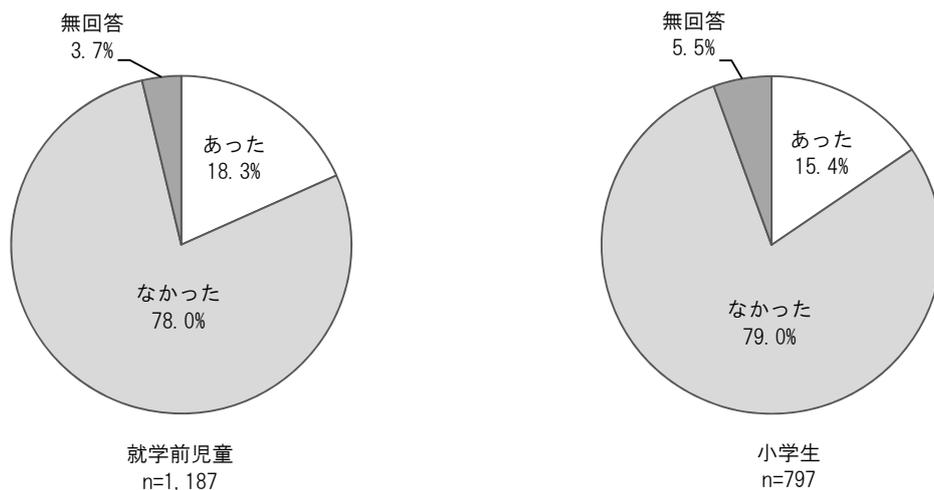


## (2) 宿泊を伴う一時保育の利用状況

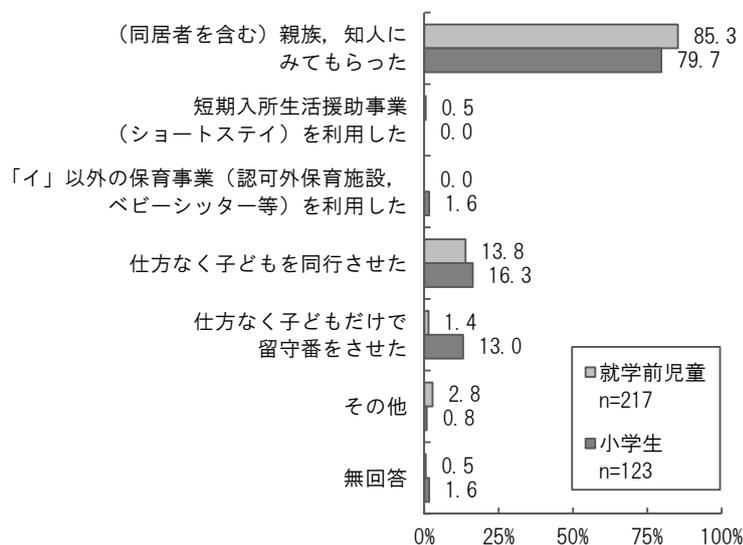
○この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけでみてもらったことが、「あった」と回答した方は就学前児童では18.3%、小学生では15.4%となっています。

○1年間の対処方法をみると、就学前児童、小学生いずれも「親族、知人にみてもらった」（就学前児童85.3%、小学生79.7%）が最も高くなっています。

問24[問22] この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無



### 問24.1[問22.1] この1年間の対処方法

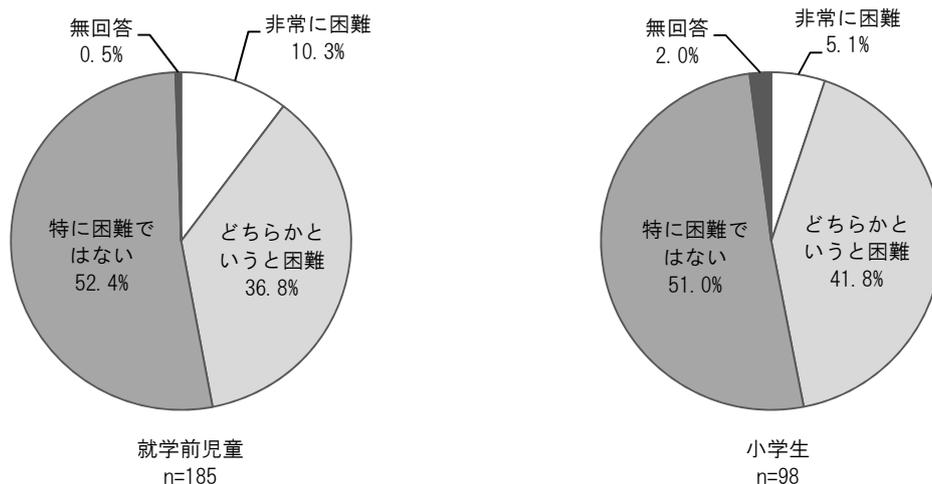


※短期入所生活援助事業：児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業

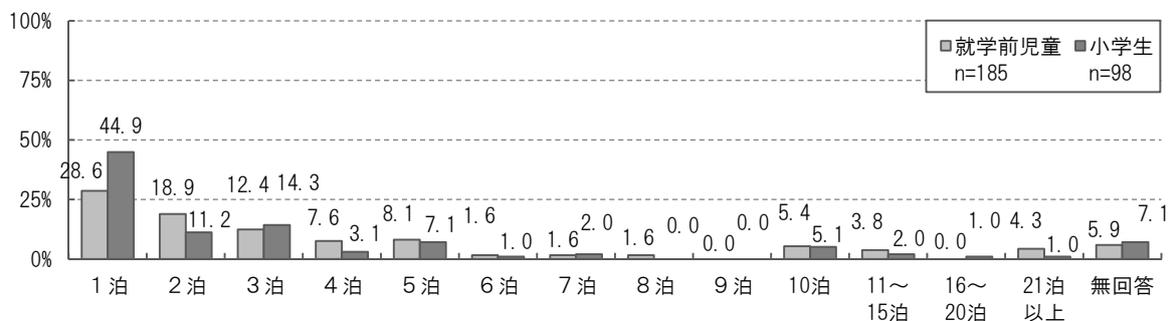
○（同居者を含む）親族，知人にみてもらう場合の困難度をみると，「非常に困難」「どちらかという困難」と回答した方は，就学前児童では47.1%，小学生では46.9%となっています。

○対処方法別の年間宿泊数をみると，以下のとおりとなり，「（同居者を含む）親族，知人にみてもらった」は就学前児童，小学生いずれも「1泊」（就学前児童28.6%，小学生44.9%）が最も高くなっています。

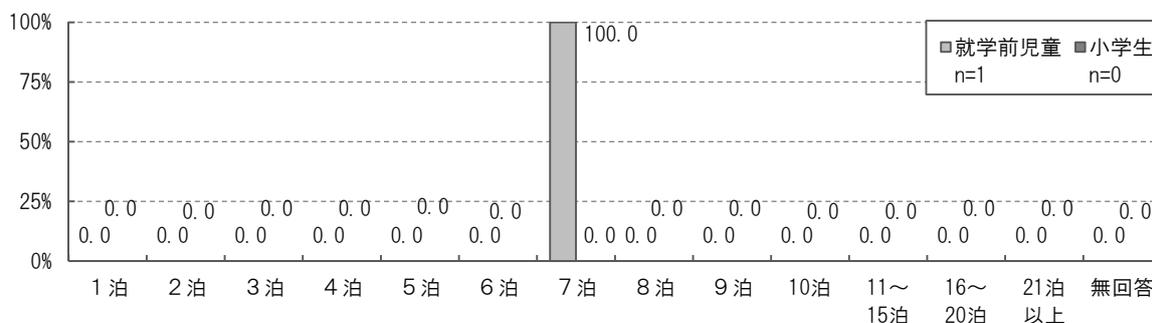
問24-1[問22-1] 親族，知人に預ける場合の困難度



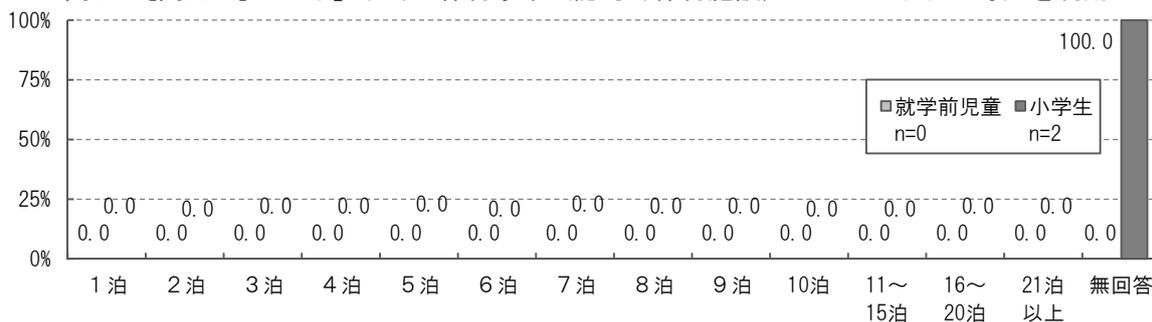
問24.1[問22.1] （同居者を含む）親族，知人にみてもらった



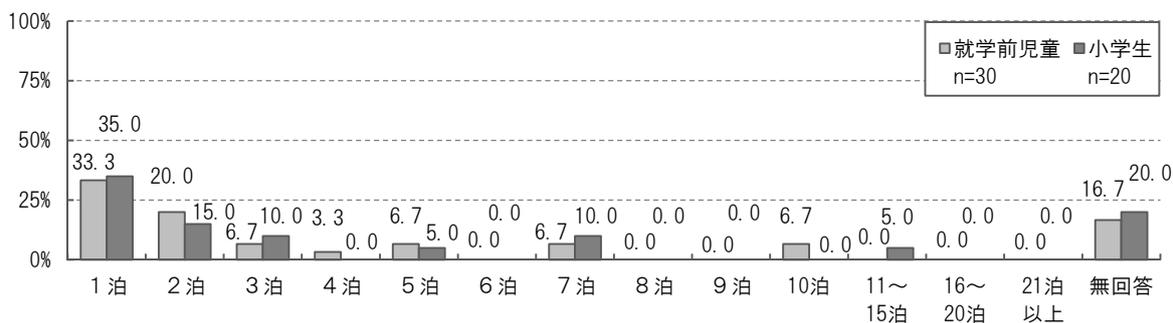
問24.2[問22.2] 短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した



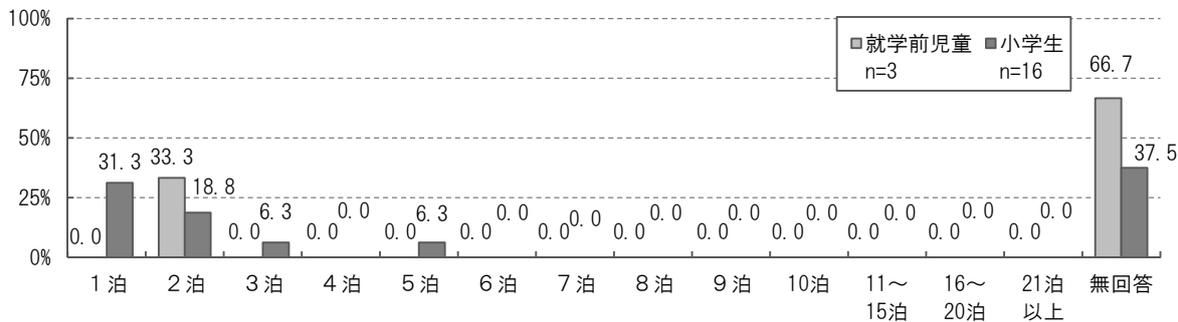
問24.3[問22.3] 「イ」以外の保育事業（認可外保育施設，ベビーシッター等）を利用した



問24.4[問22.4] 仕方なく子どもを同行させた



問24.5[問22.5] 子どもだけで留守番をさせた



問24.6[問22.6] その他

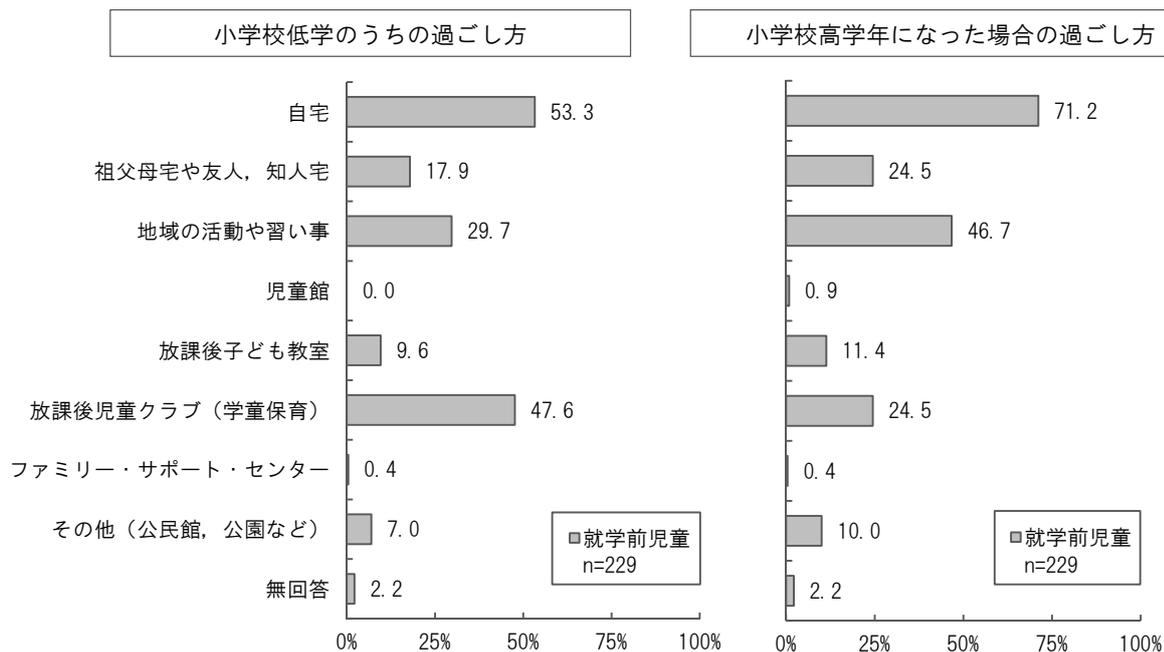


## 7 放課後の過ごし方について

### (1) 平日の放課後の過ごし方について

○放課後の過ごし方の希望をみると、低学年のうちは「自宅」(53.3%)が最も高く、次いで「放課後児童クラブ(学童保育)」(47.6%)となっています。高学年になると、「自宅」(71.2%)が最も高く、次いで「地域の活動や習い事」(46.7%)となっています。

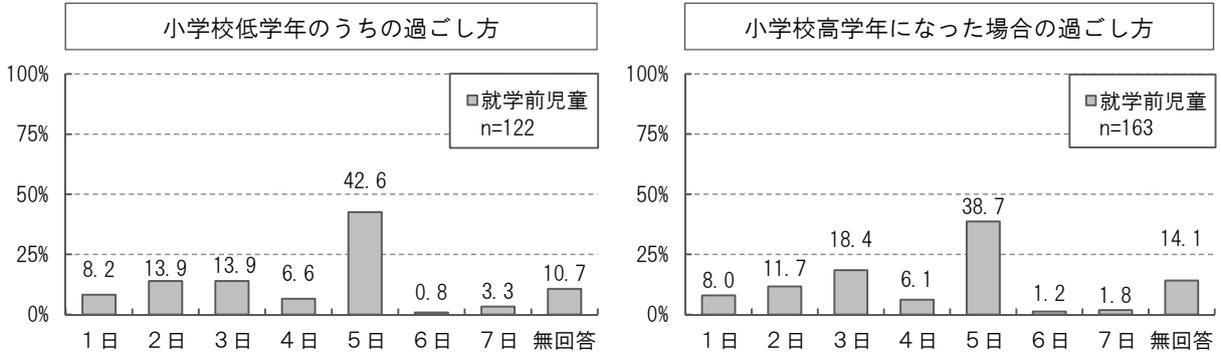
問25・問26 放課後の過ごし方の希望



※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生です。

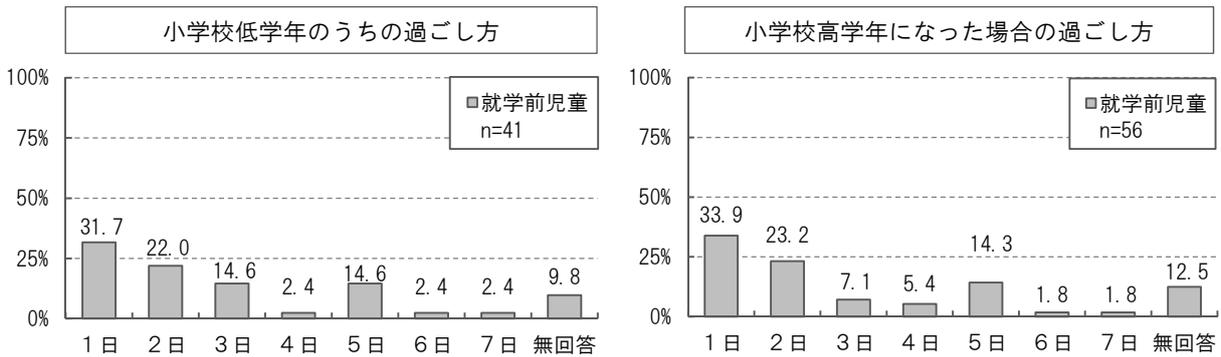
○保護者が放課後を過ごさせたい場所別に1週当たりの希望日数をみると、「自宅」は、低学年時期、高学年時期いずれも「5日」（低学年時期42.6%、高学年時期38.7%）が最も高くなっています。

問25.1・問26.1 「自宅」希望日数（1週当たり）



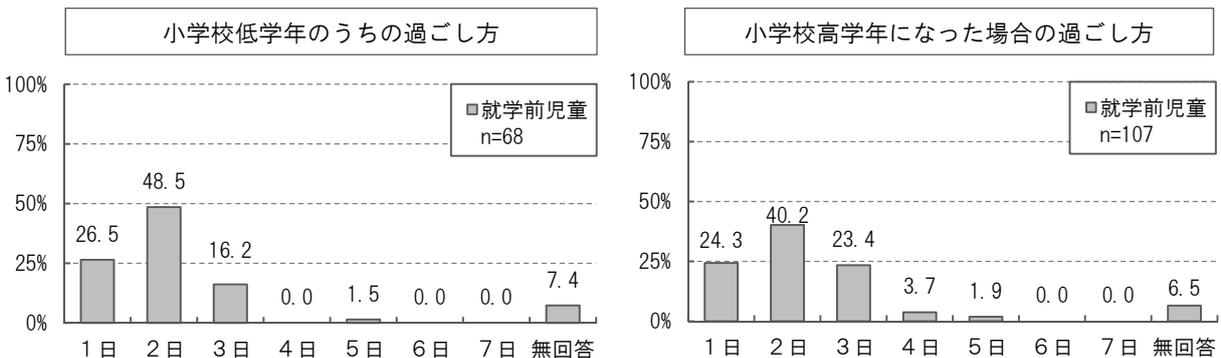
○「祖父母宅や友人，知人宅」は、低学年時期、高学年時期いずれも「1日」（低学年時期31.7%、高学年時期33.9%）が最も高くなっています。

問25.2・問26.2 「祖父母宅や友人，知人宅」希望日数（1週当たり）



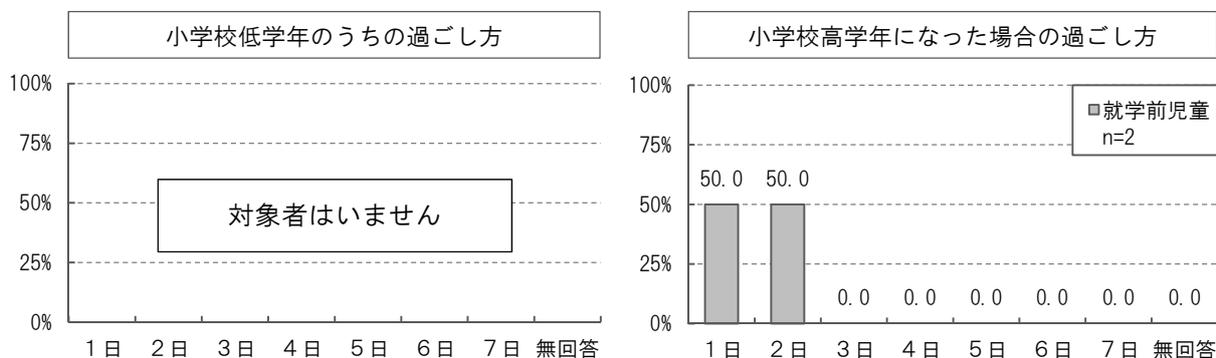
○「地域の活動や習い事」は、低学年時期、高学年時期いずれも「2日」（低学年時期48.5%、高学年時期40.2%）が最も高くなっています。

問25.3・問26.3 「地域の活動や習い事」希望日数（1週当たり）



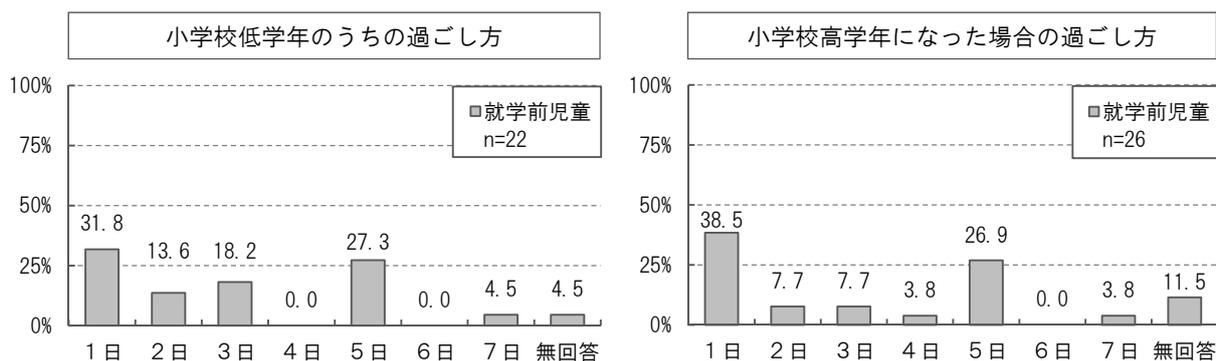
○「児童館」は、高学年時期では「1日」「2日」が各1人となっています。

問25.4・問26.4 「児童館」希望日数（1週当たり）



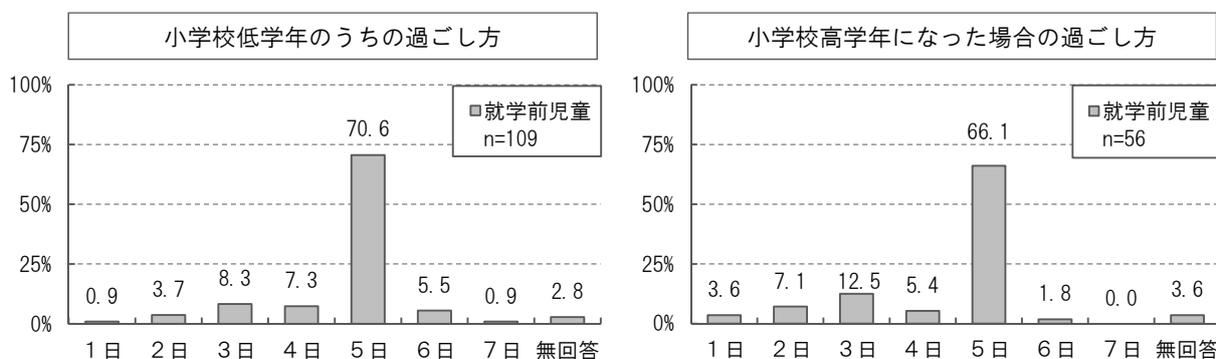
○「放課後子ども教室」は、低学年時期、高学年時期いずれも「1日」(低学年時期31.8%、高学年時期38.5%)が最も高くなっています。

問25.5・問26.5 「放課後子ども教室」希望日数（1週当たり）



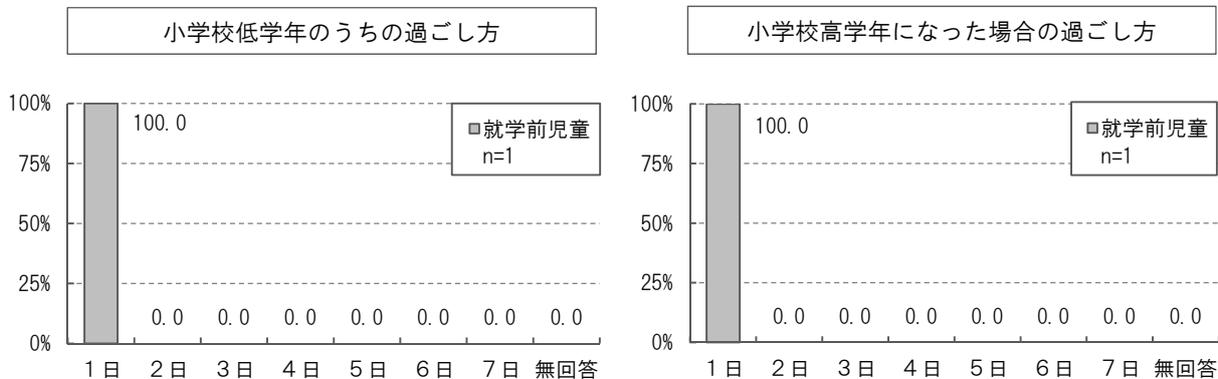
○「放課後児童クラブ（学童保育）」は、低学年時期、高学年時期いずれも「5日」(低学年時期70.6%、高学年時期66.1%)が最も高くなっています。

問25.6・問26.6 「放課後児童クラブ（学童保育）」希望日数（1週当たり）



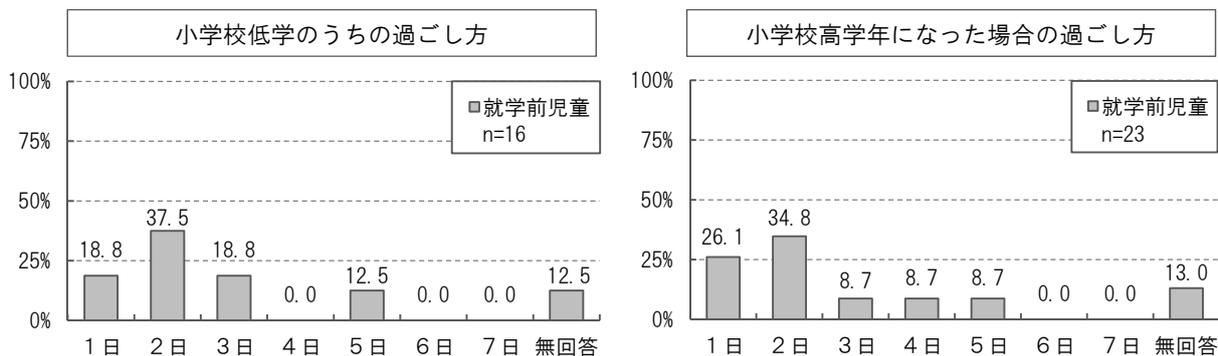
○「ファミリー・サポート・センター」は、低学年時期、高学年時期いずれも1人が「1日」と回答しています。

問25.7・問26.7 「ファミリー・サポート・センター」希望日数（1週当たり）



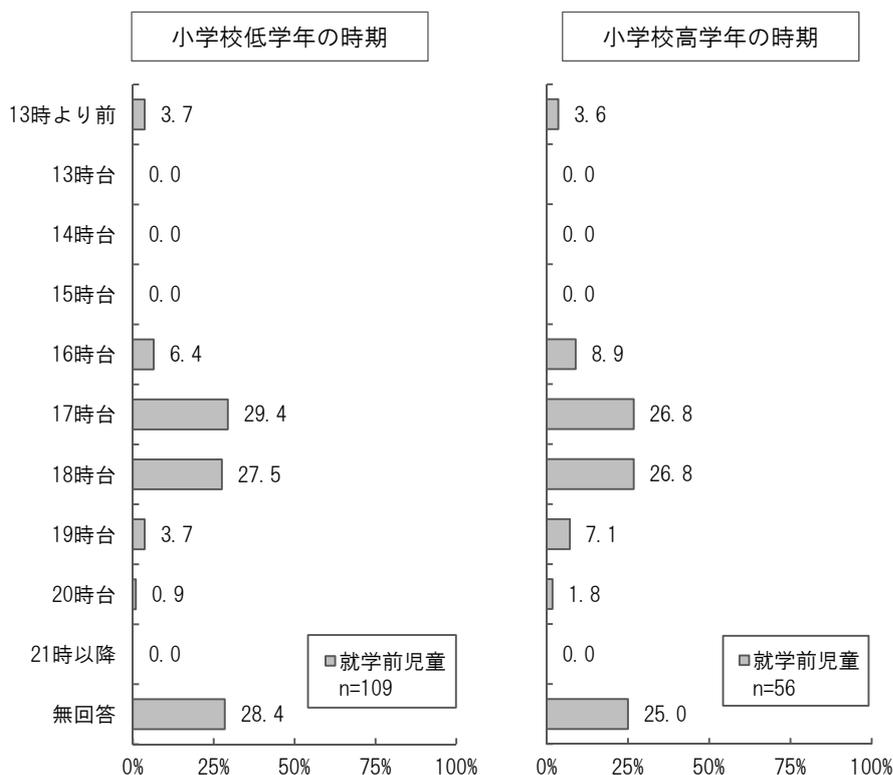
○「その他（公民館、公園など）」は、低学年時期、高学年時期いずれも「2日」（低学年時期37.5%、高学年時期34.8%）が最も高くなっています。

問25.8・問26.8 「その他（公民館、公園など）」希望日数（1週当たり）



○放課後児童クラブの下校時からの利用希望時間帯をみると、低学年時期では、「17時台」(29.4%)が最も高く、次いで「18時台」(27.5%)となっています。高学年時期では「17時台」「18時台」(各26.8%)が最も高く、次いで「16時台」(8.9%)となっています。

問25.6・問26.6 「放課後児童クラブ」下校時からの利用希望時間



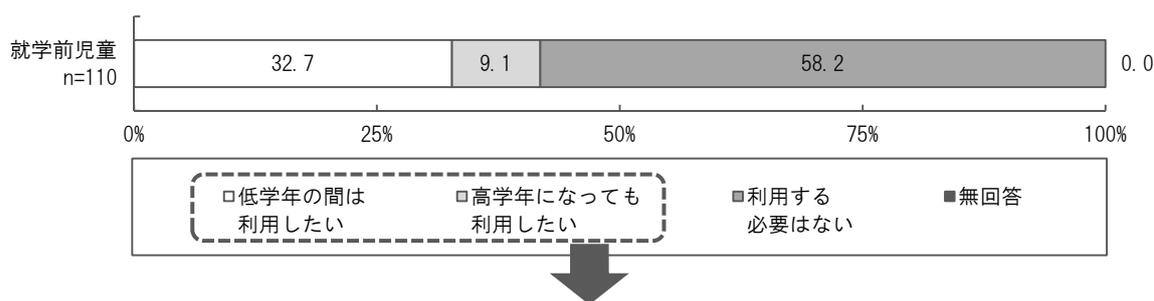
## (2) 土曜日、日曜日、祝日、長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

○放課後児童クラブの土曜日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は41.8%となっています。

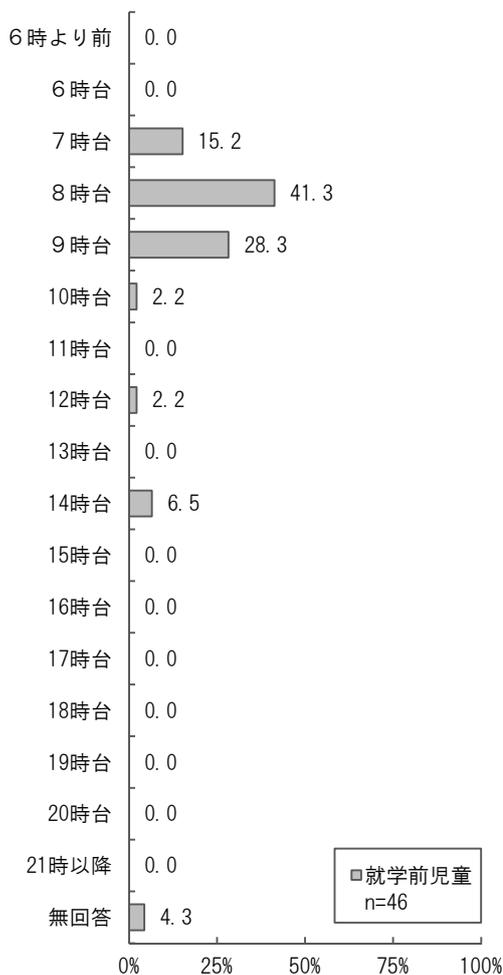
○希望開始時間をみると、「8時台」(41.3%)が最も高く、次いで「9時台」(28.3%)となっています。

○希望終了時間をみると、「17時台」(37.0%)が最も高く、次いで「18時台」(26.1%)となっています。

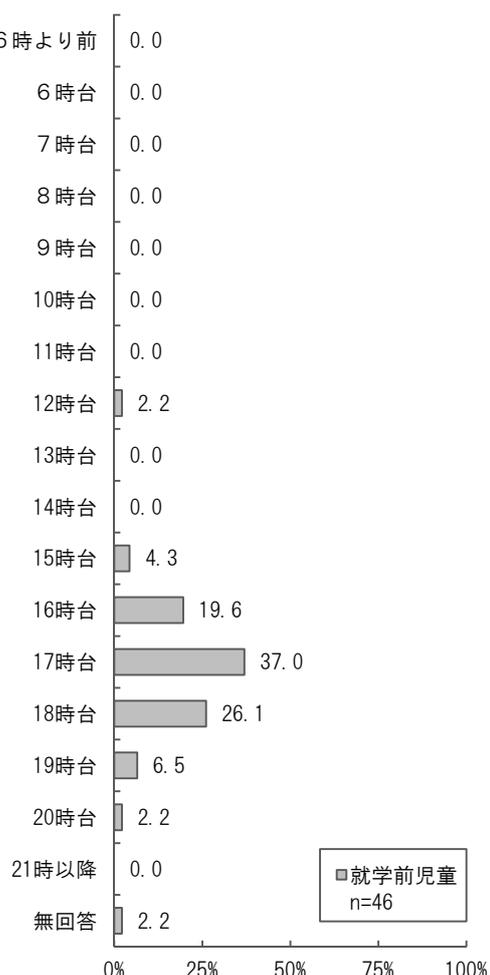
問27(1) 放課後児童クラブの土曜日の利用希望



問27(1) 希望開始時間



問27(1) 希望終了時間

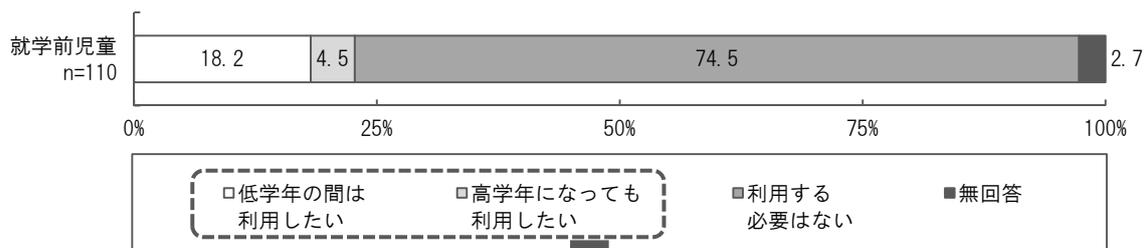


○放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は合わせて22.7%となっています。

○希望開始時間をみると、「8時台」(60.0%)が最も高く、次いで「7時台」(20.0%)となっています。

○希望終了時間をみると、「17時台」(40.0%)が最も高く、次いで「18時台」(36.0%)となっています。

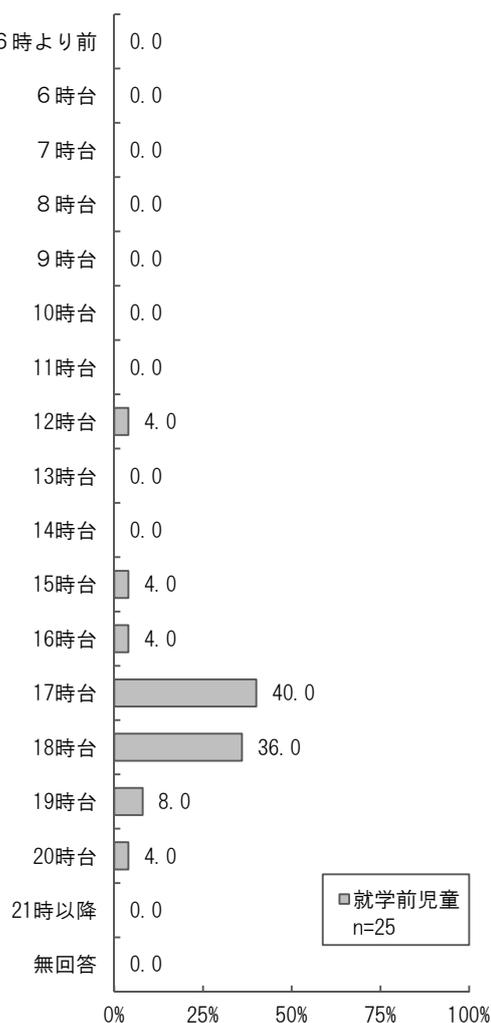
問27(2) 放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望



問27(2) 希望開始時間

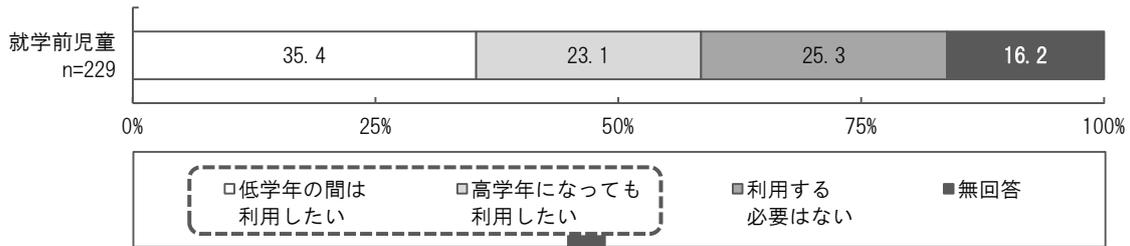


問27(2) 希望終了時間

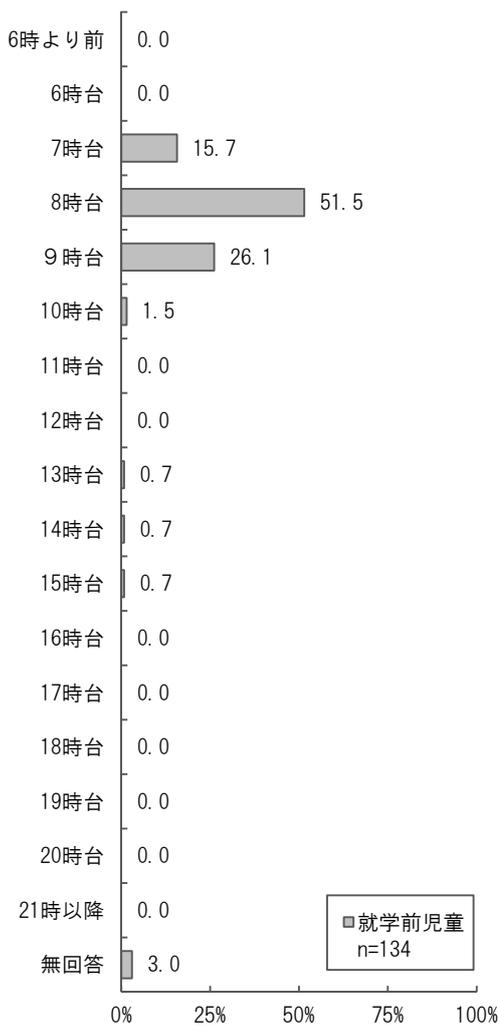


- 放課後児童クラブの長期休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」、「高学年になっても利用したい」と回答した方は合わせて58.5%となっています。
- 希望開始時間をみると、「8時台」(51.5%)が最も高く、次いで「9時台」(26.1%)となっています。
- 希望終了時間をみると、「17時台」(36.6%)が最も高く、次いで「18時台」(24.6%)となっています。

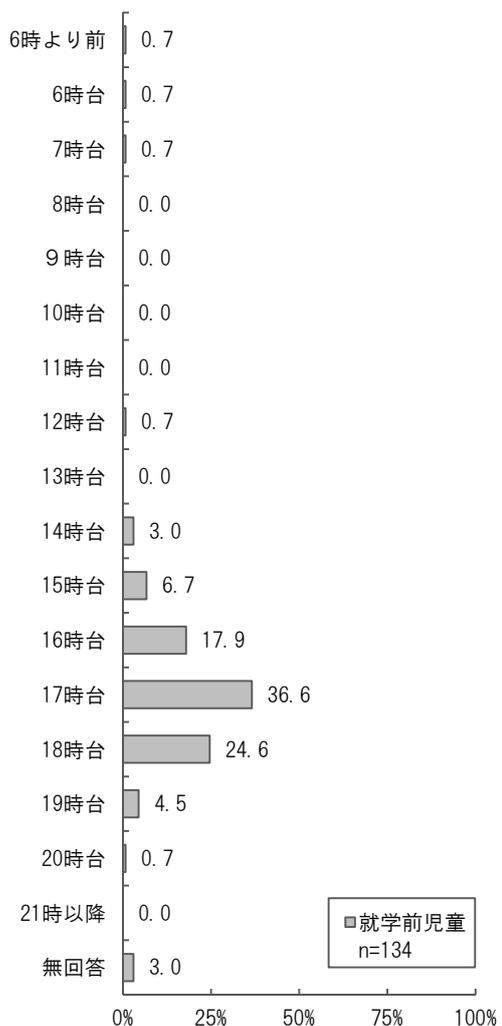
問28 長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望



問28 希望開始時間



問28 希望終了時間



## 8 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望における分析，課題

### 結果1 定期的な教育・保育事業を利用していない家庭は27.9%

平日の定期的な教育・保育等を「利用している」家庭は71.4%、「利用していない」家庭は27.9%となっています。

利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）（49.2%）」、「利用する必要がない」（45.6%）が大半を占めています。一方で、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」（10.3%）、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」（3.6%）、「利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない」（2.1%）、「利用したいが、延長保育等の時間帯の条件が合わない」（1.2%）など利用希望があるにもかかわらず、利用場所や経済的な理由等によって利用に至っていない保護者がいる状況です。

また、母子家庭が平日の定期的な教育・保育等を「利用している」割合は89.7%と高く、利用事業は「保育所（園）」が80.8%を占めています。【問14・14-1・14-5】



以上の結果から、利用希望はあるが利用できない状況にある保護者がいることを考慮し、事業の利用者だけでなく、未利用者を含めた保護者のニーズに合った教育・保育事業になるよう、更なる充実に向けた条件等の改善や環境整備、待機児童対策などを検討していく必要があります。また、2019年10月より幼児教育・保育の無償化が予定されており、現在の未利用理由を踏まえた上で、利用増加を見込んだ教育・保育事業量の確保をする必要があります。

## 結果2 平日の定期的な教育・保育事業は、利用希望が利用実態を上回っている

実際に利用中の定期的な幼児教育・保育事業は、「保育所（園）」が58.1%、「私立幼稚園」が22.4%、「市立幼稚園」が9.8%、「認定こども園」が7.2%、「幼稚園，認定こども園の一時預かり」が1.7%となっています。

一方、保護者が希望する事業は「保育所（園）」が58.0%、「私立幼稚園」は34.7%、「市立幼稚園」が28.4%、「認定こども園」が20.3%、「幼稚園，認定こども園の一時預かり」が18.8%となっています。

平日の定期的な教育・保育事業に関して、実際の利用と希望の乖離が大きい事業は、「市立幼稚園」が18.6<sup>ポイント</sup>、「幼稚園，認定こども園の一時預かり」が17.1<sup>ポイント</sup>、「認定こども園」が13.1<sup>ポイント</sup>、「私立幼稚園」が12.3<sup>ポイント</sup>となり、いずれも希望の割合が高くなっています。【問14-1・15】



以上の結果から、一律的な支援だけでなく、多様な利用者ニーズに応じた事業運営を検討するとともに、「幼稚園，認定こども園の預かり保育」をはじめ平日の定期的な教育・保育事業において各事業量の精査をする必要があります。

## 結果3 子育て支援事業の認知度に対して、利用者や利用希望割合はやや少ない

就学前児童の保護者における子育て支援事業の認知度をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」が80.8%、「子育て支援センターの教室・講座・相談」が77.7%と高く、それ以外の事業でも4割以上となっています。

子育て支援事業の利用状況をみると、「子育ての相談窓口」が10.4%と最も低く、次いで「つどいの広場の講座・相談」（21.2%）、「公民館の講座」（23.6%）となっています。また、「保健センターの教室・相談」では認知度が71.9%と高いものの、利用割合は36.1%にとどまっています。

今後利用したい事業をみると、「つどいの広場の講座・相談」以外の全ての事業で3～4割台の利用希望となっています。また、「子育て相談窓口」では実際の利用（10.4%）を今後の利用希望（31.5%）が21.1<sup>ポイント</sup>と大きく上回っています。【問18】



以上の結果から、全体的な事業の認知は進んでいるため、今後は利用率の低い事業について利用率向上の対策，検討する必要があります。利用率向上にはサービスの内容をより明確に認知してもらえるよう広報活動の見直しや，利便性等，利用者の視点に立った事業のあり方についても検討する必要があります。また，既利用者の保護者間のネットワークを利用するなど，効果的な働きかけも行っていく必要があります。

#### 結果4 就学前児童保護者の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望は、 低学年時の47.6%から高学年時24.5%と半減

小学校就学後の放課後の過ごし方について、就学前児童（5歳以上）の保護者の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望をみると、小学校低学年のうちは47.6%となっていますが、高学年になると24.5%と半減しています。

一方、「自宅」の希望割合は、低学年時期の53.3%から高学年時期は71.2%と17.9<sup>ポイント</sup>高く、「地域の活動や習い事」では、低学年時期の29.7%から高学年時期は46.7%と17.0<sup>ポイント</sup>高くなり、利用希望に変化がみられます。

また、母子家庭の放課後の過ごし方の希望をみると、低学年のうちは「放課後児童クラブ（学童保育）」（73.3%）の利用希望が最も高く、高学年時期は「自宅」が86.7%と最も高くなっています。

「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望時間は、低学年時期、高学年時期ともに下校時から「17時台」（29.4%、26.8%）、「18時台」（27.5%、26.8%）までと回答した割合が高くなっています。

土曜日、日曜日、祝日、長期休暇期間中の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望をみると、土曜日は41.8%、日曜日、祝日では22.7%、長期休暇期間中では58.5%となり、特に長期休暇期間中の利用希望が高い状況です。【問25・26・27（1）（2）・問28】



以上の結果から、子どもの放課後の安全な過ごし方として一定の役割を担い、利用希望も高い放課後児童クラブについては、今後も子どもの成長に繋がる事業として、保護者のニーズを反映しながら、長期休暇期間中の運営のあり方を含め、よりよい事業内容への改善や環境、運営の整備を図り、さらに充実していくことが求められます。



## **第4章**

### **育児休業制度の利用状況**

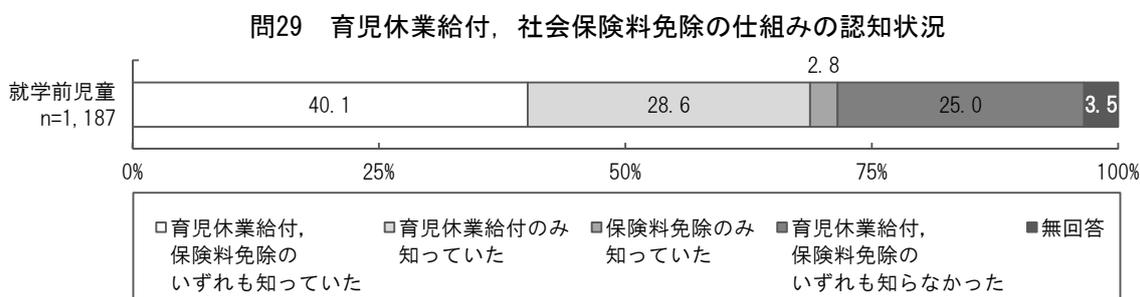


## 第4章 育児休業制度の利用状況

### 1 育児と仕事の両立支援制度について

#### (1) 支援制度の認知状況

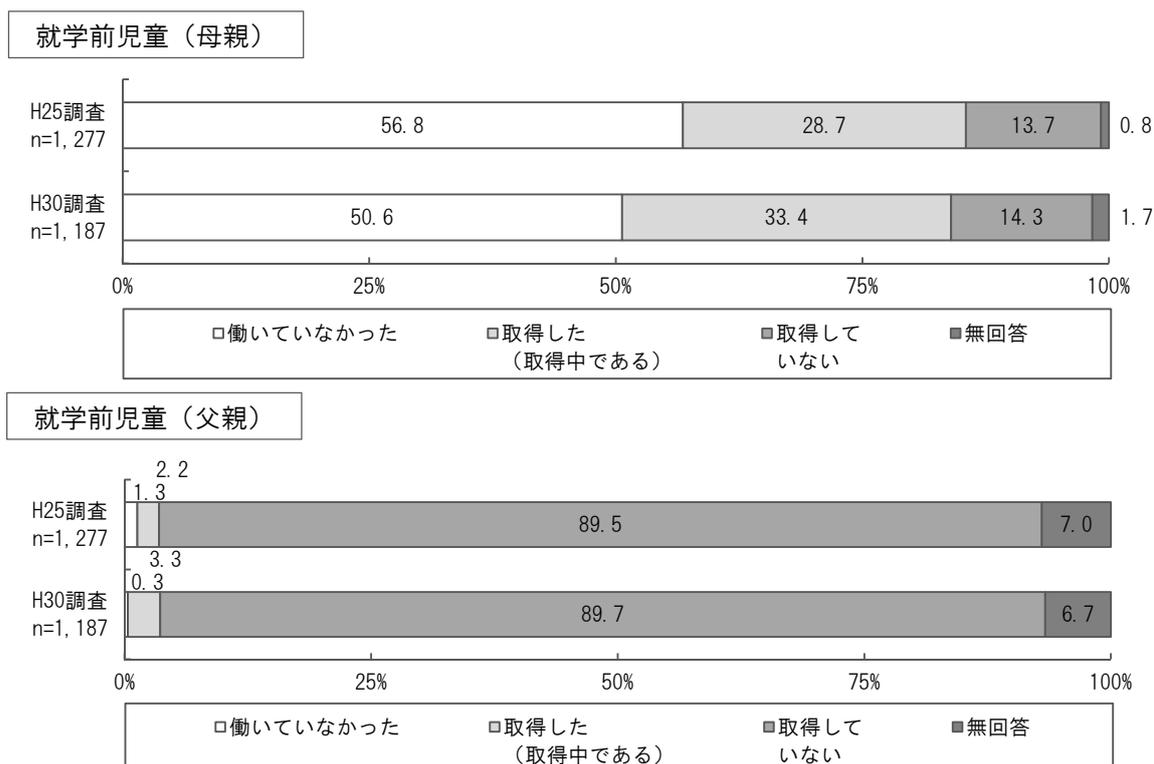
○育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの認知状況をみると、就学前児童では、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」(40.1%)、「育児休業給付のみ知っていた」(28.6%)、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」(25.0%)となっています。



#### (2) 育児休業制度の利用状況

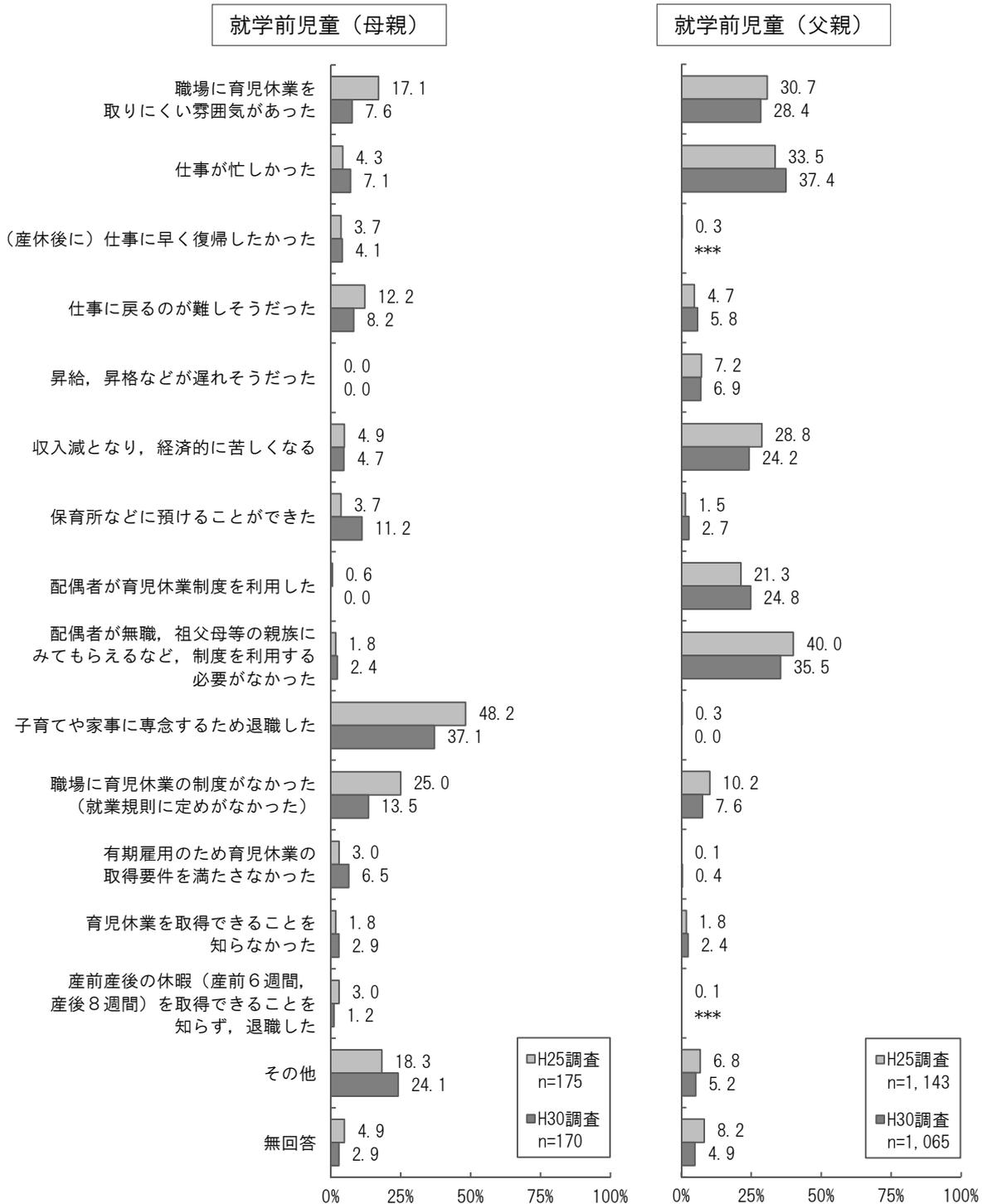
○育児休業制度の利用状況をみると、就学前児童では、「取得した（取得中である）」母親では33.4%、父親では3.3%となっています。前回調査と比較すると、「取得した（取得中である）」母親は4.7ポイント、父親は1.1ポイント高くなっています。

問30 育児休業制度の利用状況（経年比較）



○育児休業を取得していない理由をみると、母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」(37.1%)が最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(13.5%)となっています。父親では、「仕事が忙しかった」(37.4%)が最も高く、次いで「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(35.5%)となっています。

問30-1 育児休業を取得していない理由(経年比較)

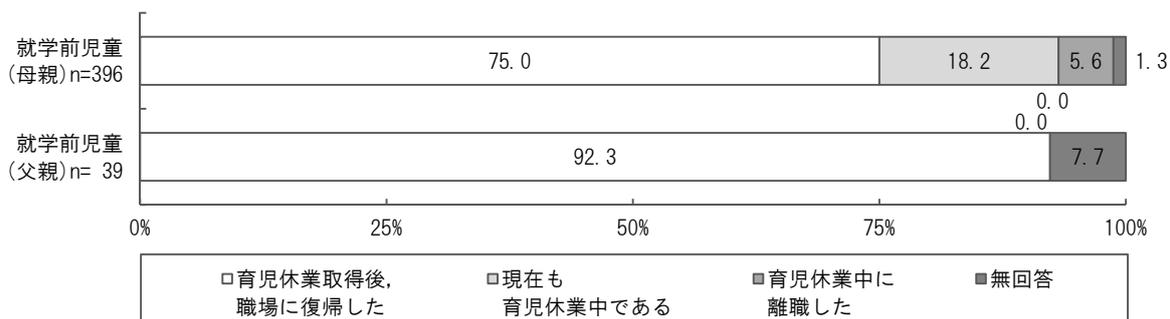


### (3) 職場復帰の状況

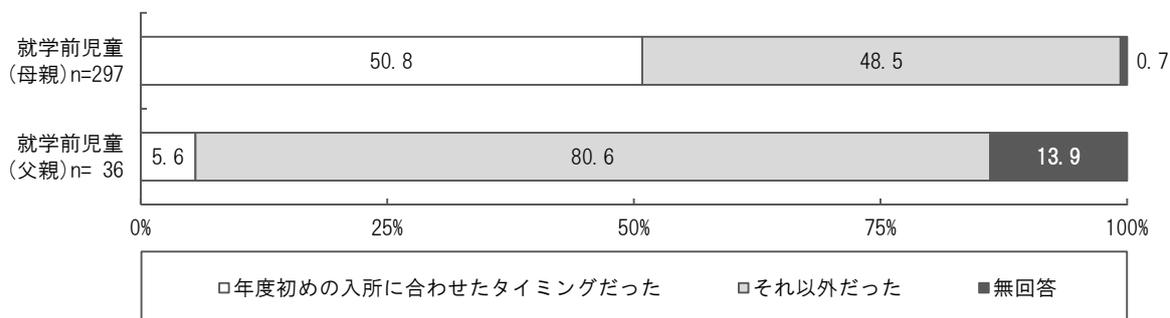
○育児休業取得後の対処をみると、母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」(75.0%)が最も高く、次いで「現在も育児休業中である」(18.2%)、「育児休業中に離職した」(5.6%)となっています。父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」(92.3%)、「無回答」(7.7%)となっています。

○育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親では、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(50.8%)、父親では、「それ以外だった」(80.6%)となっています。

問30-2 育児休業取得後の職場への対処



問30-3 育児休業後に職場へ復帰した時期

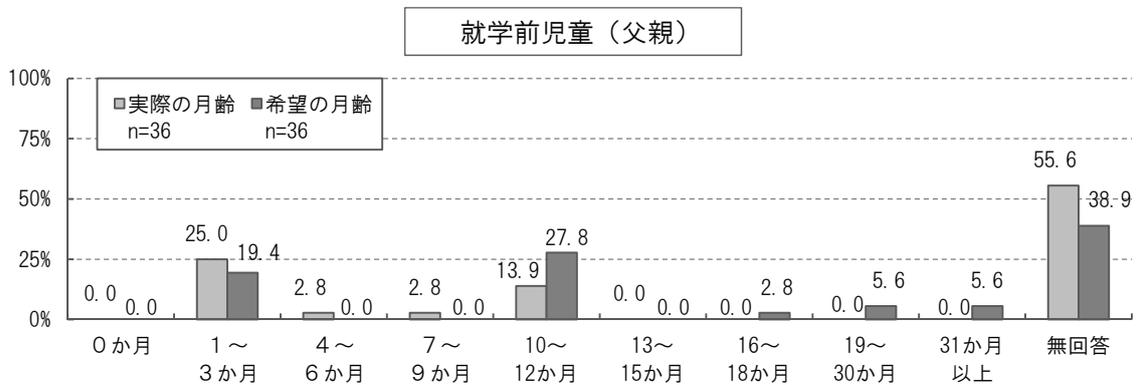
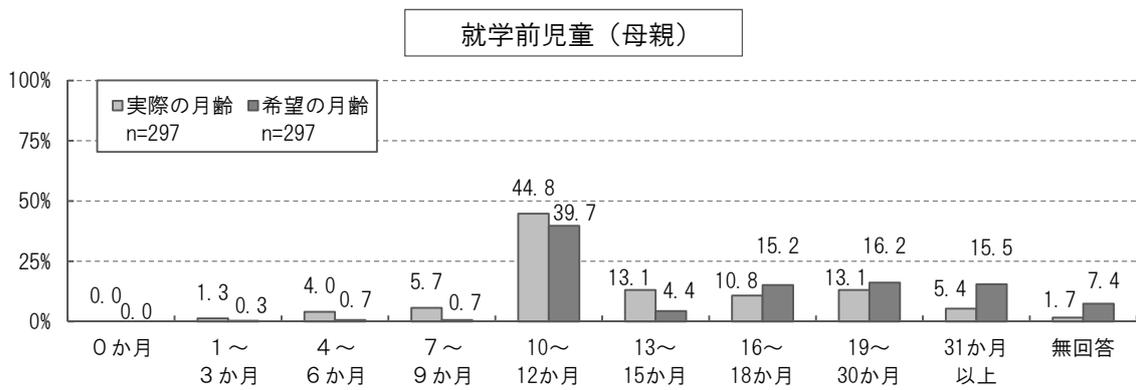


○母親が育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望の月齢をみると、いずれも「10～12か月」（実際の月齢44.8％，希望の月齢39.7％）が最も高くなっています。また、希望する期間のうち、長期休業（「16～18か月」、「19～30か月」、「31か月以上」）を希望した母親はいずれも15～16％台となっています。

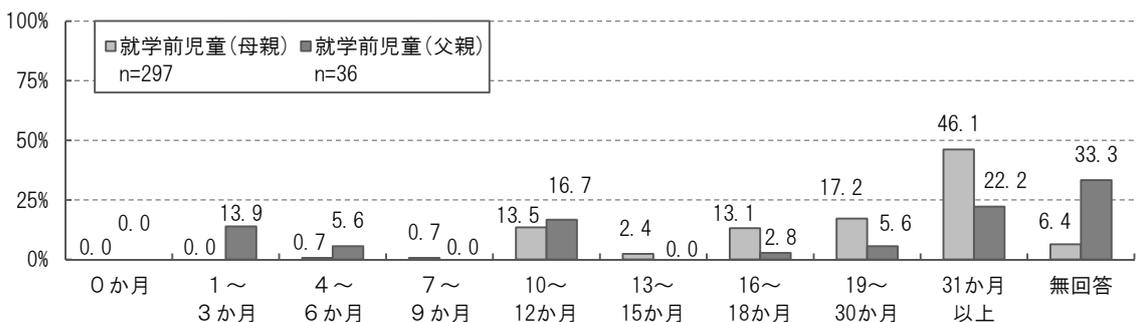
○父親では、実際の月齢は「1～3か月」（25.0％），希望の月齢は「10～12か月」（27.8％）が最も高くなっています。

○3歳までの育児休業制度があった場合に取得を希望する子どもの月齢をみると、母親、父親ともに「31か月以上」（母親46.1％，父親22.2％）が最も高くなっています。

問30-4 育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢



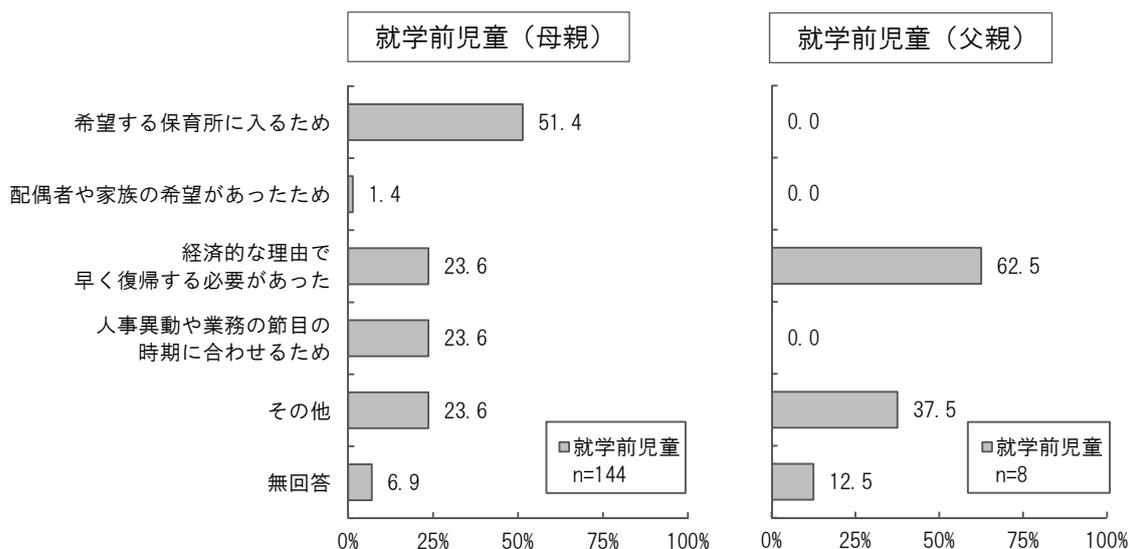
問30-5 3歳までの育児休業があった場合の子どもの希望する月齢



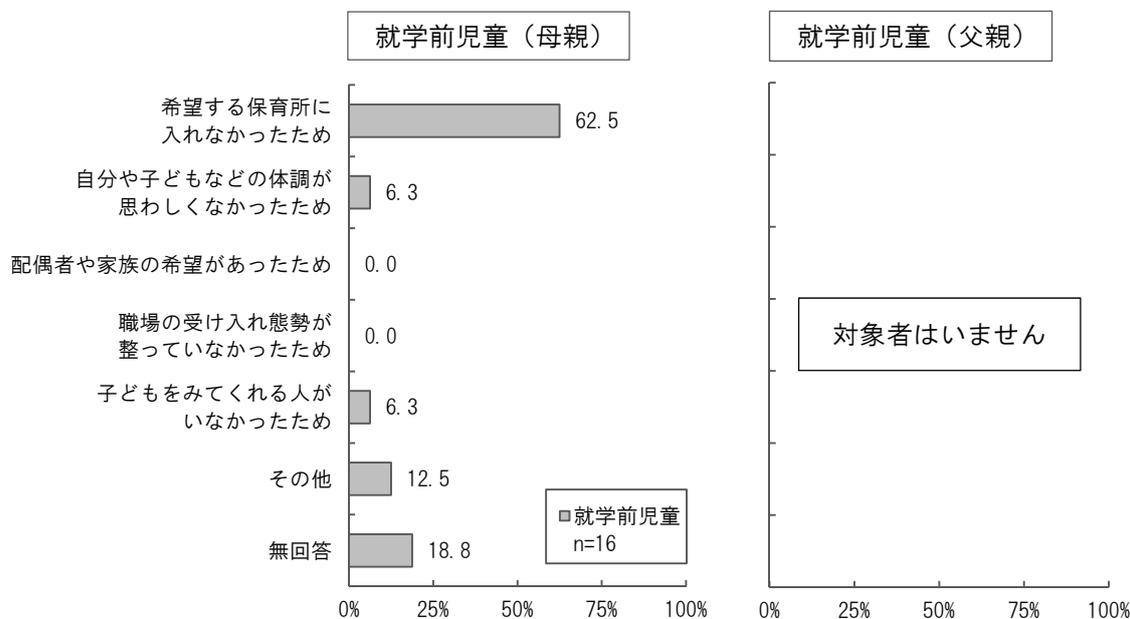
○育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由をみると、母親では、「希望する保育所に入るため」(51.4%)が最も高くなっています。父親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(62.5%)が最も高くなっています。

○「希望の時期」より遅く職場復帰した理由をみると、母親では、「希望する保育所に入れなかったため」(62.5%)が最も高くなっています。

問30-6(1) 育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由



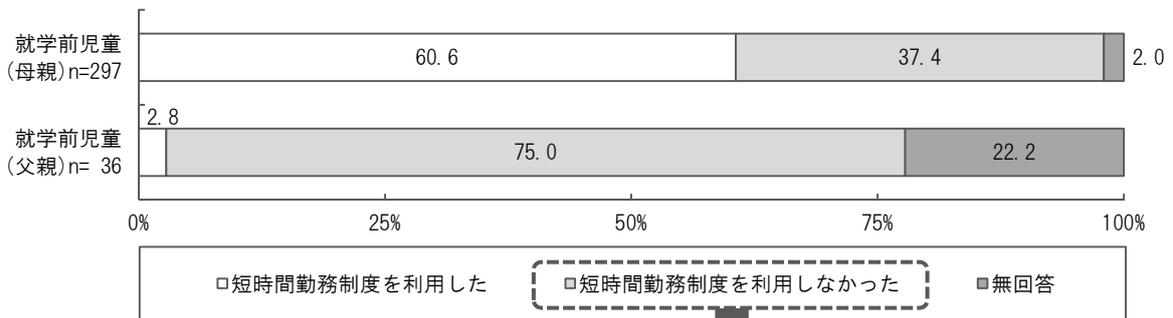
問30-6(2) 育児休業から「希望の時期」より遅く職場復帰した理由



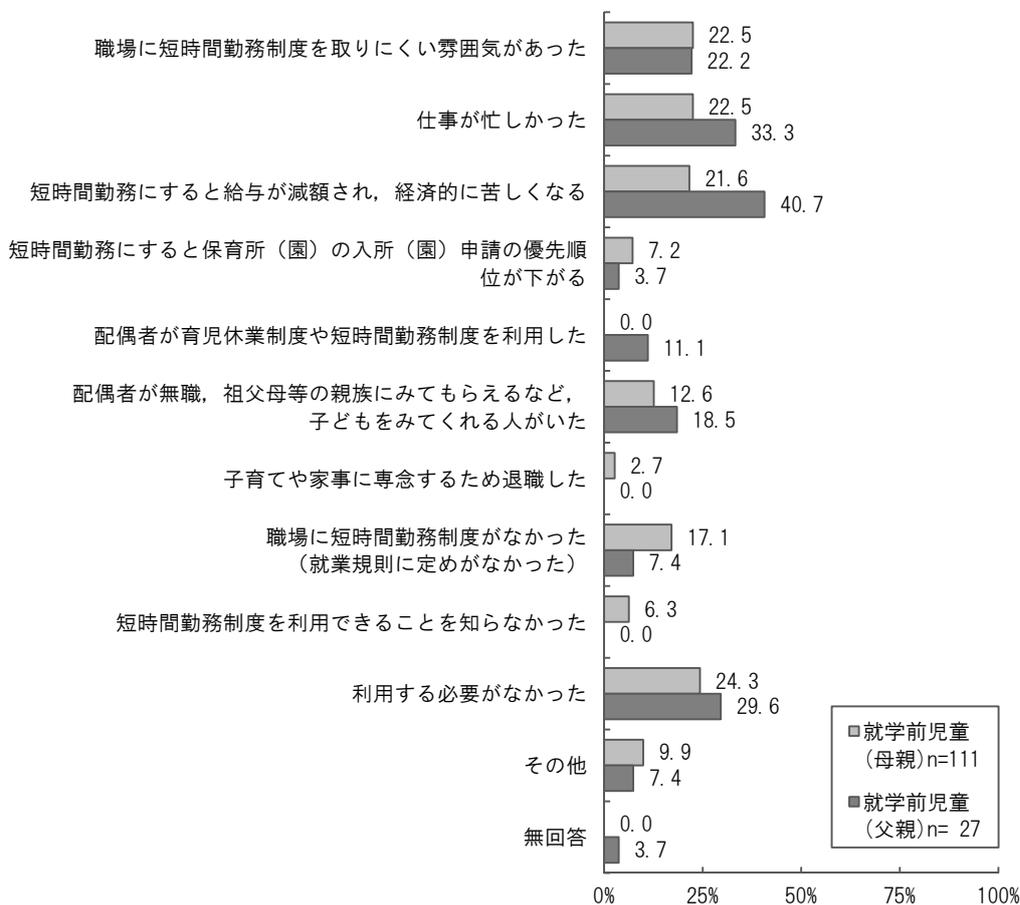
### (4) 短時間勤務制度の利用状況

- 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親では、「短時間勤務制度を利用した」(60.6%)となっています。父親では2.8%に留まっています。
- 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由をみると、母親では「利用する必要がなかった」(24.3%)が最も高く、次いで「職場に短期間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」(各22.5%)となっています。父親は「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」(40.7%)が最も高くなっています。

問30-7 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況



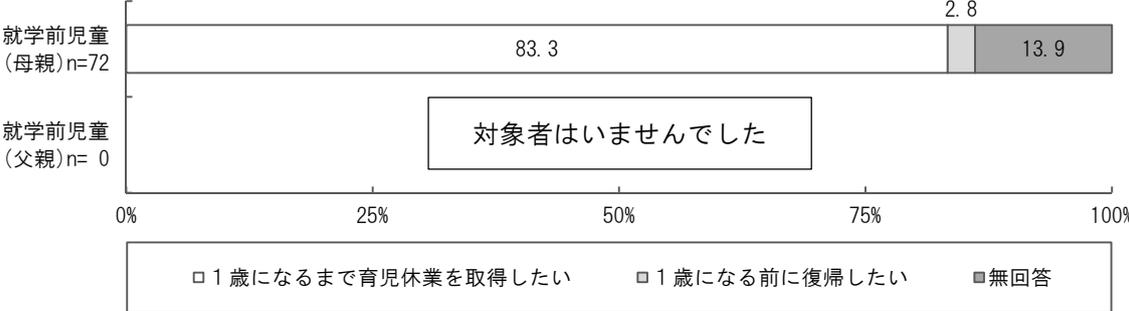
問30-8 短時間勤務制度を利用しなかった理由



(5) 育児休業取得期間の希望

○1歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望をみると、母親では「1歳になるまで育児休業を取得したい」が8割以上を占めています。

問30-9 1歳になったときに預け先が保障される場合の育児休業取得の希望

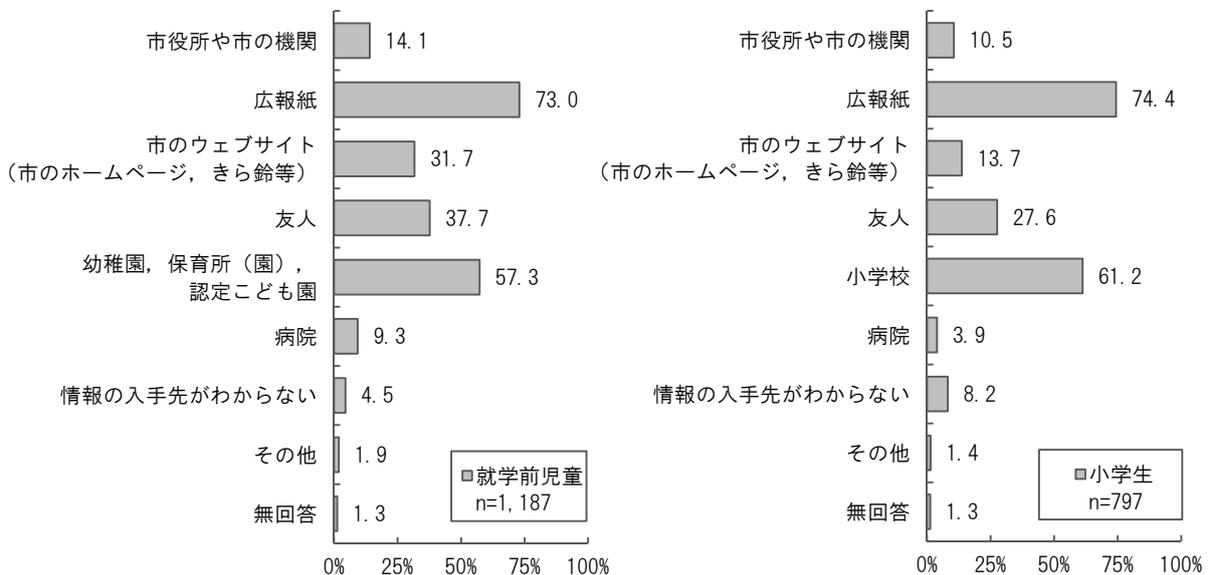


## 2 子育ての環境や支援への満足度

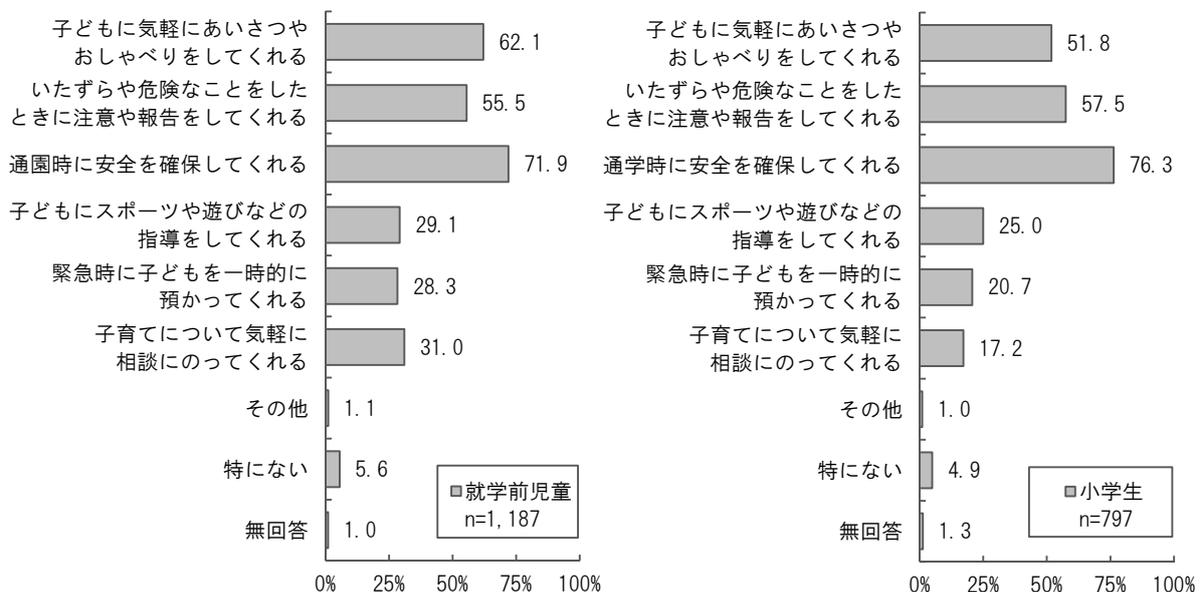
○市の子育てに関する情報の入手方法をみると、就学前児童、小学生ともに「広報紙」（就学前児童73.0％、小学生74.4％）が最も高く、次いで、就学前児童では、「幼稚園、保育所（園）、認定こども園」（57.3％）、小学生では、「小学校」（61.2％）となっています。

○地域の関わりに期待することをみると、就学前児童、小学生いずれも「通園（学）時に安全を確保してくれる」（就学前児童71.9％、小学生76.3％）、「子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる」（就学前児童62.1％、小学生51.8％）、「いたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」（就学前児童55.5％、小学生57.5％）で割合が高くなっています。

問31 [問23] 市の子育てに関する情報の入手方法



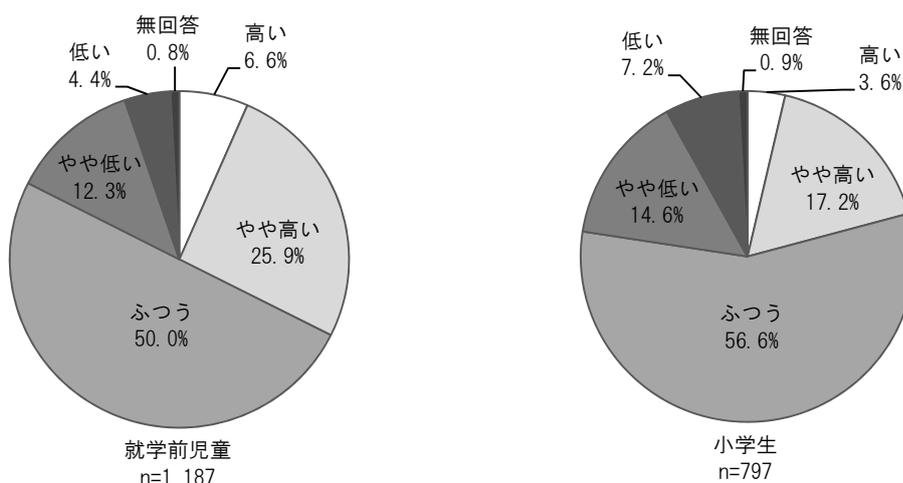
問32 [問24] 地域の関わりに期待すること



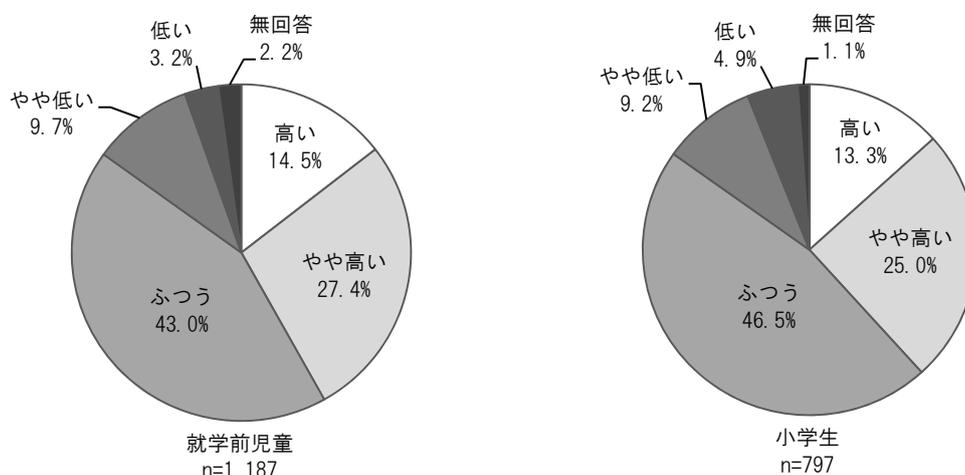
○鈴鹿市において、「子育てが楽しいと感じる度合い」が高いと感じる保護者（「高い」＋「やや高い」）をみると、就学前児童（32.5%）、小学生（20.8%）となっており、就学前児童が11.7ポイント高くなっています。一方、低いと感じる保護者（「低い」＋「やや低い」）をみると、就学前児童（16.7%）、小学生（21.8%）となっており、小学生が5.1ポイント高くなっています。また、就学前児童の保護者では、高いと感じる方が低いと感じる方を15.8ポイント上回り、子育てが楽しいと感じている保護者のほうが多いことがうかがえます。

○鈴鹿市において、「仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い」が高いと感じる保護者（「高い」＋「やや高い」）をみると、就学前児童（41.9%）、小学生（38.3%）となっており、就学前児童が3.6ポイント高くなっています。一方、低いと感じる保護者（「低い」＋「やや低い」）をみると、就学前児童（12.9%）、小学生（14.1%）となっており、小学生が1.2ポイント高くなっています。また、就学前児童、小学生の保護者いずれも、高いと感じる方が低いと感じる方をそれぞれ29.0ポイント、24.2ポイント上回り、仕事と子育ての両立が大変であることがうかがえます。

問33(1) [問25(1)] 鈴鹿市における「子育てが楽しいと感じる度合い」

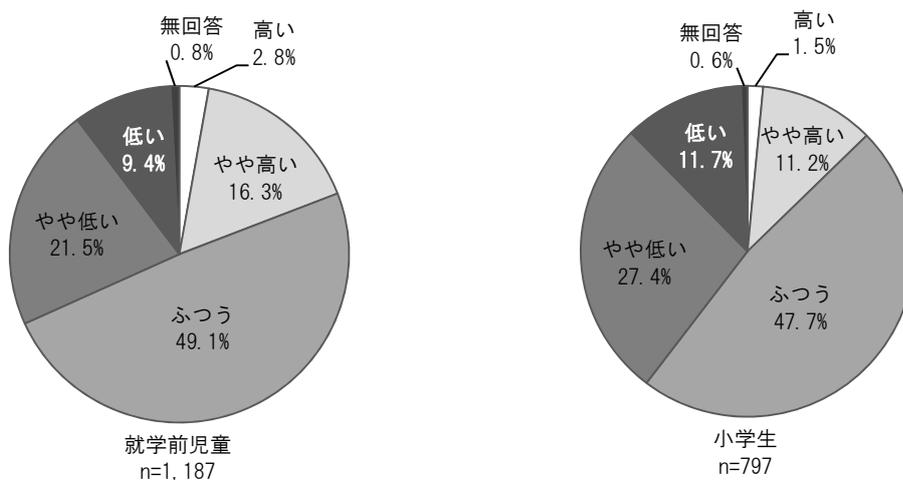


問33(1) [問25(1)] 鈴鹿市における「仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い」



○鈴鹿市において、「子育ての環境や支援に対する満足度」が高いと感じる保護者（「高い」＋「やや高い」）をみると、就学前児童（19.1%）、小学生（12.7%）となっており、就学前児童が6.4ポイント高くなっています。一方、低いと感じる保護者（「低い」＋「やや低い」）をみると、就学前児童（30.9%）、小学生（39.1%）となっており、小学生が8.2ポイント高くなっています。また、就学前児童、小学生の保護者いずれも、低いと感じる方が高いと感じる方をそれぞれ11.8ポイント、26.4ポイント上回り、満足度が低いことがうかがえます。

問33(3) [問25(3)] 鈴鹿市における「子育ての環境や支援に対する満足度」



### 3 育児休業制度の利用状況，子育ての環境や支援の満足度 における分析，課題

#### 結果1 育児休業を取得または取得中の就学前児童の母親は33.4%，父親は3.3%

就学前児童保護者の育児休業の取得率は，母親が33.4%，父親が3.3%となり，前回調査と比較すると，母親では4.7<sup>ポイント</sup>，父親では1.1<sup>ポイント</sup>増加しています。また，「働いていなかった」と回答した方を除外した就労している方の母集団（無回答者含む）に対する育児休業を「取得した」方の割合は，母親が67.6%，父親が3.3%となっています。

母親の育児休業取得期間についてみると，実際の取得期間，希望取得期間ともに「10～12か月」（44.8%，39.7%）が最も高くなっています。また，16か月以上の長期期間では，実際の取得期間（29.3%）より希望取得期間（46.9%）の割合が上回っています。

育児休業を取得していない理由は，母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が37.1%で前回調査同様最も高くなっています。それ以外では，前回調査において25.0%と高かった「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が13.5%に低下したものの引き続き高い傾向にあり，一方，前回調査でわずか3.7%と低かった「保育所などに預けることができた」は11.2%と高くなっています。一方，父親では「仕事が忙しかった」（37.4%）が最も高く，次いで「配偶者が無職，祖父母等の親族にみてもらえるなど，制度を利用する必要がなかった」（35.5%），「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（28.4%）が上位を占め，前回調査の上位理由と変化はありませんでした。【問30・30-1・問30-4（1）（2）】



以上の結果から，希望する休業期間の取得が叶うよう，雇用及び経済面において，安心して出産，育児が出来る職場環境の整備など，必要な支援の把握と支援提供ができる仕組みづくりが求められます。また，働き方改革の認知度の広がりにともない，父親も含めた育児休業取得率の向上が今後更に高まっていくことが見込まれるため，希望した育児休業期間満了時から教育・保育事業を利用したい保護者が，不安なく利用できる事業体制，運営となるように更なる改善をしていく必要があります。

**結果2 地域の関わりに期待することは、就学前児童保護者、小学生保護者ともに「通園（学）時に安全を確保してくれる」こと**

地域の関わりに期待することは、就学前児童、小学生の保護者ともに「通園（学）時に安全を確保してくれる」（71.9%、76.3%）の割合が最も高く、それ以外では「子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる」（62.1%、51.8%）、「いたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」（55.5%、57.5%）など、子どもの安全や見守りに関する項目での割合が高くなっています。【問32、[問24]】



以上の結果から、地域で子どもがより安全に過ごせるよう、民生委員、児童委員をはじめ、地域住民へ働きかけ、登下校時の見守り活動や防犯パトロールの強化、推進をしていく必要があります。また、子どもの人間関係形成能力をはぐくむために、地域で交流できる機会やイベントの企画などを通して、地域全体で子どもを見守っていく環境づくりの整備が望まれます。

**結果3 子育て環境や支援に対する満足度（「高い」＋「やや高い」＋「ふつう」）は、就学前児童で68.2%、小学生で60.4%**

鈴鹿市における子育ての環境や支援に対する満足度（「高い（とても満足）」＋「やや高い」＋「ふつう」）は、就学前児童で68.2%、小学生で60.4%となっています。また、母子家庭では、就学前児童で62.1%、小学生で50.8%となっています。

鈴鹿市における子育てが楽しいと感じる度合い（「高い（とても楽しい）」＋「やや高い」＋「ふつう」）をみると、就学前児童で82.5%、小学生で77.4%となっています。

鈴鹿市における仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い（「高い（とても大変）」＋「やや高い」）をみると、就学前児童で41.9%、小学生で38.3%となっています。

市の子育てに関する情報の入手方法は、就学前児童、小学生ともに「広報紙」（73.0%、74.4%）が最も高くなっています。【問32・33（1）（2）（3）、[問23・25（1）（2）（3）]】



以上の結果から、本市の子育て環境や支援に対して、概ね評価されていると言えます。今後更に満足度を高め、子育てを楽しみを感じてもらうため、子育てを支える一つである「広報紙」の一層の充実を図るとともに、多様化する子育て世帯のニーズに即した事業の見直し、改善が必要となります。また、仕事と子育ての両立を支援する新たな仕組みづくりを企業や地域と協働で検討していく必要があります。

**第5章**  
**子ども・子育て支援に関する**  
**自由意見**





## 2 就学前児童の保護者の自由意見

子ども・子育て支援に関連する主な意見を記載しました。

### (1) 保育園，幼稚園について

意見	135 件
0歳，1歳での保育園の入園は希望の所に入れないとよく聞く。希望者の多い地域や園での定員数をもっと増やしてほしい。	
保育料が高いので，0～2歳も無料もしくは半額程にして欲しいです。子育て支援センターなど，土日祝もやっていたら，保育園児でも行けるので良いと思います。	
市立幼稚園の預かり時間を15時までにして欲しいです。特別な時のみでいいので，預かり保育もしていただけると大変助かります。	
保育園等の利用について，本当に入りたい人たちが入園することができずにいる。園によって偏りがあるため，自宅から近い場所が入れなかったりしているので，何か対策はあるのでしょうか。賃金など大変な面はたくさんあるかと思うのですが，希望する方みんなが平等に入園出来るといいと思いました。	
日曜，祝日でも子どもを預かってもらえるようにしてほしい。	
4才2才の子どもを同じ園に入れようと思うと，受け入れて下さる所が非常に少なく困っている。	
保育所の先生には大変満足していますが，建物が古いので耐震性が心配です。私達は希望する所に入所できましたが，申請時に第7希望まで書かなければならず，「それでもどこにも入所できない可能性がある」と説明され大変不安な思いをしました。	
子どもがたくさんいる家庭に対してもう少し補助があると助かる。幼稚園も市立にしたかったが，利用できる場所がなかった為私立に入れた。3人子どもがいるので1人目から幼稚園学費に対する補助を手厚くしてほしい。	
市立幼稚園にエアコンをつけてほしい。子どもは体温調節ができないので，さすがに夏場は大変なことになってしまってからではおそい。通わせている親は心配。よろしく願います。	
上の子が保育園に入所中に，下の子の育休を1歳を超えて取得すると上の子が退所となってしまふ。できれば子どもは慣れた環境で通わせてあげたい。多くの自治体では育休中の保育所利用を認めており，上の子を預かってもらえることで下の子の子育てにも余裕が出来るので大変助かると思います。	
公立幼稚園を3年保育にしてほしい。私立は3年保育を実施していますが，教育方針に合わない。このように考えている人は多いと思います。でも年中さんまで待つのが大変だから仕方なく私立に入れるという話をよく聞きます。	
働くお母さんを助けようとする制度は，どんどん充実させていこうという動きが見えます。自分の子どもを育てたい(自分の手で)，子どもとの時間を一緒に過ごしたい為に専業主婦を選びましたが，とても肩身が狭い思いをする事が多いです。市立幼稚園の保育料を値上げされた事も納得できません。働く必要がなく働かないのではなく，子どもの未来につながる幼少期を自分が親である責任の上で一緒に過ごしたいだけです。働く選択をする人も，そうでない人にも平等な社会になる事を望みます。	
子どもを産む前から疑問に思っていました。鈴鹿はHONDA関係の仕事が多いのに祝日は仕事。保育園は休み。仕事休むしかありません。祝日も仕事が休みになるか保育園もやるか，どっちかにしてもらえたらいい。	
公立保育園に対し，入学(小学校)前の準備としての通園と感じるところがあり，幼児教育の充実を計る為にも3歳児保育を考えて欲しい。幼児教育の発展の為に，公立幼稚園が底上げを計って欲しい。学力向上の為に根本にある幼児教育をもっともっと充実させて頂けると嬉しく思います。	
保育園に兄弟がバラバラになるなど，待機児童が多いとよく聞きます。どうしてもバラバラになるくらいなら，仕事を辞めて見る方が楽な気がします。もっと保育，教育の場を作る，もしくは待機児童がなくなるようにしてほしいです。今，現在3人の子どもを家で見っていますが，3人ともバラバラになるなら仕事を辞める事を考えています。バラバラだと運動会などかぶった時に困るので，3人一緒の所をさがしていますが難しい所です。	
認定こども園をもっと増やして欲しい。親の就労の有無や状況で，子どもの園生活をころころ変えずに過ごせるようにしてほしい。	

## (2) 公園，道路等施設整備について

意見	40件
小さな子どもでも体を動かして遊べる施設のさらなる充実をお願いしたい。特に冬はインドアの遊具場，インドアのプールなど，暖かい場所が増えると有難いです。地域ごとの小さな公園や，小学校の校庭を子育て支援に有効に使えないでしょうか。	
雨の日に気軽に遊ばせられる施設が少ない。	
通学路の街灯が少なすぎてあぶない。	
就園，就学している子達が土日に利用できる室内施設がほしいです。	
もっと歩道も整備すべき。段差ばかりだし，幅も狭い。ベビーカーや3人乗り自転車を利用するのに不便すぎる。	
鈴鹿市にはたくさん公園があるが，どれも同じようなところばかりでつまらない。他の県(特に愛知県など)はもっと工夫された遊び場が多いように思う。夏場には水遊びさせたいが，そのようなところがあまりなく，市民プールも古くて遊具もないのでつまらない。天気が悪い時に遊べるようなところもない。子どもがもっと楽しめるように考えて欲しい。	
徒歩で行ける距離に公園があるといいです。フラワーパークやグリーンパークは遠いし，利用者が多く駐車場がいっぱいになって停められない事もあります。子育て支援センター，祝日も開園してもらえると助かります。	
子どもが思いっきり遊べるよう，支援センターや公園の環境整備をお願いします。また，図書館をもっと充実させてください。	
図書館の授乳室を使いやすくしてほしい。トイレも子どもを連れてはなかなかいけないので，使いやすくしてもらえるとうれしいです。	

## (3) 悩みを相談できる場，交流の場について

意見	21件
支援センターではいろいろなイベントがあり，子育てが楽しくなった。育児についていろいろと聞くことができる場があることを，産前産後に情報をもらえてよかった(赤ちゃん訪問，マタニティ広場などで)。	
アレルギーに対する相談窓口や，支援団体があつたらいいのと思っています。	
情報がどこからもらえるのかわからない。	
相談した事には応えてくれるが，相談しようかためらっている事もあるので，もう一步踏み込んでほしい時がある。	
話やすい環境で色々なアドバイスが聞きたいです。	
西条保育所が新しくできる予定ですが，そこに子育て支援センター的な交流の場を是非作っていただきたい。	
妻が外国籍のため，少なくとも英語での支援体制を整えて頂けるとありがたいです。何か相談したい場合に，常に私が仕事を休んで同行しないとイケませんので，時間的な制約があります。是非ご検討願います。	

## (4) 地域について

### (地域とのつながり(近所，世代間交流等)，地域の理解，支援，生活マナー等)

意見	14件
母親としては，子どもに幅広い世代の方々と関わってほしいと願っており，それは親子共に心の栄養として培われていくものだと思います。自分で何とかしようと思ってしまうと窮屈だし，限界でも頑張らないといけなくなり，孤独になってしまうので，外と地域とつながる機会を本当に増やしてほしいと思います。	
通学時の見守隊(地域住民による危険な場所での誘導や監視)がもっと増えてほしいです。他地域では，ご老人の方やリタイヤされた方などが朝夕いろんな場所で見守隊をしていると聞きました。とくに白子地区は少ないです。昔と違い，変な事件も多いので，そういった協力をしていただくと安心して子育てできます。	
以前，鈴鹿中，高や石楽師高校で，子育てのイベントがあつた時，参加させていただきました。普段中学生，高校生の人達とふれ合える機会がないので，良い経験になりとても楽しかったです。	
小さくても良いので，地域ごとに支援センターのような地域の世代を問わずに集え，支え合える場があれば良いと思います(みんなの広場，いつでも行ける)。	
挨拶のできない小学生を見かけることが多く，地域とのつながりが無いのだろうと感じる。せめて通学団でも作って地域で見守る姿勢があると良いと思う。	

## (5) 医療, 福祉について

意見	
医療体制, 病児・病後児保育について	41 件
夜間や休日における病気, ケガに対応してもらえる病院がないことや, 保育所の開園時間をもう少し長くするなど, もう少し何とかして欲しい。特に共働きで身内も近くにいないと, 今の開園時間では子育てするのが非常に大変である。	
病児保育がいつぱいで, 受け入れてもらえない時に預かってもらえる場所がほしい。	
鈴鹿市には病児保育が1件しかなく, 家からも遠いため利用しづらい。もう少し増やしていただけるとありがたい。	
夜間の応急診療所の時間を19時からではなく, もっと早い時間に受診できる様にしてほしい。	
両方の実家が遠方のため, 仕事に復帰したいが, 病児保育の受け入れ人数が少ないので, 復帰する時期を悩んでしまう。	
夜間や休日の緊急医療を必要とする際, 結局ほとんど使えなかった経験があります。夫婦共に実家が遠いので, 子どもが病気の時など, 預ける先がなく本当に困る。白子クリニックには遠いので, 病児保育を利用するにも不便で無理。	
病児保育(パピールーム)の利用について改善してもらいたい事があります。利用時間を7時30分~18時頃まで広げてもらいたいです。	
病児保育してくれる所が少ない。今の職場は休みやすい環境なので困っていないが, 以前働いていた所は休み辛かったので, 利用しなかった。	
子どもが風邪をひいた時など急に仕事を休まなければいけないような状況の時に, 早朝からでも預けられるような所があれば働きやすい。	
病気のとき(子, 親)に, どちらにも負担が少なくなるようにサポートしてほしい。園庭でも亀山ならOK, 鈴鹿ダメなど地域的にも問題が大きい。	
鈴鹿市内に夜間の子ども達の急病に対応してくれる病院等, 設けることは出来ないのでしょうか。	
病児・病後児保育施設等の充実を切に願います。	
病児保育は前日に利用していないと利用できない曜日があったり, 定員オーバーで利用できないなど, とても不便です。もう一箇所増やす, 幼稚園や保育園に併設するなどして欲しいです。	
医療費負担について	24 件
病院代が無料なのはありがたいが, 無料ではなかった時に比べ安易に病院へ行く人も多くなったのではないかな。	
医療費の窓口負担を3才までではなく満15才まで引き上げてほしいです。少子化, 高齢化のなか子育て世代は恩恵をあまりうけられてないのでは? せめて鈴鹿市は将来をもっと見据えてほしいです。窓口負担が3才までだと行きたくても一時負担がしんどい家庭もあるはず。教育の無償化も期待しています。	
子ども医療費の助成について, 所得の制限はなしにしてもらいたい。	
医療費をすべての年齢で窓口支払なしにしてほしい。任意の予防接種を無料にしてほしい(水疱瘡とか, 年齢を決めず。)	
乳幼児の医療窓口負担がゼロよりも予防接種の助成をもっとしてほしいです。	
子どもの医療費の所得制限があるのが非常に不満です。高い税金を払ってるのに, 受け取りもできないのは不公平なのは。	
一時預かりについて(ファミサポ等)	11 件
ファミリー・サポート・センターには今まで大変お世話になり, 転勤者の育児, 仕事の両立には欠かせないです。	
現在, 保育園の年中です。小学校に入学したら, 保育園の預かり時間中にしている習い事(ピアノ, 新体操, 英語)が続けられなくなるので悩んでいます。ファミリーサポート等, 親のかわりに安心して連れて行ってもらえる制度を詳しく知りたいです。	
ファミリー・サポート・センターに登録だけはしましたが, お金もかかるし, 子どもの機嫌もあるので, 決められた時間に行動できるかとかモヤモヤ考えるばかりです。	
一時預かりも出産の時のみと言われて断られた事があるので, そうなら記入しておいて欲しい。病院に行くのに連れて行けない時, 探すのがとても大変でした。そういう時に使えないと困る。	
2人目を妊娠しつわりがひどい際, 一時預かり施設がいつぱいで預け先が無くてとても辛かった。産前産後の保育施設もどこも受け入れ数が無いと言われ, 預け先を見つけるのにとても苦労した。	

意見	
子どもの発達, 障がいについて	7件
<p>子どもに発達障がいの疑いがあり、保健センターの勧めで療育センターに通っていますが、入所までに半年以上かかる事、入所してから子どもの人数や職員の方でセンターがたくさん人であふれる事があります。療育センターに通うようになってから子どもは自己表現が身につく、一緒に友人も成長を感じます。ただ、どうしても今のままではとても狭く、また様々な障がいをかかえる子があふれています。交流という点では、良い事かも知れませんが、時折子どもを見てさみしさを覚える時もあります。今よりもう少しだけでも療育センターを広くし、発達の支援内容によって使いやすくなるようになればと思う時があります。</p>	
<p>障がい者への支援をもっと真剣に考え、子どもが安心して就学できる環境作りをしてほしい。</p>	
<p>子どもが障がい児で寝たきりであるため、療育センターの拡大、子どもが受けられるリハビリ施設が増えるとうれしい。</p>	
<p>もう少し遊べる場所が増えてほしい。うちの子は障がいがあるので、利用できる事が少なく、預ける所もないので働けません。</p>	

## (6) その他

意見	
子育て環境について	48件
<p>未就学児がスポーツや遊びを指導してもらえる場がたくさんあるといい。</p>	
<p>仕事と子育てと両立している母親がもっと住みやすくしてほしい。保育園は場所によっては厳しいようなので、全て統一し、もっと保護者が安心し、気持ち良くあずけられる保育環境にしてほしいです。</p>	
<p>現在通っている保育所では先生方が子どもをとてもよく見ていて下さるので、とても安心して預けることが出来ると感じています。子どもだけでなく親と先生のコミュニケーションもとやすく、そういった点がとても信頼関係につながっています。</p>	
<p>今は頼れる親がいるけど、どんな状況でも対応してくれる場所があると心強い。人の考え方や環境によって必要なものが変わってくるので、色々な場面で対応してくれるといいと思う。</p>	
<p>今やたらとサポートしたがるように思います。私の場合、子どもと一緒に今出来る仕事を考えてしまいます。まずは親が周りの人と助けてもらえる人脈作りが大切かと。</p>	
<p>鈴鹿市は子育て世代に優しい市というイメージがある。ひよこの会(飯野幼稚園)やもう1つ参加している会があるが、子育て支援センター以外にもサポートが充実していて、子どももいろいろな経験ができていますので感謝しています。</p>	
<p>赤ちゃん訪問に来ていただいたのをきっかけに、地域のなかよし会へ参加。そこで知り合った方と共に、支援センターやつどいの広場にたくさん参加(利用)させていただきました。子育ての悩みや不安はその保育士さんと話をする事で、解消されたように思います。市の施設や事業のおかげで楽しく子育てができた(できている)と思います。</p>	
<p>平日休みが多く、子どもと一緒にいる事が多いが、とにかく平日はどこへ行っても人がいない。公園や支援センターへ行っても人がいない。結局、行きつくのはイオンの中のキッズスペースや有料のキッズカフェやキッズステーション。孤立感を感じる程だ。</p>	
<p>土、日に子育ての支援してもらえる場所が欲しい。学力アップと体力をきたえられるように、しっかり指導してもらえる幼稚園、保育所が欲しいです。</p>	

意見	
職場環境について	31件
<p>男性の保育、子育てへの知識が女性に比べて低い。学べる機会がもっとあればいいなと思います。父親側が育休、短時間勤務を利用したと言う話は、私のまわりでは聞いたことがないです。本当に可能なのですか。</p> <p>共働きであるが、仕事をしながら育児をする事の大変さを日々感じている。日々の生活に追われ、常にゆとりがない状態。家族の誰かが病気になると、他の誰かに過度の負担がかかる。ゆったりとした子育てとは程遠い毎日。昔の様な(地域が親密)環境の方が、子育てにはよいのではと思う。</p> <p>3歳まで育休を取得できる制度や職場の雰囲気があれば自分達で育てたいという思いがあります。しかし、実際は1歳までに復帰しないとイケないため子どもにも申し訳ない気持ちです。</p> <p>会社側にこういったアンケートがあればと感じる。</p> <p>保育所等に子どもを預けたりする事なく、子どもと一緒に働いたり、夏休み等長期休暇に連れて行ける仕事があると就労しやすいです。</p> <p>産休、育休を取れないパート・アルバイトに対しての対応を考えてほしい。</p> <p>職場の〇〇歳までは時短ができる等の決まりは主張して取れているが、その時期が終わると急に周りの人と同じように働くという考え方がなかなか変わらない。有給の取得率も悪く、それらの改善が最も重要だと感じる。</p> <p>どんどん連休や祝日が増えていきます。すべての人がそのように休める仕事ではないので、何らかの支援がほしいです。子どもも仕事も大切です。</p> <p>フルタイムで働いているが、周りにサポートしてくれる人がおらず、夜勤はできず、正職では働けない。夜は遅くなれば延長保育となり、料金がかかるし、土日は預けられる時間が短く、それまでに仕事は終わらないため、結局家族で見る(片方が休みをとる)こととなる。保育料が乳児期は高く、育短で働いていると収入は少ないし、働くために預けるのか、預けるために働くのか分からない。小学生になる時には、フルタイムでは働けなくなるのではと不安。</p> <p>日曜祝日に利用できる所があれば、仕事と育児の両立、融通がきくのではと思った。職場にもそういった所があればいい。</p> <p>出勤日数や勤務時間を少なくして家事、育児をしているが、夫の帰宅時間が遅く、仕事で疲れ切っていると、妻の負担感は大きい。男性の勤務体制や社会全体の考え方も変化していく必要があると思うので、比較的若い世代の多い鈴鹿市から鈴鹿モデルとして日本中にアピールしてほしい。</p>	
行政からの情報提供について	16件
<p>保育所やサポートセンターの情報など、自らが動かないとなかなか得られない。子どもをかかえて市役所に行くのは大変なので、SNSやLINEなどを活用して、相談や情報入手ができれば助かります。特に保育所については不明点が多く、復職を後回しにしてみました。</p> <p>保育料についても分かりやすく見る事が出来るものはあるでしょうか。(内訳など)園によってかかってくるものは違うのですが、入園後にかかる費用なども申し込み前に分かると助かります。</p> <p>知り得たい情報は自ら調べる事で得る事はできているので、十分だと思っています。来年新一年生になりますが、小学校や地域(子供会)など地元人でないためか、一からの説明や細かな情報が入って来にくい感じがありました。児童館や子ども教室などという施設が利用できるのも、このアンケートで知りました。</p> <p>幼稚園入園までの流れが分からないので、教えて頂ける媒体が全戸に入る広報などであれば有難いです。</p> <p>鈴鹿市に転入してきた時、子育て支援に関する情報をどうやって得たら良いのか分からなくて困りました。</p> <p>アパートに住んでいますが、6カ月前から広報が届かない。保育園の入園等の情報がわかりません。</p> <p>公民館などでの行事、市でのイベントなど、広報や回覧板だけでなく、CNSを使って放送してくれたら、もっとみんなの目に付くと思います。</p> <p>子育てのための情報が分かりにくい。広報も見落とすことがあるし、チラシでしか分からないこともある。すべてをまとめた子育てサイトがあると気軽に外出できない赤ちゃんのいる人にもいいと思う。</p> <p>保育園の空き状況など、保育園についてくわしくホームページがあるわけでもなく、個々に電話をかけて調べなくてはならないので、ある程度わかると良い。市のHPにも電話番号しか掲載されていないので、少しでもどんな保育園か分かると思う。</p> <p>ネットで調べるより、広報紙などの方が信頼できる気がするので、定期的に発行されるのはありがたいです。</p>	

意見	
その他	169件
他の市では第3子の保育料が無料であるのに対して鈴鹿市では収入が低所得の方だけの措置なので、鈴鹿市でも第3子無料にしてほしいです。	
アレルギーの対応を充実させてほしい。それを理解、協力していただき、子ども(親)の気持ちを考えてほしい。	
教育、保育に係る予算の確保と、人材の充実。子どもたちを取り巻く環境を充実させるためには、これらが不可欠だと思います。	
子どもだけでいいのでインフルエンザ予防接種の補助金があると嬉しいです。子どもの場合、2回接種が必要なので負担が大きいです。	
台風や大雨で危険なため休みなのもわかるが、みんなが保育園、学校が休みになると仕事にも影響がある。そんな時に見てもらえる体制をつくってほしい。	
共働きの世帯が多くなった中で、もっと気軽に預けられる所があってほしい。(あっても有料でお金の負担が大きく、利用にふみきれない。)	
子どもが0歳の時、育児休暇を取得して、1日24時間365日いつも一緒にいて、子育てしてきました。仕事をしていたときと180°かわった環境の中、不安や孤独ストレスをととも感じていた覚えがあります(家族や知人からの助けがあっても)。nico mama cafeのような、ほんの1時間でも自分の時間がもて、ゆっくりごはんが食べられるところは有難いです。「りんりん」の「0歳児教室」のような取り組みももっと近くでたくさんあるといいなと思います。	
就学前児童に対する保育等サービスは充実しているものの、小学生対象の学童保育に関しては、途端に質が下がると痛感している。	
病院や子育て支援の催しに行った際、たくさん声を掛けてくれたり、サポートしてくれるので、実家が遠く、知り合いが少ない私にとって息抜きになっています。	
親も子どもスマホを見ながら歩いたり、子どもにスマホを見せて親同士はおしゃべり、見かけることがとても多いです。「スマホに子守りをさせないで!」というポスターを見ると、その通りだなと思いますが、みんながそうは思わないのでしょうか。スマホの使い方について考え、子どもとの時間を大切にできる社会になってほしいです。	
健康づくり課などで開催されるイベント(マタニティクッキングや親子クッキング、むし歯予防コース)などに参加したいと考えていても、平日の昼間だと仕事を休む必要があるので考慮していただけるとありがたいです。	
3人目を考えているが金銭面などの心配もあり、なかなか踏み込めません。少子化対策の1つとして「3人目補助、免除」があるとすごく助かる。多分すぐには難しいと思うので私は3人目を諦めることになると思いますが、(年齢的に)若い子の為、3人目を考える人の為に動いてほしいです。	
保育料の多子減額が、小3までの対象では妊娠、出産をあきらめる一つの材料になってしまう。子どもが一人増えても親の負担が一つでも減る様にしないと子どもは増えません。	
車が使えないため、市内であそばせるとなると公園くらいになるのが子どもに申し訳ないです。	
市役所の部署の連携がとれていないと思います。子ども家庭支援課、障がい福祉課、子ども育成課(ここでは分からない〇〇課へとたらい回しで困った。)。いろいろな手続きを子どもを連れて大変なのに、1つ1つ支援や手続き関係をこちらから聞かないと言ってくれない。手当て、手帳、申請など、特に療育関係はややこしいので、もう少し親切に教えてほしい。幼稚園や保育園の保育料に関しても、療育手帳を取得時に保育料減額を教えてもらえず。障がい福祉課が案内するべき。私の周りに知らないママたちが数人います。	
おもしろい駐車場の妊産婦の利用ですが、出産前は利用しても出産後1歳半まで利用できるのはおかしいと思う。以前見かけたのは赤ちゃんなしで普通におもしろい駐車場を利用している人がいました。数少ないスペース、もっと不自由な人が利用できるようにしてほしい。	
保育士、幼稚園教諭の資格を持っているので、家庭的保育ができるようになれば良いと思うことがある。	
再就職するのに、子どもの事をきちんと考えてくれるところが少ない印象。もっと増えたらうれしい。	
支援センターの数が少ない。つどいの広場は行きにくい。外遊びが好きな子には保育園併設など広い園庭のある支援センターを毎月開いてほしい。	
子供食堂みたいなのがあったら利用したい。ご飯を食べる事が嫌いでも小さなパンを1個食べるだけでも30分~1時間かかってしまう。食べる喜びをもっと感じて欲しいし栄養不足が心配。食に今興味を持って欲しい。	



## 4 小学生の保護者の自由意見

子ども・子育て支援に関連する主な意見を記載しました。

### (1) 放課後児童クラブ（学童保育）、児童センターについて

意見	71件
実家をお願いして交代で領かってもらったりしていますが、夏休みや冬休み春休みだけでも学童を利用できるなどあれば、助かります(学童だと友達もいるし、家から近いので。)	
学童や保育所はきちんと足りているのでしょうか。人口の分布と保育所学童等の位置は把握しているのでしょうか？	
公立保育所や学童を増やし、働く親が仕事に負担なく預けられるようにしてほしい。学童保育は、小学校で行なう事ができないのでしょうか？	
学童保育に預ける時、夏休みなどはお弁当購入サービスがあればいいと思います。	
学童は利用していないが、周りの友達からは仕事の時間が短いなどの理由で入れなかったと聞いた。いくら短くても親には、春休み、夏休みの長期休暇はないので困ると思いました。学童の人員の問題プラスみてる指導員の質もとても気になります。	
学童保育は働いている人でないと預けられない。条件が合わない場合、子どもは留守番になってしまう。長期の休みなどゲームばかりして過しているの学童以外にも子どもが過ごせる場所がほしい。	
放課後児童クラブで、宿題などの勉強を子どもたちで教え合うことも良いとは思いますが、うちの子は全く理解していませんでした。きちんと理解できる様に教えてくれる先生が一人でもいたらいいのと思いました。	
放課後児童クラブへの補助金は減らさないでほしい。先生方も子どもを安全に預かるため、いろいろ努力されています。親も月謝は少しでも安いほうありがたい。これ以上は値上がりしたら、子どもを留守番で学童を辞めさずか、私が仕事をやめるか考えてしまう。	
小学校入学前、学童保育を利用したくて申し込みをしたところ、入所希望者が多く抽選となった。両親とも正規で働く家庭にもかかわらず、抽選に外れ入所できないと言われた。	

### (2) 学校について

意見	42件
学校内に残ってすごせる、放課後子ども教室を鈴鹿市にも作ってもらいたい。	
子どもの学校生活において、不安に思うことが担任に言えない事もある。担任は、普段の子どもの様子等をよく観察してほしい。しかし業務に追われているという事もあり忙しいと思われるので、学校の教員数をプラス、1、2人増やして、子どもを見る目(大人)を増やしてほしい。	
スクールカウンセラー、サポーターの常勤での配置を検討してほしい。専門家の見立てでは、親や教師の助けになるのではないかと考えます。	
校舎、体育館ともに早期建て替えが望ましい。少人数学級の充実、補助の先生など各クラス小学校でも担任、副担任制度を導入しても良いと思います。	
小学校の先生が毎日遅くまで残らなくてもすむように、対策をとってもらいたい。子どもに関わる大人が、心身ともに健康でいられることを強く願います。	
学校のクラス内で落ち着いて授業を受けられない子が多いようで、よく授業が中断してしまうようです。授業も遊んでいるか、内容がしっかり理解できているのか心配です。	
中学校の給食化や医療費無料に関してはとても助かっています。エアコン設置も早期に実施されてありがたいと思います。しかし、施設によって老朽化など差が大きいように思います。緊急時には避難所にもなる可能性も考えられますので、検討してもらいたいと思います。	
選出しなければいけないのは分かりますが、共働きの家庭にとってPTA役員の業務は負担が多いと思う。もう少し考えてほしい。	
小学校の給食を始業式から終業式まで提供してほしい。給食費がその分増えてもいい。中学校の給食、教室の冷暖房について、とても感謝しています。プールも利用できなくなったので、毎日でなくてもいいので、小学校の教室の一部開放してもらえるとありがたいです。	
小学校への道のりが長いので、通学バスがあったらいいと思います。今年の夏は猛暑だったので、子どもは大変そうでした。	
不登校の子どもに対する支援がない(場所が限られていたり、交通不便で通えないところ。)	

意見
学級閉鎖時に対する指導をもう少しきちんとして頂きたい。外で遊ぶ子、人の家で遊ぶ子がいてビックリします。
学校での学習面で心配なことがある時、必要であると感じる時は、家族支援課の先生に相談するのですが、とてもお忙しい様子で相談をためらうことがあるのももう少し人員を増してほしいです(いつも丁寧に相談には乗っていただけるのですが。)
学力に低下が気になります。学年があがるにつれて、ついていけなくなっている子が多いような感じがします。もう少し教育に力を入れてほしい。
1～2年生は担任の先生以外のサポート的な先生が一人ついていてくれるといいと思います。学校で困り事のない楽しい学校生活を送ってほしいです。
PTAの体制について見直していただきたいです。「子ども達のために」と、上から言われてしまうと、何が何でも強制的なところがありました(昨年、役員をしました。)。家事や仕事などと両立できない程の負担や、休めないと感じさせるような組織の空気を改めていかなければ、誰もやりたがりません。

### (3) 公園，道路等施設整備について

意見	23件
子どもが遊ぶ場所(公園)等がタバコや犬のフン、ゴミで不衛生です。	
安心して子ども達が遊べる公園や施設(児童館)などが、他県に比べて非常に少ないと思います。	
通学路の安全(道路の照明、信号の無い横断歩道に信号設置等)	
近くに公園が無い。ドッチボールやキャッチボールをできる広場が無い。歩道が少なく(スクールゾーンがほしい)、横断歩道や、路側帯が消えかかっている危険。	
家の近くに公園がない。遊ぶ場所がない。大きくなくていいので、小さな公園があると良い。学校のトイレをキレイにして欲しい。そして、洋式にしてあげて欲しい。	
子どもたちが安全に登下校できるように、危険箇所等は早急に対応してもらいたい。	
外で遊ばせたくてもボール遊び禁止の公園などあり、近所では学校が終わった後、気軽に遊べる公園が少ない。大きい公園に行けば出来ますが、そうすると校区外に出かけていかなければなりません。	
市街地には子育ての環境や支援は整いつつありますが、離れた田舎のほうはそういった面は厳しいのが現実です。街灯すら少なく、冬場の中学生の帰宅道は自転車の光でいるのが分かるくらいです。もっと、調べていただき手をうって頂きたいと思います(特に街灯の数)。	
子どもの通学路が大人の都合で、安全、安心で負担の少ない道ではなく、子どもが我慢して通学させられていても、学校、地域が協力してくれていない。立場もあると思いますが、子どもの事を第1優先で考えてほしい。	

### (4) 悩みを相談できる場，交流の場について

意見	6件
子育てについて、電話相談や、実際にお会いしても話を聞いていただけるみたいですが、話してもらえるのではないかと。本当に心身になって聞いていただけるのか不安で利用できません。安心してサポートしていただけるというところをもっと広めていただけると嬉しいです。	
以前よりは改善されてきているとは思いますが、子育ての施設や相談窓口の場所や間口は限定的でとても狭いと感じます。利用できる人しか利用できない。“困った時に頼れる”という感覚はありません。	
ママ達が集まって気軽に色々な情報交換ができる(習い事とか病院とか学童とか)場所、カフェのようなママ友とランチもできるようなお店があればいい。	

### (5) 地域について

#### (地域とのつながり(近所, 世代間交流等), 地域の理解, 支援, 生活マナー等)

意見	6件
地域の公民館は子どもたちの遊び場となっているので、公民館運営に対する補助等を増やし、設備やイベントを充実させてほしい。	
地域の人に見守られ、恩返ししていくというサイクルができています。ただ当地域では、子どもの数が激減しています。地域の行事ができなくなることも考えられます。	

意見	
地域との関わりが少ない。関わりにくい。	
地域の子ども好きのお年寄りとふれあえる場所をたくさん作ってもらえたらうれしいです。鈴鹿は工場が多く転勤族も多いのではと思います。実家が遠く母親1人で子育てをしている人がたくさんいるので、まわりの方と一緒に子育てしていける環境があったらうれしいです。	

## (6) 医療, 福祉について

意見	
医療費負担について	15 件
子どもが3人いるのにも関わらず、収入に応じて医療費の負担額が変わるのが納得いかない。	
医療機関での窓口での支払いを、中学3年生卒業まで「0円」でもらえるとすごく助かります。	
インフルエンザ予防接種。亀山市は補助があるのに、鈴鹿はない。	
子どもの医療費免除等、周囲の自治体と比較して不満があるので整備してほしい。	
医療費の窓口負担の廃止をお願いしたい。	
子どもの発達, 障がいについて	14 件
発達障がい児のサポートに関して、療育センターや小学校の支援級の先生方にきめ細やかなご支援をいただき、子どもが不安を感じることなく毎日楽しく過ごすことができていることに感謝の気持ちでいっぱいです。	
子どもは広汎発達障がいがあります。発達障がいの子どもが住みやすく、将来一人で生きていける環境にしてほしい。	
支援学級に在籍していますが、とても手厚くサポートしていただいて感謝しています。障がいがあるにも関わらず、学童や、ファミリー・サポート・センターも定期で利用させてもらえているのでありがたいです。おかげでフルタイムで仕事が続けられています。	
発達障害に対する知識が乏しい。学校でも高学年の保健の時間等に子どもでもできる支援の方法を学習する等し、全ての子が社会に対応できる様になる事を望みます。発達障害に対するイメージが悪すぎて、その為必要な支援を受けられない事がありました。まずは学校、学童の指導者にはしっかり学んでほしいです。	
発達障害(グレーゾーン)アスペルガー、注意欠陥を持つ子を支援できる学習場所、塾等があれば。	
医療体制, 病児・病後児保育について	10 件
夜間の救急時の病院の対応が悪すぎる。不親切。子どもの事で不安なのに、ご自身で判断して下さいとか救急車を呼んで来院して下さいとか。助けてほしくて電話しても、つかえされる。鈴鹿市内で病院を探すより四日市まで行く方が早い親切。	
小児科など(夜間含め)時間に関係なく、受入先が必要。何かあれば他市地域では緊急対応時に時間が(回されて)かかりすぎる。	
夜間の小児の受け入れができる病院が市内にないのがとても不安です。応急診療所が閉まってからの時間は、救急車を呼ぶしか方法がなく、しかも四日市か津に搬送される。親としては一刻も早く診てほしいと思うのに遠すぎます。	
病児保育施設があることでいざという時は助かるが、施設があるせいで子どもが高熱、インフルなどの時でも、仕事を休まず預けて出勤するのが当たり前のような職場の空気になっていて、おかしいと思う。	
子どもが以前病気で保育園に長期的に登園できなくなった時、仕事も何回も休めないで、白子クリニックの病児保育を利用しました。まわりに預かってもらえる人がいない私にとって、この施設は本当に助かりました。このような施設は、ありがたいと思います。	
病児保育の施設を単発でも使用できる所が欲しい。	
一時預かりについて(ファミサポ等)	6 件
ファミリーサポートは、周りの家庭でも利用している人がおらず、認知度も低いので、ハードルが高い。よほどの事情がないと活用しないと思います。	
小学生になってからも一時保育のように預かってくれる所がほしい。地域にある学童では預かってもらえない。	
祝日仕事の為、シルバーウィークや連休の学童の休みによる子どもの預かり場所がなく困る。	

(7) その他

意見	
子育て環境について	66件
図書館をもっと現代的に、面白い場所にしてほしい。(設備、空間)冷たい印象。小学校、中学校ともに生徒が集中しすぎている。	
近隣の市に比べて子育て環境、教育環境はまだ改善すべき点があると思います。子ども達が安心して学校に通いそれをたくさんの方が笑顔で見守ることのできる環境があるといいなと思います。	
働きたい親が増えている中、子どもを預ける所が少ないと思います。特に、旭が丘地区は子どもが増えているのが現状です。	
学童保育について、長期の休みのみは出来ない。1年生からの利用でないと途中からの利用は難しいとききます。今は実家の両親が協力してくれていますが、高齢であり病気などの不安があるので、もし協力がなくなった時の事を考えると、たとえパート勤務とは言え、働き続ける事が出来るのか(母親が)と思うこともあります。	
外で遊ぶ子どもがとても少なく感じます。レクリエーション等、大会などで子ども達同士、遊ぶ(スポーツゲーム)ところから始められればと思います。子ども時代でしか、味わえない楽しい時間ってあると思うのです。	
鈴鹿市は医療費助成窓口無料の対象年齢の低さや貧困世帯の対策(学習支援)など、他市に比べると遅れていると思います。子育て以外にも福祉を充実させて頂きたいと思います。	
車が多くて危ない。不審者への不安。自然環境の激化。色々な意味で子どもたちが、遊べる空間が減っています。だから、各自、自宅でテレビゲームの日々になってしまう。結果として、コミュニケーションの不足、体力不足となっているのです。子どもたちが安心して遊べるスペースを作ってあげてください。	
父親が長期出張などで、母と子だけの生活になる場合、防犯上、災害時など不安である。隣近所とのつき合いも少ない為、緊急の時に頼みづらく、正直自分が倒れたらと考えると、(父母は遠方ですぐには来られず)非常に困る。	
今は母親も子育てをせず、預けて働くのが当たり前というか、推進している環境に疑問を感じています。子どもにとっては親に育ててもらう事が大切だと思っています。女性が安心して自分の手で子育て出来る環境を整えて欲しいと思っています。淋しい思いをしている子どもが多くなっているように感じています。先生は親ではありません。親にしか出来ない事があります。どうか産んだら終わりではなく、産んだら一生子育て出来る支援をして頂けたら嬉しいです。	
子どもの発育が伸ばせられるような公共施設が少ない。大きな公園でも遊具はありきたりのものばかりで数も少ないので、子どもたちで取りあいになる。	
地域の子育て支援事業を利用してみたい気持ちはあるが、信頼できる事業なのか、子育て教育について知識があり、信用できる人が子どもをみてくれるのか不安がある。	
職場環境について	8件
共働きの家族への社会の理解を深めてもらい、男性がもっと協力してもらえ意識改革が必要だと思います。	
パート勤務でも事業所が全てパート従業員で、ギリギリの人数しか雇ってないから休むのも休みにくい。自分が休めば午前パートの人に迷惑がかかる。事業主の考えになっていくが、子どもがいる私にとっては働きにくいところもあるので、なにか支援とかあれば。	
まだ中小企業は子育て等に余裕がありません。有給制度はあっても取った事はありません。病気の時も無理して出勤しています。	
親が仕事の為子どもとの時間が少ないので、もう少し仕事の環境を整えてほしい。	
行政からの情報提供について	7件
市でやっている支援等のアナウンスが不十分な気がします。自分で調べないと損をする事が多い。子育て支援を充実させる為に、冊子等でアナウンスを充実してほしい。	
子ども達の安全のために学校から不審者情報をメールして欲しい。サーキットなど県外からも多くの方が来るのに意識がとても低い。	
情報等は自分から検索してとりに行かないと得られない事が多いので、市の広報などにより多くの情報をチラシ等でもはさんで入れてもらえるとうれしい。	
広報紙やウェブサイト等で子育ての為にイベント等がたくさん発信されていて、私自身は色々参加体験をしたくてこまめにチェックしていますが、まわりのお母さん達は知らない方が多くもっと情報をかん単に入手できると良いなと思います。	

意見	
登下校の見守り	5件
朝の通学時は、安全パトロールの方が所々立っているので安心して送り出せています。助かります。	
朝の登校を集団で行ってほしい。	
小学校通学の旗振りに参加していますが、お年寄りの等のサポートが少なく難しい。	
その他	75件
10月の鈴鹿だけの休みファミリーデーはいらない。フルのパートなので休めない。祖母も休めない。もっと働いている人のことを考えてほしい。子どもの休みは土、日で充分です。	
公民館の学童において、運営方針に地域の差があるように感じる。指導員の働きやすさ等の非合理的な理由で、前年度に総会で決定されたことが、役員会で翌年に覆されたのには呆れるしかなかった。新1年生の待機児童をなくすために、市は適切な運営に向けて介入してほしい。	
バイクの暴走行為が目立ち、治安が悪くなってきています。パトカーの出動回数が増加している気がします。	
第3子を出産したら(子どもを3人以上産んだ家庭)お祝い金や、幼稚園、保育園無料などにしてもらいたい。将来の働き手を育てているということなので、もっと子どもを産み育てやすい環境にして欲しいし、夏休みや冬休みだけ預かってくれるような施設もあれば、主婦がもっと働きやすくなると思います。	
高岡台に住んでいますがバスが廃線になって困ります。	
子どもたちが小学校低学年の夏休みに、鈴鹿川の生き物などの体験に行ったりしました。普段できないことを体験できて楽しかったです。この先も便利な世の中になるのも良いですが、人間以外の生物にも優しい住みやすい鈴鹿市であってほしいです。	
地域の子どもたちを見て感じるのはいじめができない子が多いということです。自発的に挨拶をしたり、自分の考えを話せる子どもを各家庭、地域、学校で育てていけないものかと思います。	
父親の育児参加をもっと啓蒙すべき。	
小学校に上がる時に、夕方の預け先に困りました。学童も数が少なく途中入所も難しい現状で、3年生までしか入れません。民間の学童を探しましたが、四日市や津市とくらべて少なく、鈴鹿では1ヶ所でした。共働きが多い若い世代も多い市なので、学童の充実も希望します。	
自治会制度も崩壊に向かっているためさまざまな改革、仕組みづくりが必要、かつ、急務かと思います。	
合理的配慮として、他の子と同じように学習環境がととのうよう補聴援助システムロジー受信機一台、補助をして頂きたいです。障害者総合支援法第76条においても、補装具費の支給は書かれております。隣の市や他県では助成が認められている中、三重県、鈴鹿市において助成が方耳のみということ。一番困っているのは子どもです。子どもの将来のため助成を認めて頂きたいです。	
既にあるのかも知れませんが、子育て的なパンフレットとかがあると嬉しいですね。親世代の子育てとは常識が変化している事と環境が変化し気をつけることが多くなったこと、年齢に応じできる、できないなど言っても通じなくて預ける事をためらいます。	
支所の図書室の充実(鈴鹿市立図書館まで遠いため)また、鈴鹿市立図書館で借りた本を支所でも返却できるサービス等。	
市の子育て支援センター等の設備をきれいに保ってほしい。動物とふれあえるような場所がほしい。子どもが通える範囲に移動図書等の知識を増やせるような催しを頻繁に実施してほしい。	
いろんな地域を参考にしてもらって、いい事を取り入れてもらいたい。	

## 5 子ども・子育て支援に関する自由意見における分析，課題

### 結果1 就学前児童保護者では「保育園，幼稚園について」 の自由意見が135件と最も多い

就学前児童保護者の自由意見をみると、「その他（その他）」以外では、「保育園，幼稚園について」が135件と最も多く、それ以外では、「その他（子育て環境について）」が48件、「医療，福祉について（医療体制，病児・病後児保育について）」が41件、「公園，道路等施設整備について」が40件と多くなっています。

また、共起ネットワークでは「保育園」，「利用」，「幼稚園」の円が大きくなっており、これらの言葉の出現数が多いことを示しています。

自由意見の具体的な内容としては、「公立幼稚園の3年保育（3歳時から入園）」，「預かり時間の延長（特に公立幼稚園の利用可能時間が14時まででは短い）」を望む意見が多く挙がっています。また、「病児保育の施設が少ない」，「急な病気の際，仕事を休まずに預けられる体制」などの要望も多く、母親の就労率が上がるとともに、長時間または緊急時でも子どもを預けられる事業体制へのニーズが高まっています。



以上の結果から、今後更に就労する母親が増加していくことを想定し、変化，多様化するニーズに対応できる教育・保育の事業体制を検討していく必要があります。また、病児・病後児保育の施設の充実に関しては、現状やニーズ量を十分に精査した上で、検討していく必要もあります。

### 結果2 小学生保護者では「放課後児童クラブ（学童保育），児童センターについて」 の自由意見が71件と最も多い

小学生保護者の自由意見をみると、「その他（その他）」以外では、「放課後児童クラブ（学童保育），児童センター」が71件と最も多く、共起ネットワークでも「学童」，「利用」の円が大きくなっており、出現数が多いことを示しています。具体的な内容は、「長期休暇（夏休み等）時の，学童利用（通常利用者以外も含む）」を望む意見が多く挙がっています。

それ以外では「その他（子育て環境について）」が66件、「学校について」が42件、「公園・道路等施設整備について」が23件となっており、「公園等，外で子どもたちが安心，安全に遊べる環境づくり」を望む意見が挙がっています。



以上の結果から、長期休暇中（夏休み等）の放課後児童クラブ（学童保育），児童センターの利用希望について、親の就労状況と合わせニーズ量等の精査をした上で、事業体制の見直しや今後の方向性について検討していく必要があります。また、屋外でも子どもたちが安全に過ごせる環境を地域住民とともに整備していく必要があります。

# 資料編



# 資料編

## 1 就学前児童の調査票

**【就学前児童保護者用】**

**鈴鹿市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査**

**●調査ご協力をお願い●**

皆さまには、日頃より市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本市では、「子ども・子育て支援法」に基づき、平成27年3月に「鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでおります。つきましては、本市の平成32年(2020年)からの「第2期子ども・子育て支援事業計画」に向けて、保護者の方の利用ニーズ等を把握するため、アンケート調査を実施します。本調査は無記名で行い、ご本人が特定されることはありませんので、率直なご意見を記入ください。調査結果は、統計的に処理し、調査の目的以外に使用することはありません。ご多忙のところご迷惑に恐縮ですが、アンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成30年12月 鈴鹿市長 末松 剛子

**◆アンケートの概要◆**

- この調査は、子ども・子育て支援の充実のため、全国の自治体で実施されるものであり、調査の内容は国の示す内容をベースに本市で作成したものです。
- この調査は、対象となるお子さんのいる4,000世帯を住民基本台帳から無作為で抽出し、ご協力をお願いするものです。
- 設問数が多いですが、重要な調査ですので、ご回答をお願いいたします。

**【記入にあたって】**

- 特にことわりのある場合以外は、**封筒の宛名のお子さん**について保護者の方がご記入ください。
- 回答は**選択肢**に○をつけていただく場合と、**数字などを記入**していただく場合がありますので、各設問の記載に従ってお答えください。
- 選択肢の場合、選んでいただく数が設問によって異なりますので、( )内の記載に従ってください。また、「その他」を選択された場合には、( )内に具体的な内容をご記入ください。
- 数字をご記入いただく場合、該当する数値を下線にご記入ください。また、時間(時刻)をご記入いただく場合は、24時間制でご記入ください。例：午後5時~17時
- 設問によっては回答いただく方が限られている場合がありますので、**ことわり書きや矢印**に従ってお答えください。特にことわりのない場合は、次の設問にお進みください。
- 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、**平成31年1月21日(月)までに**郵便ポストに投函してください。(切手は不要です。)

このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。  
鈴鹿市 子ども政策部 子ども政策課  
電話：059-382-7661 (直通)

**いただいたご回答は、鈴鹿市の子育て支援の充実に生かします**

**子育て支援の充実に生かす**

子育て支援の充実に生かす

- 〇 地域の子育て支援
  - 地域子育て支援拠点事業、一時預かり施設、育児相談、子育て支援センター等
- 〇 子育て支援への支援
  - 子育て支援事業、子育て期間支援事業等

**子育て支援の充実に生かす**

子育て支援の充実に生かす

- 〇 子育て支援の充実に生かす
  - 幼児期の教育・保育や地域の子育て支援について
  - ・「無償の見守り(保育の内容・実施時間)」を記載
  - ・「無償見守り(保育の内容・実施時間)」を記載
  - すべての子どもと子育て世帯への支援について

**子育てに関する「施設」「サービス」の説明です。回答される際の参考にしてください。**

幼稚園児童クラブ(学童保育)	保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生に、放課後における安全で安心な生活の場として開設しています。
子育て支援センター	子育て親子の交流の場の提供や相談、子育てに関する情報提供などを行っています。(りんりん、ハーモニー)
つどいの広場	地域における子育て親子の交流の場の提供や相談、子育てに関する情報提供などを行っています。(トライアングル、サラダの国、ハッピーの広場、プラズドゥ元氣、アップ、スマイルキッズ、愛あい、おひさま、乳幼児ママのホッとスペース nico mama cafe)
ファミリー・サポート・センター事業	育児の手助けができる人と、育児の手助けを必要とする人が会員として登録し、育児所(園)や幼稚園などの送迎等の相互援助を行う事業です。
病児・病後児保育	子どもが病気や肺炎の回復期であって、保護者が就労等により家庭での看護が困難なときに、病院や保育施設などで、保護者にかわって保育と看護を行う事業です。
保育所(園)	保護者の就労等により家庭で保育できない場合に、児童を預かる保育施設です。
保育所(園)の一時預かり	保護者の就労や病気、冠婚葬祭等の緊急時に一時的に児童を預かる事業です。
幼稚園	満3歳から小学校就学前までの幼児を預かり、心身の発達を促し、集団生活に慣れることを目的とした幼児教育施設です。
認定こども園	就学前の子どもの幼稚園と保育所(園)の機能を併せ持つ施設で、保護者の就労状況にかかわらず子どもを預り入れる施設です。
一時預かり	保護者の就労等により、業種での保育が困難な場合、陸園後や長期休業日に児童を預かる事業です。
認可外保育施設	保育所(園)と同様の役割を果たしていますが、児童福祉法による認可を受けしていない保育施設です。
事業所内保育施設	事業所が主に従業員の子どもを預かる保育施設です。

### 3 お子さんの育ちをめぐる環境についてうかがいます

問7 お子さんの子育て（教育を含む。）に日常的に利用しているもの（施設）は何ですか。  
（○は1つ）

- |             |             |          |
|-------------|-------------|----------|
| 1 幼稚園       | 2 保育所（園）    | 3 認定こども園 |
| 4 子育て支援センター | 5 つどいの広場    |          |
| 6 その他（ ）    | 7 特に利用施設はない |          |

問8 お子さんの子育て（教育を含む。）に、大きく影響すると思う環境は何ですか。  
（○はいくつでも）

- |                    |          |       |
|--------------------|----------|-------|
| 1 家庭               | 2 地域     | 3 幼稚園 |
| 4 保育所（園）           | 5 認定こども園 |       |
| 6 子育て支援センター、つどいの広場 | 7 その他（ ） |       |

問9 日頃、お子さんをみてもらえる親族、知人はいますか。（○はいくつでも）

- |                                |        |
|--------------------------------|--------|
| 1 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる           | ⇒問9-1へ |
| 2 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる  |        |
| 3 日常的に子どもをみてもらえる友人、知人がいる       | ⇒問9-2へ |
| 4 緊急時や用事の際には子どもをみてもらえる友人、知人がいる |        |
| 5 いずれもない                       | ⇒問10へ  |

問9-1 問9で「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます。

祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。  
（○はいくつでも）

- |  |
|--|
| 1 祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる |
| 2 祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である                           |
| 3 祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である                    |
| 4 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい                      |
| 5 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある                 |
| 6 その他（ ）   |

問9-2 問9で「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。

友人、知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。  
（○はいくつでも）

- |  |
|--|
| 1 友人、知人の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる |
| 2 友人、知人の身体的負担が大きく心配である                           |
| 3 友人、知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である                    |
| 4 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい                    |
| 5 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある               |
| 6 その他（ ）   |

### 1 お住まいの地域についてうかがいます

問1 お住まいの小学校区はどちらですか。（○は1つ）

※通学を考えた小学校区ではなく、現在お住まいの小学校区をお答えください。  
※小学校区がわからない場合は、「31 わからない」に○をつけ、町名をご記入ください。

- |        |        |                |        |
|--------|--------|----------------|--------|
| 1 国府   | 2 庄野   | 3 加佐登          | 4 牧田   |
| 5 清和   | 6 石薬師  | 7 白子           | 8 鼓ヶ浦  |
| 9 愛宕   | 10 旭が丘 | 11 桜島          | 12 福生  |
| 13 飯野  | 14 明生  | 15 河曲          | 16 一ノ宮 |
| 17 長太  | 18 箕田  | 19 玉垣          | 20 若松  |
| 21 神戸  | 22 栄   | 23 郡山          | 24 天名  |
| 25 合川  | 26 井田川 | 27 鈴西          | 28 椿   |
| 29 深伊沢 | 30 庄内  | 31 わからない（町名： ） |        |

### 2 お子さんご家族の状況についてうかがいます

問2 お子さんの生年月を数字でご記入ください。

平成\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日 生まれ

問3 お子さんのきょうだいは何人ですか。

※宛名のお子さんを含めた人数を数字でご記入ください。

※2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は末子の生年月を記入ください。

きょうだい数\_\_\_\_\_人 末子の生年月 平成\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月生まれ

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。（○は1つ）

※お子さんからみられた関係をお答えください。

- |      |      |          |
|------|------|----------|
| 1 母親 | 2 父親 | 3 その他（ ） |
|------|------|----------|

問5 この調査票にご回答いただいた方の方の配偶者の有無についてお答えください。（○は1つ）

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 配偶者がいる | 2 配偶者はいない |
|----------|-----------|

問6 お子さんの子育て（教育を含む。）を主に行っているのはどなたですか。（○は1つ）

※お子さんからみられた関係をお答えください。

- |         |          |        |
|---------|----------|--------|
| 1 父母ともに | 2 主に母親   | 3 主に父親 |
| 4 主に祖父母 | 5 その他（ ） |        |

**問12-1 問12で「1」～「4」(就労している)に○をつけた方にかがいます。**

以下の(1)、(2)の設問にお答えください。  
 (1) 1週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間(残業時間を含む。)を数字でご記入ください。

※日数や時間が一定でない場合は最も多いパターンをお答えください。  
 ※産休、育休、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。  
 ※時間は、24時間制でご記入ください。

1 週当たり \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 1日当たり \_\_\_\_\_ 時間

(2) 家を出る時刻と帰宅時刻について、数字でご記入ください。  
 ※時間が一定でない場合は最も多いパターンをお答えください。  
 ※産休、育休、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。  
 ※時刻は、24時間制でご記入ください。

家を出る時刻 \_\_\_\_\_ 時頃 \_\_\_\_\_ 時頃  
 帰宅時刻 \_\_\_\_\_ 時頃 \_\_\_\_\_ 時頃

**問12-2 問12で「3」または「4」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方にかがいます。**

フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

1 フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、  
 実現できる見込みがある

2 フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、  
 実現できる見込みはない

3 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望

4 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)をやめて子育てや家事に専念したい

**問12-3 問12で「5」または「6」(就労していない)に○をつけた方にかがいます。**

就労したいという希望はありますか。(あてはまる番号、記号をそれぞれ1つに○をつけて、該当する選択肢には数字をご記入ください。)

1 子育てや家事などに専念したい(働く予定はない)

2 1年より先、一番下の子どもが \_\_\_\_\_ 歳になったころに働きたい

3 すぐにも、または1年以内に働きたい

「2」または「3」に○をつけた方

ア フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)  
 希望する  
 就労形態  
 イ パートタイム・アルバイト等(「ア」以外)  
 →1週当たり \_\_\_\_\_ 日/1日当たり \_\_\_\_\_ 時間

**問10 お子さんの子育て(教育を含む。)をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所はありますか。(○は1つ)**

1 いる/ある ⇒問10-1へ      2 いない/ない ⇒問11へ

**問10-1 問10で「1」いる/あるに○をつけた方にかがいます。**

お子さんの子育て(教育を含む。)に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。(○はいくつでも)

(1) 気軽に相談できる人

1 配偶者      2 祖父母等の親族      3 友人や知人  
 4 近所の人      5 保育士、幼稚園教諭      6 民生委員、児童委員  
 7 かかりつけの医師      8 自治体の子育て関連担当職員  
 9 その他(      )

(2) 気軽に相談できる場所

1 子育て支援センター      2 つどいの広場      3 保健所、保健センター  
 4 保育所(園)      5 幼稚園      6 認定こども園  
 7 自治体の子育て関連担当窓口      8 NPO法人等の子育て支援団体  
 9 インターネットの相談サイト      10 その他(      )

**問11 子育て(教育を含む。)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあればよいかをお考えでしょうか。自由にご記入ください。**

.....

.....

**4 保護者の就労状況についてうかがいます**

**お母さんのことについてうかがいます** ※父子家庭の場合は、記入不要です。⇒問13へ

**問12 保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者を含む。)をうかがいます。(○は1つ)**

1 フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、  
 産休、育休、介護休業中ではない

2 フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しているが、  
 産休、育休、介護休業中である

3 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しており、  
 産休、育休、介護休業中ではない

4 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しているが、  
 産休、育休、介護休業中である

5 以前は就労していたが、現在は就労していない

6 これまで就労したことがない

⇒問12-1へ  
 ⇒問12-3へ

**問13-3 問13で「5」または「16」(就労していない)に○をつけた方にうかがいます。**

就労したいという希望はありますか。(あてはまる番号、記号をそれぞれ1つに○をつけて、該当する選択肢には数字をご記入ください。)

1 子育てや家事などに専念したい (働く予定はない)

2 1年より先、一番下の子どもが\_\_\_\_\_歳になったころに働きたい

3 すぐにも、または1年以内に働きたい

「2」または「3」に○をつけた方

ア フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労)

イ パートタイム・アルバイト等 (「ア」以外)

一希望する就労形態 \_\_\_\_\_日/1日当たり\_\_\_\_\_時間

**5 お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてうかがいます**

※ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。具体的には、問14-1に示した事業が含まれます。

問14 お子さんは現在、幼稚園や保育所 (園) などの「平日の定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。(○は1つ)

1 利用している ⇒問14-1へ

2 利用していない ⇒問14-5へ

**問14-1 問14で「1 利用している」に○をつけた方にうかがいます。**

お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的」に利用している事業をお答えください。(○はいくつでも)

1 市立幼稚園 (通常の就園時間の利用)

2 私立幼稚園 (通常の就園時間の利用)

3 幼稚園、認定こども園の一時預かり (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)

4 保育所 (園) (市立保育所、私立保育園)

5 認定こども園 (幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設)

6 事業所内保育施設 (企業が主に従業員用に運営する施設)

7 認可外の保育施設

8 ファミリー・サポート・センター (地域住民が子どもを預かる事業)

9 その他 ( )

**お父さんのことについてうかがいます**

問13 保護者の現在の就労状況 (自営業、家族従事者を含む) をうかがいます。(○は1つ)

1 フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労しており、  
育休、介護休業中ではない ⇒問13-1へ

2 フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労しているが、  
育休、介護休業中である

3 パート・アルバイト等 (「フルタイム」以外の就労) で就労しており、  
育休、介護休業中ではない

4 パート・アルバイト等 (「フルタイム」以外の就労) で就労しているが、  
育休、介護休業中である

5 以前は就労していたが、現在は就労していない ⇒問13-3へ

6 これまで就労したことがない

**問13-1 問13で「1」～「4」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。**

以下の (1)、(2) の設問にお答えください。

(1) 1週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間 (残業時間を含む) を数字でご記入ください。

※日数や時間が一定でない場合は最も多いパターンをお答えください。

※育休、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

※時間は、24時間制でご記入ください。

1 週当たり\_\_\_\_\_日 1日当たり\_\_\_\_\_時間

(2) 家を出る時刻と帰宅時刻について、数字でご記入ください。

※時間が一定でない場合は最も多いパターンをお答えください。

※育休、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

※時刻は、24時間制でご記入ください。

家を出る時刻\_\_\_\_\_時頃 帰宅時刻\_\_\_\_\_時頃

**問13-2 問13で「3」または「4」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方にうかがいます。**

フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

1 フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) への転換希望があり、  
実現できる見込みがある

2 フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) への転換希望はあるが、  
実現できる見込みはない

3 パート・アルバイト等 (「フルタイム」以外) の就労を続けることを希望

4 パート・アルバイト等 (「フルタイム」以外) をやめて子育てや家事に専念したい

**全ての方にうかがいます。**

**問15** 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。(○はいくつでも)

※これらの事業の利用には、一定の利用料がかかります。市立幼稚園、保育所(園)、認定こども園の場合、希望収入に応じた利用料が設定されています。  
※「9～11」の各事業は現在本市では実施していないものです。

- |   |     |
|---|-----|
| 1 市立幼稚園 (通常の就園時間の利用)                                    | ( ) |
| 2 私立幼稚園 (通常の就園時間の利用)                                    | ( ) |
| 3 幼稚園、認定こども園の一時預かり<br>(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)    | ( ) |
| 4 保育所(園) (市立保育所、私立保育園)                                  | ( ) |
| 5 認定こども園 (幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設)                           | ( ) |
| 6 事業所内保育施設 (企業が主に従業員用に運営する施設)                           | ( ) |
| 7 認可外の保育施設  | ( ) |
| 8 ファミリー・サポート・センター (地域住民が子どもを預かる事業)                      | ( ) |
| 9 小規模な保育施設 (園が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた<br>定員数6～19人のもの) | ( ) |
| 10 家庭的保育 (保育ママ) (保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業)               | ( ) |
| 11 居宅訪問型保育 (保育者が子どもの家庭で保育する事業)                          | ( ) |
| 12 その他 ( )  | ( ) |

**問15-1** 平日に教育・保育事業を利用したい実施場所はどこですか。(○は1つ)

※「2」に○をつけた方は具体的な市町村名をご記入ください。

- |             |     |
|-------------|-----|
| 1 鈴鹿市       | ( ) |
| 2 他の市町村 ( ) | ( ) |

**問15-2** 問15で「1」～「12」のいずれかに○をつけ、かつ「4」～「12」にも○をつけた方にうかがいます。

特に幼稚園(幼稚園、認定こども園の一時預かりを合わせて利用する場合を含む。)の利用を強く希望しますか。(○は1つ)

- |       |     |
|-------|-----|
| 1 はい  | ( ) |
| 2 いいえ | ( ) |

**問14-2** 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、現在のどのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間(何時から何時まで)かを、数字でご記入ください。

(1) 現在の利用状況

※時間は、24時間制でご記入ください。

- |                |                 |                     |
|----------------|-----------------|---------------------|
| 1 週当たり _____ 日 | 1 日当たり _____ 時間 | ( _____ 時～ _____ 時) |
|----------------|-----------------|---------------------|
- また、その事業を選んだ理由をお答えください。(○はいくつでも)
- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1 施設が距離的に近い場所にある | 2 利用する経費が安い |
| 3 利用しやすい         | 4 その他 ( )   |

(2) 希望

※時間は、24時間制でご記入ください。

- |                |                 |                     |
|----------------|-----------------|---------------------|
| 1 週当たり _____ 日 | 1 日当たり _____ 時間 | ( _____ 時～ _____ 時) |
|----------------|-----------------|---------------------|

**問14-3** 現在、平日に利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。(○は1つ)

※「2」に○をつけた方は具体的な市町村名をご記入ください。

- |             |     |
|-------------|-----|
| 1 鈴鹿市内      | ( ) |
| 2 他の市町村 ( ) | ( ) |

**問14-4** 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてうかがいます。

(○はいくつでも)

- |                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| 1 子どもの教育や発達のため                     | ( ) |
| 2 子育て(教育を含む。)をしている者が現在就労している       | ( ) |
| 3 子育て(教育を含む。)をしている者が就労予定である/求職中である | ( ) |
| 4 子育て(教育を含む。)をしている者が家族、親族などを介護している | ( ) |
| 5 子育て(教育を含む。)をしている者に病気や障がいがある      | ( ) |
| 6 子育て(教育を含む。)をしている者が学生である          | ( ) |
| 7 その他 ( )                          | ( ) |

**問14-5** 問14で「2 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

平日に利用していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

※「8」に○をつけた方は利用を希望する子どもの年齢を数字でご記入ください。

- |   |     |
|---|-----|
| 1 (子どもの教育や発達のため、子どもの母親が父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない | ( ) |
| 2 子どもの祖父母や親戚の人がみている                               | ( ) |
| 3 近所の人や父母の友人、知人がみている                              | ( ) |
| 4 利用したいが、保育・教育の事業に空きがない                           | ( ) |
| 5 利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない                         | ( ) |
| 6 利用したいが、延長、夜間などの時間帯の条件が合わない                      | ( ) |
| 7 利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない                     | ( ) |
| 8 子どもがまだ小さいため ( _____ 歳くらいになったら利用しようと考えている)       | ( ) |
| 9 その他 ( )   | ( ) |



問21-3 問21-2で「1 できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方にかがいます。  
上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 幼稚園、保育所（園）等に併設した施設で子どもを保育する事業
- 2 小児科に併設した施設で子どもを保育する事業
- 3 地域住民が子育てで家庭の身近な場所で保育する事業
- 4 その他（ ）

問21-4 問21-2で「2 利用したいとは思わない」に○をつけた方にかがいます。  
そう思う理由についてお答えください。(○はいくつでも)

- 1 病児の子を他人に看病してもらうのは不安
- 2 地域の事業の質に不安がある
- 3 地域の事業の利便性（立地、利用可能時間、日数など）がよくない
- 4 利用料が必要である、高い
- 5 利用料がわからない
- 6 親が仕事を休んで対応する
- 7 その他（ ）

問21-5 問21-1で「3～「9」のいずれかに○をつけた方にかがいます。  
その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看病したい」と思いましたか。  
(○は1つ)

- ※「3」～「9」のうち仕事を休んで看病したかった日数についても数字でご記入ください。
- 1 できれば仕事を休んで看病したい ⇒ \_\_\_\_\_日 ⇒問22へ
  - 2 休んで看病することは非常に難しい ⇒問21-6へ

問21-6 問21-5で「2 休んで看病することは非常に難しい」に○をつけた方にかがいます。  
そう思う理由についてお答えください。(○はいくつでも)

- 1 子どもの看病を理由に休みがとれない
- 2 自営業なので休めない
- 3 休暇日数が足りないで休めない
- 4 その他（ ）

問20-1 問20で「3 休みの期間中は、週に数日利用したい」に○をつけた方にかがいます。  
毎日ではなく、たまに利用したい理由は何か。(○はいくつでも)

- 1 週に数回仕事が入るため
- 2 買い物等の用事をまとめて済ませるため
- 3 親や親族等の介護や手伝いが必要のため
- 4 息抜きのため
- 5 その他（ ）

### 8 お子さんの病気の際の対応についてうかがいます (平日の教育・保育を利用する方のみ)

問21 問14で「1 利用している」に○をつけた方（平日の定期的な教育・保育の事業を利用して  
いると答えた保護者の方）にかがいます。  
この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。  
(○は1つ)

- 1 あった ⇒問21-1へ
- 2 なかった ⇒問22へ

問21-1 問21で「1 あった」に○をつけた方にかがいます。  
お子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、  
この1年間に行った対処方法はどのようなことですか。(○はいくつでも)

※それぞれの日数も数字でご記入ください。  
※半日程度の対応の場合も1日として教えてください。

1年間の対処方法		日数
1 父親が休んだ		____日
2 母親が休んだ		____日
3 (同居者を含む) 親族、知人に子どもをみてもらった		____日
4 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた		____日
5 病児・病後児の保育を利用した		____日
6 ベビーシッターを利用した		____日
7 ファミリー・サポート・センターの送迎等を利用した		____日
8 仕方なく子どもだけで留守番をさせた		____日
9 その他（ ）		____日

⇒問21-2へ  
⇒問21-5へ

問21-2 問21-1で「1」または「2」に○をつけた方にかがいます。  
その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。  
(○は1つ)

※日数についても数字でご記入ください。  
※病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前に市が指定する医療機関の  
受診が必要です。

- 1 できれば病児・病後児保育施設等を利用したい ⇒ \_\_\_\_\_日 ⇒問21-3へ
- 2 利用したいとは思わない ⇒問21-4へ

9 お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用についてうかがいます

問22 お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。(○はいくつでも)

※1年間の利用日数についても数字でご記入ください。

利用している事業	年間日数
1 保育所(園)の一時預かり(保育所(園)などで一時的に子どもを保育する事業)	日
2 幼稚園、認定こども園の一時預かり(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、不定期に利用する場合のみ)	日
3 ファミリー・サポート・センター(地域住民が子どもを預かる事業)	日
4 夜間等養護事業・トワイライトステイ(児童養護施設等で休日、夜間、子どもを保護する事業)	日
5 ベビーシッター	日
6 その他( )	日
7 利用していない	日

⇒問23へ

問22-1 問22で「7 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

現在利用していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 特に利用する必要がない
- 2 利用したい事業が地域にない
- 3 地域の事業の質に不安がある
- 4 地域の事業の利便性(立地、利用可能時間、日数など)がよくない
- 5 利用料が必要である、高い
- 6 利用料がわからない
- 7 自分が事業の対象者になるのかわからない
- 8 事業の利用方法(手続等)がわからない
- 9 その他( )

問23 お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。(あてはまる番号、記号全てに○)

※利用したい日数の合計と、目的の内訳の日数を数字でご記入ください。

※事業の利用には、一定の利用料がかかります。

利用希望	希望日数
1 利用したい	計 日
ア 私用(買い物、子ども(兄弟姉妹を含む。)や親の習い事など)、息抜き目的	日
イ 冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む。)や親の通院など	日
ウ 不定期の就労	日
エ その他( )	日
2 利用する必要はない	日

⇒問23-1へ

問23で「1 利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

問23の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 大規模施設で子どもを保育する事業(例：幼稚園、保育所(園)、認定こども園)
- 2 小規模施設で子どもを保育する事業(例：認可外保育施設等)
- 3 地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業(例：ファミリー・サポート・センター等)
- 4 その他( )

問24 この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者、家族の病気など)により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありませんか。(預け先が見つからなかった場合も含みます)

※泊数についても数字でご記入ください。

有無(○は1つ)	1年間の対処方法(○はいくつでも)	泊数
1 あった	ア (同居者を含む)親族、知人にみてもらった	泊
	イ 短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した(児童養護施設等で一定期間、子どもを保育する事業)	泊
	ウ 「イ」以外の保育事業(認可外保育施設、ベビーシッター等)を利用した	泊
	エ 仕方なく子どもを同行させた	泊
	オ 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	泊
	カ その他( )	泊
2 なかった		

⇒問24-1へ

問24-1 問24で「1 あった ア(同居者を含む)親族、知人にみてもらった」に○をつけた方にうかがいます。

その場合の困難度はどの程度でしたか。(○は1つ)

- 1 非常に困難
- 2 どちらかというと困難
- 3 特に困難ではない

**問27** 問25または問26で「6 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方いらっしゃいますか。  
 ○は1つずつ

※希望がある場合は、利用したい時間帯を数字でご記入ください。  
 ※時間は、2時間単位でご記入ください。  
 ※事業の利用には、一定の利用料がかかります。

(1) 土曜日

1 低学年（1～3年生）の間は利用したい	↑	利用したい時間帯
2 高学年（4～6年生）になっても利用したい		_____時台～_____時台
3 利用する必要はない		

(2) 日曜日、祝日

1 低学年（1～3年生）の間は利用したい	↑	利用したい時間帯
2 高学年（4～6年生）になっても利用したい		_____時台～_____時台
3 利用する必要はない		

**問28** お子さんの夏休み、冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。(○は1つ)

※希望がある場合は、利用したい時間帯を数字でご記入ください。  
 ※時間は、2時間単位でご記入ください。  
 ※事業の利用には、一定の利用料がかかります。

1 低学年（1～3年生）の間は利用したい	↑	利用したい時間帯
2 高学年（4～6年生）になっても利用したい		_____時台～_____時台
3 利用する必要はない		

**11 全ての方に、育児休業や短時間勤務制度など職場の同立支援制度についてうかがいます**

※ここからは母親、父親についての設問がある場合、それぞれについてお答えください。  
 (ひとり親世帯は該当する方のみお答えください。)

**問29** 育児休業給付、保険料免除の制度について、ご存じでしたか。(○は1つ)  
 「育児休業給付」…子どもが原則1歳（保育所（園）における保育の実態が行われないなど一定の要件を満たす場合は2歳）になるまで育児休業給付が支給される仕組み  
 「保険料免除」…子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組み

1 育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた
2 育児休業給付のみ知っていた
3 保険料免除のみ知っていた
4 育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった

**10 お子さんが5歳以上である方（平成31年4月から小学生になる方）に、小学校就学後の放課後の過ごし方についてうかがいます**  
 ⇒宛名のお子さんが5歳未満の方は、問29へ

**問25** お子さんが、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後の）時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。(○はいくつでも)  
 ※それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。  
 ※「6 放課後児童クラブ」に○をつけた場合には、利用を希望する時間も数字でご記入ください。

過ごさせたい場所	日数
1 自宅	週 _____日くらい
2 祖父母宅や友人、知人宅	週 _____日くらい
3 地域の活動や習い事（子ども会、スポーツ少年団、ピアノ教室、習字塾など）	週 _____日くらい
4 児童館（一ノ宮団地児童センター、玉垣児童センター）	週 _____日くらい
5 放課後子ども教室 <sup>※1</sup>	週 _____日くらい
6 放課後児童クラブ（学童保育） <sup>※2</sup>	週 _____日くらい
	⇒下校時から _____時まで
7 ファミリー・サポート・センター	週 _____日くらい
8 その他（公園など）	週 _____日くらい

※1 放課後子ども教室…地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校や公民館で学習、スポーツ、文化芸術活動などを体験する取組です。保護者の就労の有無にかかわらず、全ての小学生が利用できます（小学校や公民館によっては、活動を行っていない場合もあります。）

※2 放課後児童クラブ…地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により帰回家庭にいない場合などに、支援員の下、子どもの生活の場を提供するものです。事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

**問26** お子さんが、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。(○はいくつでも)

※それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。  
 ※「6 放課後児童クラブ」に○をつけた場合には、利用を希望する時間も数字でご記入ください。  
 ※学年が先になりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。

過ごさせたい場所	日数
1 自宅	週 _____日くらい
2 祖父母宅や友人、知人宅	週 _____日くらい
3 地域の活動や習い事（子ども会、スポーツ少年団、ピアノ教室、習字塾など）	週 _____日くらい
4 児童館（一ノ宮団地児童センター、玉垣児童センター）	週 _____日くらい
5 放課後子ども教室	週 _____日くらい
6 放課後児童クラブ（学童保育）	週 _____日くらい
	⇒下校時から _____時まで
7 ファミリー・サポート・センター	週 _____日くらい
8 その他（公園など）	週 _____日くらい

問30-2 問30で「2 取得した（取得中である）」に○をつけた方にかがいます。  
 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（それぞれ○は1つずつ）

母親	父親
1 育児休業取得後、職場に復帰した ⇒問30-3へ	1 育児休業取得後、職場に復帰した ⇒問30-3へ
2 現在も育児休業中である ⇒問30-9へ	2 現在も育児休業中である ⇒問30-9へ
3 育児休業中に離職した ⇒問31へ	3 育児休業中に離職した ⇒問31へ

問30-3 問30-2で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方にかがいます。

育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所（園）入所（園）に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（それぞれ○は1つずつ）

※年度初めでの認可保育所入所を希望し、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合は、合なども「1」にあてはまります。また、年度初めでの入所（園）を希望して復帰したが、実際には希望する保育所（園）に入所（園）できなかったという場合も「1」を選択してください。

母親	父親
1 年度初めの入所（園）に合わせた タイミングだった	1 年度初めの入所（園）に合わせた タイミングだった
2 それ以外だった	2 それ以外だった

問30-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月のときまで取り戻したかったですか。

※それぞれ数字でご記入ください。

(1) 実際の取得期間

母親	父親
____ 歳 ____ か月まで	____ 歳 ____ か月まで

(2) 希望の取得期間（お勤め先の育児休業の制度の期間内）

母親	父親
____ 歳 ____ か月まで	____ 歳 ____ か月まで

問30-5 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、お子さんが何歳何か月のときまで取り戻したかったですか。

※それぞれ数字でご記入ください。

母親	父親
____ 歳 ____ か月まで	____ 歳 ____ か月まで

問30 お子さんが生まれた時、父母のいずれかまたは双方が育児休業を取得しましたか。  
 （それぞれ○は1つずつ）

母親	父親
1 働いていなかった ⇒問31へ	1 働いていなかった ⇒問31へ
2 取得した（取得中である） ⇒問30-2へ	2 取得した（取得中である） ⇒問30-2へ
3 取得していない ⇒問30-1へ	3 取得していない ⇒問30-1へ

問30-1 問30で「3 取得していない」に○をつけた方にかがいます。

育児休業を取得していない理由は何か。（それぞれ○はいくつでも）

母親	父親
1 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった	1 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった
2 仕事が忙しかった	2 仕事が忙しかった
3 （産休後に）仕事に早く復帰したかった	3 仕事に戻るのが難しそうだった
4 仕事に戻るのが難しそうだった	4 昇給、昇格などが遅れそうだった
5 昇給、昇格などが遅れそうだった	5 収入減となり、経済的に苦しくなる
6 収入減となり、経済的に苦しくなる	6 保育所（園）などに預けることができた
7 保育所（園）などに預けることができた	7 配偶者が育児休業制度を利用した
8 配偶者が育児休業制度を利用した	8 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえなど、制度を利用する必要がなかった
9 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえなど、制度を利用する必要がなかった	9 子育てや家事に専念するため退職した
10 子育てや家事に専念するため退職した	10 職場に育児休業の制度がなかった （就業規則に定めがなかった）
11 職場に育児休業の制度がなかった （就業規則に定めがなかった）	11 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった
12 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった	12 育児休業を取得できなかった 知らなかった
13 育児休業を取得できなかった 知らなかった	14 産前産後の休暇（産前6週間、産後8週間）を取得できなかった
14 産前産後の休暇（産前6週間、産後8週間）を取得できなかった	15 その他（ ）
15 その他（ ）	⇒問31へ

問30-8 問30-7で「2 短時間勤務制度を利用しなかった」に○をつけた方にかかいます。  
短時間勤務制度を利用しなかった理由は何ですか。(それぞれ○はいくつでも)

母親	父親
1 職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった	1 職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった
2 仕事が忙しかった	2 仕事が忙しかった
3 短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる	3 短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる
4 短時間勤務にすると保育所(園)の入所(園)申請の優先順位が下がる	4 短時間勤務にすると保育所(園)の入所(園)申請の優先順位が下がる
5 配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	5 配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した
6 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえらるなど、制度を利用する必要がなかった	6 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえらるなど、制度を利用する必要がなかった
7 子育てや家事に専念するため退職した	7 子育てや家事に専念するため退職した
8 職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	8 職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)
9 短時間勤務制度を利用できることを知らなかった	9 短時間勤務制度を利用できることを知らなかった
10 利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)	10 利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)
11 その他( )	11 その他( )

問30-9 問30-7で「2 現在も育児休業中である」に○をつけた方にかかいます。  
お子さんの育児休業期間が満了したときに、お子さんを預けられる事業(保育所(園)への入所(園)等)があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。(それぞれ○はいくつでも)

母親	父親
1 1歳になるまで育児休業を取得したい	1 1歳になるまで育児休業を取得したい
2 1歳になる前に復帰したい	2 1歳になる前に復帰したい

問30-6 問30-4で実際の復帰と希望が異なる方にかかいます。  
希望の時期に職場復帰しなかったのは、どのような理由からですか。(それぞれ○はいくつでも)

(1) 希望より早く復帰した方

母親	父親
1 希望する保育所(園)に入るため	1 希望する保育所(園)に入るため
2 配偶者や家族の希望があったため	2 配偶者や家族の希望があったため
3 経済的な理由で早く復帰する必要があったため	3 経済的な理由で早く復帰する必要があったため
4 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	4 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため
5 その他( )	5 その他( )

(2) 希望より遅く復帰した方

母親	父親
1 希望する保育所(園)に入れなかったため	1 希望する保育所(園)に入れなかったため
2 自分や子どもなどの体調が悪くならなかったため	2 自分や子どもなどの体調が悪くならなかったため
3 配偶者や家族の希望があったため	3 配偶者や家族の希望があったため
4 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	4 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため
5 子どもをみてくれる人がいなかったため	5 子どもをみてくれる人がいなかったため
6 その他( )	6 その他( )

問30-7 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度(時短、部分休業等)を利用しましたか。(それぞれ○はいくつでも)

母親	父親
1 短時間勤務制度を利用した(利用中である)	1 短時間勤務制度を利用した(利用中である)
2 短時間勤務制度を利用しなかった	2 短時間勤務制度を利用しなかった

**12 その他のことについてうかがいます**

問31 市の子育てに関する情報をどのように入手していますか。(〇はいくつでも)

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1 市役所や市の機関                | 2 広報紙               |
| 3 市のウェブページ（市のホームページ、きら鈴等） | 5 幼稚園、保育所（園）、認定こども園 |
| 4 友人                      | 7 情報の入手先がわからない      |
| 6 病院                      | 8 その他（ ）            |

問32 地域の関わりにどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1 子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる     |
| 2 いたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる |
| 3 通園時に安全を確保してくれる              |
| 4 子どもにスポーツや遊びなどの指導してくれる       |
| 5 緊急時に子どもを一時的に預かってくれる         |
| 6 子育てについて気軽に相談のつてくれる          |
| 7 その他（ ）                      |
| 8 特にない                        |

問33 次の(1)～(3)の各項目について、お答えください。(〇は1つずつ)

(1) 鈴鹿市において、「子育てが楽しいと感じる度合い」



(2) 鈴鹿市において、「仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い」



(3) 鈴鹿市において、「子育ての環境や支援に対する満足度」



問34 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、自由にご記入ください。

.....

.....

.....

.....

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

切手を貼らずに同封の返信用封筒に入れ、

**平成31年1月21日（月）までに**

ポストへご投函ください。



## 2 小学生の調査票

【小学生保護者用】

**鈴鹿市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査**

●調査ご協力のお願い●

皆さまには、日頃より市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本市では、「子ども・子育て支援法」に基づき、平成 27 年 3 月に「鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでおります。つきましては、本市の平成32年(2020年)からの「第2期子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けて、保護者の方の利用ニーズ等を把握するため、アンケート調査を実施します。本調査は無記名で行い、ご本人が特定されることはありませんので、率直なご意見をご記入ください。調査結果は、統計的に処理し、調査の目的以外に使用することはありません。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、アンケート調査にご協力いただきありがとうございます。よろしくお願ひ申し上げます。

平成 30 年 12 月 鈴鹿市長 末松 則子

◆アンケートの概要◆

- この調査は、子ども・子育て支援の充実のため、全国の自治体で実施されるものであり、調査の内容は国の指示内容をベースに本市で作成したものです。
- この調査は、対象となるお子さんのいる4,000世帯を住民基本台帳から無作為で抽出し、ご協力をお願いします。
- 設問数が多いですが、重要な調査ですので、ご回答をお願いいたします。

【記入にあたって】

- 特にことわりのある場合以外、封筒の宛名のお子さんについて保護者の方がご記入ください。
- 回答は**選択肢**に○をつけていただく場合と、**数字**などを記入していただく場合がありますので、各設問の記載に従ってお答えください。
- 選択肢の場合、選んでいただく数が設問によって異なりますので、( ) 内の記載に従ってください。また、「その他」を選択された場合には、( ) 内に具体的な内容をご記入ください。
- 数字でご記入いただく場合、該当する数値を下線上に記入ください。また、時間(時期)をご記入いただく場合は、24時間制でご記入ください。例：午後5時→17時
- 設問によっては回答いただく方が限られている場合がありますので、**ことわり書き**や**矢印**に従ってお答えください。特にことわりのない場合は、次の設問にお進みください。
- 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、**平成31年1月21日(月)までに郵便ポストに投函**してください。(切手は不要です。)

このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。  
鈴鹿市 子ども政策部 子ども政策課  
電話：059-382-7661(直通)

**いただいたご回答は、鈴鹿市の子育て支援の充実に生かします**

子育て家庭

アンケート回答等により、子育て課題の把握や支援の活用促進や利用促進等を把握

○教育・保育の場  
幼稚園、保育所(園)、認定こども園

調査票を返付

調査票を返付

鈴鹿市

調査票等によって把握された利用促進等を考慮して、今後の計画を策定

**鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画 (5か年計画)**

幼児期の教育・保育や地域の子育て支援について  
・「国の見込み(国の利用促進+利用促進)」  
・「県の方針(県の内容+実施時期)」を記載  
すべての子どもと子育て家庭への支援について

○地域の子育て支援  
地域子育て支援拠点事業、一時預かり、病児・病後児保育、放課後児童クラブ等

○子育て家庭への支援  
養育支援事業、子育て相談支援事業等

計画に基づいて実施

**子育てに関する「施設」「サービス」の説明です。回答される際の参考にしてください。**

放課後児童クラブ (学童保育)	保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生に、放課後における安全で安心な生活の場として開設しています。
ファミリー・サポート・センター事業	育児の手助けができる人と、育児の手助けを必要とする人が会員として登録し、小学校や放課後児童クラブなどの送迎等の相互援助を行う事業です。
病児・病後児保育	子どもが病中や病後の回復期である中、保護者が就労等により家庭での看護が困難なときに、病院や保育施設などで、保護者にかわって保育と看護を行う事業です。

### 3 子どもの育ちをめぐる環境についてうかがいます

問7 お子さんの子育て（教育を含む。）に日常的に関わっているもの（施設）は何ですか。  
 （○はいくつでも）

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| 1 放課後児童クラブ（学童保育）※1         | 2 学習塾、習い事 |
| 3 地域の青少年団体活動（子ども会、スポーツ少年団） | 5 その他（ ）  |
| 4 児童センター                   |           |

※1 放課後児童クラブ…地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、支援員の下、子どもの生活の場を提供するものです。事業の利用には、一定の利用料がかかります。

問8 お子さんの子育て（教育を含む。）に、大きく影響すると思う環境は何ですか。  
 （○はいくつでも）

- |          |      |       |
|----------|------|-------|
| 1 家庭     | 2 地域 | 3 小学校 |
| 4 その他（ ） |      |       |

問9 日頃、お子さんをみてもらえる親族、知人はいますか。（○はいくつでも）

- |                                |        |
|--------------------------------|--------|
| 1 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる           | ⇒問9-1へ |
| 2 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる  |        |
| 3 日常的に子どもをみてもらえる友人、知人がいる       | ⇒問9-2へ |
| 4 緊急時や用事の際には子どもをみてもらえる友人、知人がいる |        |
| 5 いずれもない                       | ⇒問10へ  |

問9-1 問9で「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます。

祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。  
 （○はいくつでも）

- |   |
|---|
| 1 祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく安心して子どもをみてもらえる |
| 2 祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である                          |
| 3 祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である                   |
| 4 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい                     |
| 5 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある                |
| 6 その他（ ）  |

### 1 お住まいの地域についてうかがいます

問1 お住まいの小学校区はどちらですか。（○は1つ）

※通学している小学校区ではなく、現在お住まいの小学校区をお答えください。  
 ※小学校区がわからない場合は、「31 わからない」に○をつけ、町名をご記入ください。

- |        |        |                |        |
|--------|--------|----------------|--------|
| 1 国府   | 2 庄野   | 3 加佐登          | 4 牧田   |
| 5 清和   | 6 石薬師  | 7 白子           | 8 鼓ヶ浦  |
| 9 愛宕   | 10 旭が丘 | 11 桜島          | 12 福生  |
| 13 飯野  | 14 明生  | 15 河曲          | 16 一ノ宮 |
| 17 長太  | 18 箕田  | 19 玉垣          | 20 若松  |
| 21 神戸  | 22 栄   | 23 郡山          | 24 天名  |
| 25 合川  | 26 井田川 | 27 鈴西          | 28 椿   |
| 29 深伊沢 | 30 庄内  | 31 わからない(町名: ) |        |

### 2 お子さんご家族の状況についてうかがいます

問2 お子さんの生年月月を数字でご記入ください。

平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_生まれ

問3 お子さんのきょうだいは何人ですか。

※兄弟のお子さんを含めた人数を数字でご記入ください。

※2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は末子の生年月月をご記入ください。

きょうだい数\_\_\_\_人 末子の生年月 平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月生まれ

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。（○は1つ）

※お子さんからみられた関係でお答えください。

- |      |      |          |
|------|------|----------|
| 1 母親 | 2 父親 | 3 その他（ ） |
|------|------|----------|

問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶者の有無についてお答えください。（○は1つ）

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 配偶者がいる | 2 配偶者はいない |
|----------|-----------|

問6 お子さんの子育て（教育を含む。）を主に行っているのはどなたですか。（○は1つ）

※お子さんからみられた関係でお答えください。

- |         |          |        |
|---------|----------|--------|
| 1 父母ともに | 2 主に母親   | 3 主に父親 |
| 4 主に祖父母 | 5 その他（ ） |        |

4 保護者の就業状況についてうかがいます

お母さんのことについてうかがいます

※父子家庭の場合は、記入不要です。⇒問13へ

問12 保護者の現在の就業状況（自営業、家族従事者を含む。）をうかがいます。（○は1つ）

- 1 フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就業）で就労しており、  
産休、育休、介護休業中ではない
- 2 フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就業）で就労しているが、  
産休、育休、介護休業中である
- 3 パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就業）で就労しており、  
産休、育休、介護休業中ではない
- 4 パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就業）で就労しているが、  
産休、育休、介護休業中である
- 5 以前は就労していたが、現在は就労していない
- 6 これまで就労したことがない

⇒問12-1へ

⇒問12-3へ

問12-1 問12で「1」～「4」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。

以下の（1）、（2）の設問にお答えください。

（1）1週当たりの就業日数、1日当たりの就業時間（残業時間を含む。）を数字でご記入ください。

※日数や時間が一定でない場合もっとも多いパターンをお答えください。

※産休、育休、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

※時間は、24時間制でご記入ください。

1 週当たり \_\_\_\_\_ 日 1日当たり \_\_\_\_\_ 時間

（2）家を出る時刻と帰宅時刻を、数字でご記入ください。

※時間が一定でない場合もっとも多いパターンをお答えください。

※産休、育休、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

※時刻は、24時間制でご記入ください。

家を出る時刻 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分 帰宅時刻 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

問12-2 問12で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労している）に○をつけた方にうかがいます。

フルタイムへの転換希望はありますか。（○は1つ）

- 1 フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就業）への転換希望があり、実現できる見込みがある
- 2 フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- 3 パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望
- 4 パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）をやめて子育てや家事に専念したい

4

問9-2 問9で「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。

友人、知人にお子さんをもっていらっしゃる状況についてお答えください。（○はいくつでも）

- 1 友人、知人の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
- 2 友人、知人の身体的負担が大きいく心配である
- 3 友人、知人の時間的制約や精神的な負担が大きいく心配である
- 4 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
- 5 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある
- 6 その他（ \_\_\_\_\_ ）

問10 お子さんの子育て（教育を含む。）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所はありますか。（○は1つ）

- 1 いる/ある ⇒問10-1へ
- 2 いない/ない ⇒問11へ

問10-1 問10で「1 いる/ある」に○をつけた方にうかがいます。

お子さんの子育て（教育を含む。）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（○はいくつでも）

- 1 配偶者
- 2 祖父母等の親族
- 3 友人、知人
- 4 近所の人
- 5 小学校の先生
- 6 放課後児童クラブ（学童保育）の指導員
- 7 ピアノ、野球、サッカー等の指導員
- 8 民生委員、児童委員
- 9 市の子育て関連担当窓口
- 10 NPO法人等の子育て支援団体
- 11 インターネットの相談サイト
- 12 その他（ \_\_\_\_\_ ）

問11 子育て（教育を含む。）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいかをお考えですか。自由にご記入ください。

.....

.....

.....

3

問13-2 問13で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労している）に○をつけた方に関する情報がありませんか。○は1つ

- フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)
- 1 フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある
  - 2 フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
  - 3 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望
  - 4 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)をやめて子育てや家事に専念したい

問13-3 問13で「5」または「6」(就労していない)に○をつけた方に関する情報がありませんか。(○は1つ)

就労したいという希望はありますか。(あてはまる番号、記号それぞれ1つに○をつけて、該当する選択肢には数字をご記入ください。)

- 1 子育てや家事などに専念したい(働く予定はない)
  - 2 1年より先、一番下の子どもが\_\_\_\_歳になったところに働きたい
  - 3 すぐにも、または1年以内に働きたい
- 「2」または「3」に○をつけた方
- |           |                            |               |
|-----------|----------------------------|---------------|
| →希望する就労形態 | ア フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労) | 日/1日当たり____時間 |
|           | イ パートタイム・アルバイト等(「ア」以外)     |               |

**5 お子さんの平日の定期的な子育て支援事業の利用状況について**  
うかがいます

問14 お子さんは現在、放課後児童クラブ等の「平日の定期的な子育て支援事業」を利用されていますか。(○は1つ)

- 1 利用している ⇒問14-1へ
- 2 利用していない ⇒問14-4へ

問14-1 問14で「1」利用しているに○をつけた方に関する情報がありませんか。(○は1つ)

お子さんは、平日どのような定期的な子育て支援事業を利用していますか。年間を通じて「定期的」に利用している事業をお答えください。(○はいくつでも)

- 1 放課後児童クラブ(学童保育)
- 2 ファミリー・サポート・センター(地域住民が子どもを預かる事業)
- 3 その他( )

問12-3 問12で「5」または「6」(就労していない)に○をつけた方に関する情報がありませんか。(あてはまる番号、記号それぞれ1つに○をつけて、該当する選択肢には数字をご記入ください。)

- 1 子育てや家事などに専念したい(働く予定はない)
  - 2 1年より先、一番下の子どもが\_\_\_\_歳になったところに働きたい
  - 3 すぐにも、または1年以内に働きたい
- 「2」または「3」に○をつけた方
- |           |                            |               |
|-----------|----------------------------|---------------|
| →希望する就労形態 | ア フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労) | 日/1日当たり____時間 |
|           | イ パートタイム・アルバイト等(「ア」以外)     |               |

**お父さんのことについてうかがいます**

問13 保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者を含む。)をうかがいます。(○は1つ)

- 1 フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、育児、介護休業中ではない
  - 2 フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しているが、育児、介護休業中である
  - 3 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しており、育児、介護休業中ではない
  - 4 パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しているが、育児、介護休業中である
  - 5 以前は就労していたが、現在は就労していない
  - 6 これまで就労したことがない
- ⇒問13-1へ
- ⇒問13-3へ

問13-1 問13で「1」～「4」(就労している)に○をつけた方に関する情報がありませんか。(○は1つ)

以下の(1)、(2)の設問にお答えください。  
(1) 1週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間(残業時間を含む。)を数字でご記入ください。

※日数や時間が一定でない場合はもっとも多いパターンをお答えください。  
※育児、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。  
※時間は、24時間制でご記入ください。

1週当たり\_\_\_\_日 1日当たり\_\_\_\_時間

(2) 家を出る時刻と帰宅時刻について、数字でご記入ください。  
※時間が一定でない場合はもっとも多いパターンをお答えください。  
※育児、介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。  
※時刻は、24時間制でご記入ください。

家を出る時刻\_\_\_\_時\_\_\_\_分 帰宅時刻\_\_\_\_時\_\_\_\_分

**6 お子さんの土曜日、日曜日、祝日や長期休暇中の「定期的」な放課後児童クラブ等の子育て支援事業の利用希望についてうかがいます**

**問16** お子さんの土曜日、日曜日、祝日に、定期的な放課後児童クラブ等の子育て支援事業の利用(一時的な利用は除きます)の希望はありますか。(○は1つずつ)

※希望がある場合は、利用したい時間帯を数字でご記入ください。

※時間は、2時間制でご記入ください。

※これらの事業の利用には、一定の利用料がかかります。

(1) 土曜日

1 低学年(1～3年生)の間は利用したい → 利用したい時間帯  
2 高学年(4～6年生)になっても利用したい → 時台～時台  
3 利用する必要はない

(2) 日曜日、祝日

1 低学年(1～3年生)の間は利用したい → 利用したい時間帯  
2 高学年(4～6年生)になっても利用したい → 時台～時台  
3 利用する必要はない

**問17** 「放課後児童クラブ」を利用されている方にうかがいます。

お子さんの夏休み、冬休みなど長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用を希望しますか。

(○は1つ)

※希望がある場合は、利用したい時間帯を数字でご記入ください。

※時間は、2時間制でご記入ください。

※事業の利用には、一定の利用料がかかります。

1 低学年(1～3年生)の間はほぼ毎日利用したい  
2 高学年(4～6年生)になってもほぼ毎日利用したい  
3 低学年(1～3年生)の間は、週に数日利用したい ⇒ 間17-1へ  
4 高学年(4～6年生)になっても週に数日利用したい ⇒ 間17-1へ  
5 利用する必要はない

↑  
利用したい時間帯  
→ 時台～時台

**問17-1** 問17で「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。

毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 月に数回仕事が入るため  
2 買い物等の用事をまとめて済ませるため  
3 親族の介護や手伝いが必要なため  
4 息抜きのため  
5 その他 ( )

**問14-2** 平日に定期的に利用している子育て支援事業について、現在のどのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間(何時から何時まで)かを、数字でご記入ください。

※時間は、2時間制でご記入ください。

(1) 現在の利用状況

1 週当たり 日 1日当たり 時間 ( 時～ 時)

(2) 希望

1 週当たり 日 1日当たり 時間 ( 時～ 時)

**問14-3** 平日に定期的に子育て支援事業を利用されている理由についてうかがいます。

(○はいくつでも)

1 子どもの教育や発達のため  
2 子育て(教育を含む。)をしている者が現在就労している  
3 子育て(教育を含む。)をしている者が就労予定である/求職中である  
4 子育て(教育を含む。)をしている者が家族、親族などを介している  
5 子育て(教育を含む。)をしている者に病気や障がいがある  
6 子育て(教育を含む。)をしている者が学生である  
7 その他 ( )

**問14-4** 問14で「2」利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

平日に利用していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 (子どもの教育や発達のため、子どもの母親が父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない  
2 子どもの祖父母や親戚の人がみている  
3 近所の人や父母の友人、知人がみている  
4 利用したいが、満員で空がない  
5 利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない  
6 利用したいが、延長、夜間等の時間帯の条件が合わない  
7 利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない  
8 その他 ( )

**問15** 全ての方にうかがいます。

現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の子育て支援事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。(○はいくつでも)

※これらの事業の利用には、一定の利用料がかかります。

1 放課後児童クラブ(学童保育)  
2 ファミリー・サポート・センター(地域住民が子どもを預かる事業)  
3 その他 ( )

**問19-2** 問19-1で「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます。  
 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。  
 (○は1つ)  
 ※日数についても数字でご記入ください。  
 ※病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前に市が指定する医療機関の  
 委託が必要となります。

1 できれば病児・病後児保育施設等を利用したい	⇒ _____日	⇒問19-3へ
2 利用したいとは思わない		⇒問19-4へ

**問19-3** 問19-2で「1」できれば病児・病後児保育施設等を利用したいに○をつけた方にうかが  
 います。  
 上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思えますか。  
 (○はいくつでも)

1 幼稚園、保育所(園)等に併設した施設で子どもを保育する事業
2 小児科に併設した施設で子どもを保育する事業
3 地域住民が子育てで家庭の身近な場所で保育する事業
4 その他( )

**問19-4** 問19-2で「2」利用したいとは思わないに○をつけた方にうかがいます。  
 そう思う理由についてお答えください。(○はいくつでも)

1 病気の子どもを他人に看病してもらおうのは不安
2 地域の事業の質に不安がある
3 地域の事業の利便性(立地、利用可能時間、日数など)がよくない
4 利用料が必要である、高い
5 利用料がわからない
6 親が仕事を休んで対応する
7 その他( )

**問19-5** 問19-1で「3」～「7」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。  
 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看病したい」と思いましたか。  
 (○は1つ)  
 ※「3」～「7」のうち仕事を休んで看病したかった日数についても数字でご記入ください。

1 できれば仕事を休んで看病したい	⇒ _____日	⇒問20へ
2 休んで看病することは非常に難しい		⇒問19-6へ

**問19-6** 問19-5で「2」休んで看病することは非常に難しいに○をつけた方にうかがいます。  
 そう思う理由についてお答えください。(○はいくつでも)

1 子どもの看病を理由に休みがとれない
2 自営業なので休めない
3 休暇日数が足りないので休めない
4 その他( )

**問18** 放課後児童クラブ等の子育て支援事業を利用されている方にうかがいます。  
 お子さんについて、子育て支援事業の利用は、どの期間を主に希望しますか。(○は1つ)

1 通年で利用したい
2 長期の休み期間中(夏休み、冬休み)は利用したい
3 特に夏休みに利用したい
4 特に冬休みに利用したい
5 その他( )

**7 お子さんの病気の際の対応についてうかがいます  
 (放課後児童クラブ等の子育て支援事業を利用する方のみ)**

**問19** 問14で「1」利用しているに○をつけた方(平日の放課後児童クラブ等の子育て支援事業  
 を利用していると答えた保護者の方)にうかがいます。  
 ⇒利用していない方は、問20へ  
 この1年間に、お子さんが病気がけがで子育て支援事業が利用できなかったことはありませ  
 ぬか。(○は1つ)

1 あった	⇒問19-1へ	2 なかった	⇒問20へ
-------	---------	--------	-------

**問19-1** 問19で「1」あつたに○をつけた方にうかがいます。  
 お子さんが病気がけがで普段利用している放課後児童クラブ等の子育て支援事業が利用  
 できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどのようなことですか。  
 (○はいくつでも)  
 ※それぞれの日数も数字でご記入ください。  
 ※半日程度の対応の場合も1日として教えてください。

1年間の対処方法		日数
1 父親が休んだ		____日
2 母親が休んだ		____日
3 (同居者を含む)親族、知人に子どもをみてもらった		____日
4 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた		____日
5 ファミリー・サポート・センターの送迎等を利用した		____日
6 仕方なく子どもだけで留守番をさせた		____日
7 その他( )		____日

**8 お子さんの不定期の一時預かり等の利用についてうかがいます**

**問20** お子さんについて、日中の定期的な放課後児童クラブや病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。(〇はいくつでも)  
※1年間の利用日数についても数字でご記入ください。

利用している事業	年間日数
1 ファミリー・サポート・センター (地域住民が子どもを預かる事業)	____日
2 夜間等養護事業：トワイライトステイ (児童養護施設等で休日、夜間、子どもを保護する事業)	____日
3 その他( )	____日
4 利用していない ⇒問20-1へ	

**問20-1** 問20で「4 利用していない」に〇をつけた方にうかがいます。  
現在利用していない理由は向ですか。(〇はいくつでも)

- 1 特に利用する必要がない
- 2 利用したい事業が地域にない
- 3 地域の事業の質に不安がある
- 4 地域の事業の利便性(立地、利用可能時間、日数など)がよくない
- 5 利用料が必要である、高い
- 6 利用料がわからない
- 7 自分が事業の対象者になるのかわからない
- 8 事業の利用方法(手続等)がわからない
- 9 その他( )

**問21** お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。(あてはまる番号、記号全てに〇)  
※利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を数字で記入ください。  
※事業の利用には、一定の利用料がかかります。

利用希望	希望日数
1 利用したい	計 ____日
ア 私用(買い物、子ども(兄弟姉妹を含む。))や親の買い事など、息抜き目的	____日
イ 冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む。)や親の通院など	____日
ウ 不定期の就労	____日
エ その他( )	____日
2 利用する必要はない ⇒問22へ	

**問21-1** 問21で「1 利用したい」に〇をつけた方にうかがいます。

問21の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業  
(例：ファミリー・サポート・センター等)
- 2 夜間等養護事業：トワイライトステイ
- 3 その他( )

**問22** この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者、家族の病気など)により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありませんか。(預け先が見つからなかった場合も含みます。)  
※泊数についても数字でご記入ください。

有無 (〇は1つ)	1年間の対処方法(〇はいくつでも)	泊数
1 あった	ア (同居者を含む) 親族、知人にみてもらった	____泊
	イ 短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した(児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業)	____泊
	ウ 「イ」以外の保育事業(ファミリー・サポート・センター等)を利用した	____泊
	エ 仕方なく子どもを同行させた	____泊
	オ 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	____泊
2 なかった	カ その他( )	____泊

**問22-1** 問22で「1 あった ア (同居者を含む) 親族、知人にみてもらった」に〇をつけた方にうかがいます。

その場合の困難度はどの程度でしたか。(〇は1つ)

- 1 非常に困難
- 2 どちらかという困難
- 3 特に困難ではない

9 その他のことについてうかがいます

問23 市の子育てに関する情報をどのように入手していますか。(○はいくつでも)

- 1 市役所や市の機関
- 2 広報紙
- 3 市のウェブサイト(市のホームページ、きら鈴鹿)
- 4 友人
- 5 小学校
- 6 病院
- 7 情報の入手先がわからない
- 8 その他( )

問24 地域の関わりによどのようなことを期待しますか。(○はいくつでも)

- 1 子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる
- 2 いたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる
- 3 通学時に安全を確保してくれる
- 4 子どもにスポーツや遊びなどの指導をしてくれる
- 5 緊急時に子どもを一時的に預かってくれる
- 6 子育てについて気軽に相談のつてくれる
- 7 その他( )
- 8 特にない

問25 次の(1)～(3)の各項目についてお答えください。(○は1つずつ)

(1) 鈴鹿市において、「子育てが楽しいと感じる度合い」



(2) 鈴鹿市において、「仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い」



(3) 鈴鹿市において、「子育ての環境や支援に対する満足度」



問26 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がありましたら、自由にご記入ください。

.....

.....

.....

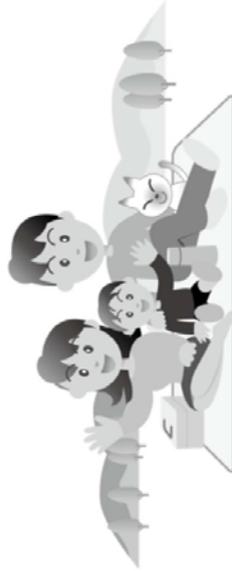
.....

調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。

切手を貼らずに同封の返信用封筒に入れ、

平成31年1月21日(月)までに

ポストへご投函ください。



## 鈴鹿市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査結果報告書

---

発行日 平成31年3月

発行元 鈴鹿市 子ども政策部 子ども政策課

〒513-8701

三重県鈴鹿市神戸一丁目18番18号

TEL 059-382-7661 (直通) FAX 059-382-9054

<http://www.city.suzuka.lg.jp>